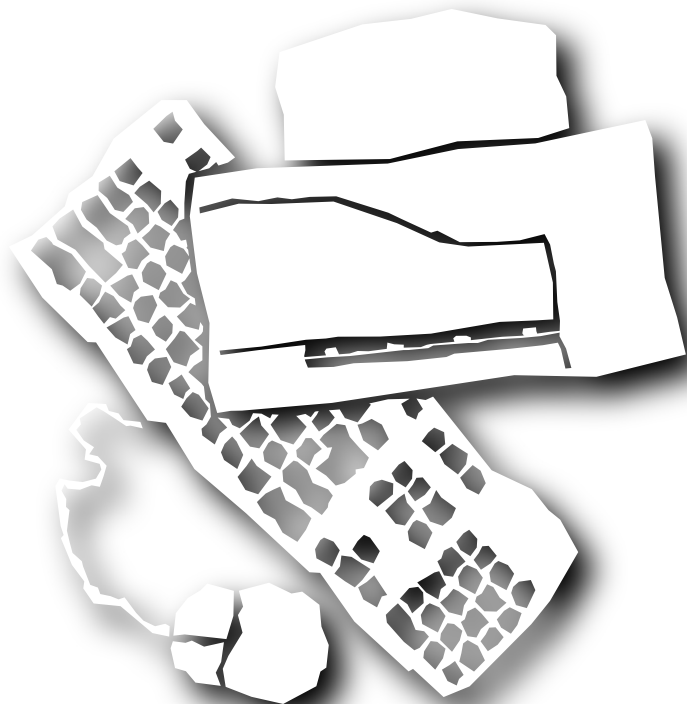


FMV SERIES

FMV-DESKPOWER TIX507



B3FH-4951-01

- ▷ 本パソコンの取り扱い
- ▷ オプション機器を使うには
- ▷ BIOSセットアップ
- ▷ 仕様一覧
- ▷ 付録
- ▷ 索引

FMV 本体 & オプションガイド

パソコン本体の取り扱い方法や
オプション機器の接続方法を説明しています。
プリンタやメモリを接続するときなど、
必要なときにお読みください。

5

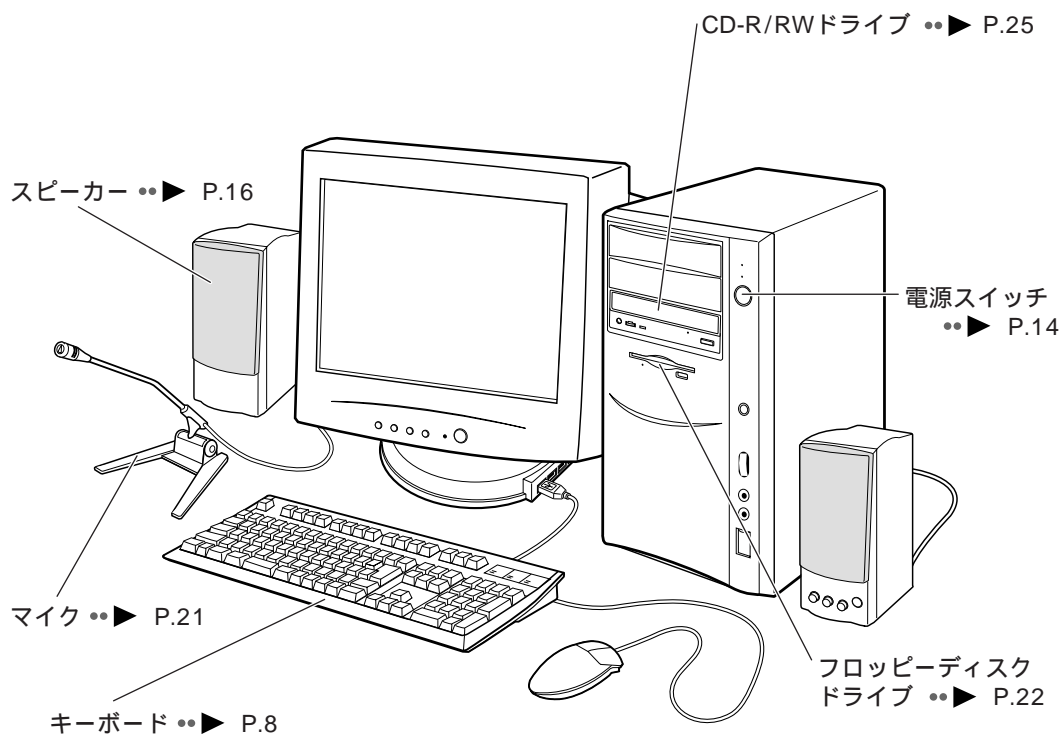
FUJITSU

『FMV 本体&オプションガイド』は、本パソコンの取り扱い方法や、別売りのオプション機器の取り付け方法について説明しています。

ここでは、本書の各章の内容を説明します。

第1章 本パソコンの取り扱い

本パソコンの各部の名称と働きや、取り扱い方法について説明しています。●▶P.1

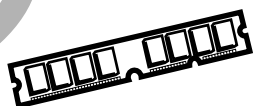


*お手入れのしかた ●▶ P.28

第2章 オプション機器を使うには

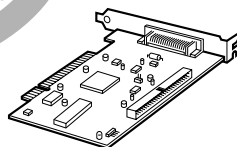
別売りのオプション機器の取り付け方法や設定方法について説明しています。●▶ P.31

パソコンの処理速度を
上げるには



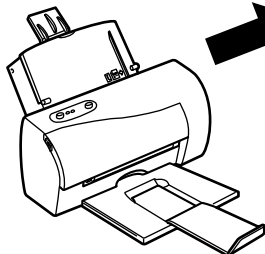
メモリ ●▶ P.46

パソコンの機能を
増やすには



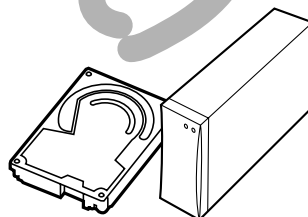
拡張カード ●▶ P.54

プリンタを
接続するには



プリンタ ●▶ P.35

パソコンの記憶容量を
増やすには



内蔵ハードディスク
外付けハードディスク
●▶ P.65

* その他のオプション機器を使う ●▶ P.101

第3章 BIOS セットアップ

BIOSセットアップの設定方法や設定をご購入時の状態に戻す方法、パスワードの設定方法などについて説明しています。●▶ P.107

日常にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

仕様一覧

本パソコンの仕様や、リソースについて説明しています。●▶ P.149

付録



ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストールや、その他の注意事項などについて説明しています。●▶ P.165

本書の表記について




安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	⓪で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面は一例です。お使いのモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

dir c:












この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

本来接続されているケーブル等を省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作する前に確認していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。  の中に番号がある場合は、マニュアルの表紙の番号を示しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows98
Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER TIX507	TIX507、本パソコン

目次

本書のご案内

本書の表記について

第1章 本パソコンの取り扱い

1. 各部の名称と働き	2
● パソコン本体前面	2
● パソコン本体背面	4
● パソコン本体内部	6
● マザーボード	7
● キーボード	8
2. 電源を入れる / 電源を切る	10
● 電源を入れる	10
● 電源を切る	12
● 電源スイッチについて	14
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	16
● スピーカーの各部の名称と働き	16
● スピーカー取り扱い上の注意	16
● スピーカーの音量を調節する	17
● ヘッドホンを使う	19
4. マイクを使う	21
● マイク取り扱い上の注意	21
5. フロッピーディスクを使う	22
● お使いになれるフロッピーディスク	22
● フロッピーディスク取り扱い上の注意	23
● フロッピーディスクをセットする / 取り出す	24
● フロッピーディスクのデータを守るには	24
6. CD-ROM を使う	25
● お使いになれる CD-ROM や音楽 CD	25
● CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意	25
● CD-ROM や音楽 CD をセットする / 取り出す	26
7. お手入れのしかた	28
● パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ	28
● マウスのお手入れ	28
● フロッピーディスクドライブのお手入れ	30

第2章 オプション機器を使うには

1. オプション機器を増設する前に	32
● 取り付けられるオプション機器	32
● オプション機器の接続にあたって	33
2. プリンタを接続する	35
● プリンタを接続するまで	35
● 必要なものを用意する	36
● プリンタを接続する	37
3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける	40
● サイドカバーを取り外す	40
● アッパーカバー / フロントパネルを取り外す	42
● フロントパネル / アッパーカバーを取り付ける	43
● サイドカバーを取り付ける	44
4. メモリを増やす	46
● メモリを増やすまで	46
● 必要なものを用意する	47
● メモリを取り付ける	49
5. 拡張カードを増設する	54
● 拡張カードを増設するまで	54
● 拡張カードを取り付ける前に	55

コラム

代表的な拡張カードの種類	55
PCI 拡張カードと ISA 拡張カード	56
リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは	59

● 拡張カードを取り付ける	60
6. ハードディスクを増設する	65
● ハードディスクを増設するまで	65
● ハードディスクを取り付ける前に	66

コラム

終端抵抗 (ターミネータ)	70
---------------------	----

● 内蔵ハードディスクを取り付ける	71
-------------------------	----

コラム

マスター / スレーブとは	78
ケーブルセレクトとは	78

● 外付けハードディスクを取り付ける	80
● 領域を設定する	83

コラム

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て	89
-----------------------------	----

● フォーマットする	90
------------------	----

7. ファイルスロットにオプション機器を取り付ける	94
● フロッピーディスクドライブを取り付ける	95
● 内蔵 SCSI オプション機器を取り付ける	98
8. その他のオプション機器を使う	101
● MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	101
● スキャナを使う	102
● ターミナルアダプタを接続する	103
● USB 機器を接続する	104
● マルチモニタ機能を使う	104

コラム

プライマリモニタとセカンダリモニタ	106
-------------------------	-----

第3章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	108
2. BIOS セットアップの操作のしかた	109
● BIOS セットアップを起動する	109
● 設定を変更する	110
● BIOS セットアップを終了する	112
3. ご購入時の設定に戻す	113
4. BIOS セットアップメニューの詳細	115
● Main	115
● Advanced	117
● Security	129
● Power	130
● Boot	133
● Exit	136
● Maintenance	137
5. パスワードを使う	138
● パスワードの種類	138
● パスワードを設定する	138
● パスワードを忘れてしまったら	140
● パスワードを変更する	142
● パスワードを削除する	142
6. CMOS RAM の内容を消去する	143
7. BIOS が表示するメッセージ一覧	145
● メッセージが表示されたときは	145
● メッセージ一覧	145

仕様一覧

1. 仕様一覧	150
● パソコン本体	150
● 表示できる解像度と発色数	151
● FAX / ボイスモデムカード	153
● サウンドカード	154
● スピーカー	154
● CD-R/RW ドライブ	155
2. 本パソコンのリソースについて	156
● リソース一覧	156
● リソースを解放する	158
3. コネクタのピン配列と信号名	161
● 本体のコネクタ仕様	161
● 本体のコネクタ / 端子で使用できるケーブル	163

付録

1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール.....	166
● インストールのときに気を付けること	166
● ディスプレイドライバをインストールする	167
● サウンドドライバをインストールする	171
2. コアの取り付け	178
3. 内蔵ドライブのジャンパ設定	179
4. その他の注意事項	180
● IDE デバイスを増設するときの注意	180
● 復電機能をお使いになるうえでの注意	180
● ケーブルを接続し直すときの注意	181
● 市販の MIDI 機器を接続するには	181
● ACPI について	182

索引	187
----------	-----

1

本パソコンの取り扱い

パソコン本体やキーボードなどの取り扱い方法やお手入れのしかた、各部の名称などについて説明しています。

1. 各部の名称と働き	2
2. 電源を入れる / 電源を切る	10
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	16
4. マイクを使う	21
5. フロッピーディスクを使う	22
6. CD-ROM を使う	25
7. お手入れのしかた	28

1

各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、マザーボード、キーボードの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面

BUSYランプ

ディスクからデータを読み込んだり、ディスクにデータを書き込んだりしているときに点灯します。

ヘッドホンボリューム（音楽CDのみ）

本パソコンでは通常、お使いになる必要はありません。

ヘッドホン端子（音楽CDのみ）

本パソコンでは通常、お使いになる必要はありません。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクにアクセスしているときに点灯します。

フロッピーディスクドライブ（●▶ P.22）

フロッピーディスクをセットしデータを読み書きします。

ヘッドホン端子

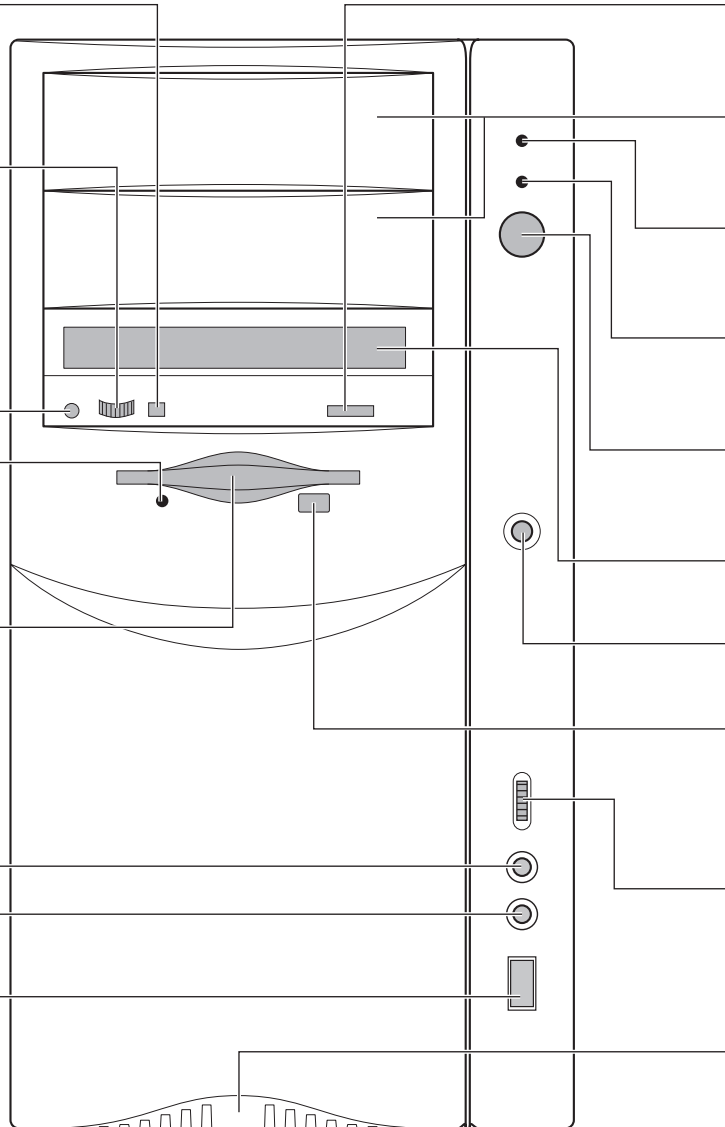
市販のヘッドホン（●▶ P.19）を接続します。

マイク端子1

マイクを接続します。この端子にマイクを接続したとき、背面のマイク端子2は使えません。

USBコネクタ

USB機器（●▶ P.104）を接続します。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。



用語 USB (ユーエスビー)

Universal Serial Bus の略で、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、ターミナルアダプタ、スピーカーなどの機器を接続するための規格です。

EJECTボタン

CD-R/RWドライブにCD-ROMや音楽CDなどをセットするとき、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

ファイルスロット (●▶ P.94)

フロッピーディスクドライブや、MO (光磁気ディスク) ドライブなどのファイルスロットオプションを取り付けます。

ハードディスクアクセス表示ランプ

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

電源スイッチ (●▶ P.14)

パソコン本体の電源を入れるときや、スタンバイにするとき、またはスタンバイから復帰させるときに押します。

CD-R/RWドライブ (●▶ P.25)

CD-ROMのデータやプログラムを読み出したり、音楽CDを再生したりします。

リセットスイッチ

メモリ内のデータを消去して、Windows98などのOSを再び読み込ませるときに押します。通常の作業では使いません。リセットスイッチを押すと、スピーカーやヘッドホンから異音があります。音量ボリュームを最小にしてからお使いください。

フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

音量ボリューム (●▶ P.17)

スピーカー、ヘッドホンの音量を調節します。

通風孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

パソコン本体背面

アウトレット
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

インレット
パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

マウスコネクタ
マウスを接続します。
本パソコンでは通常、お使いになる必要はありません。

キーボードコネクタ
キーボードを接続します。
本パソコンでは通常、お使いになる必要はありません。

USBコネクタ
ディスプレイのUSBケーブルを接続します。

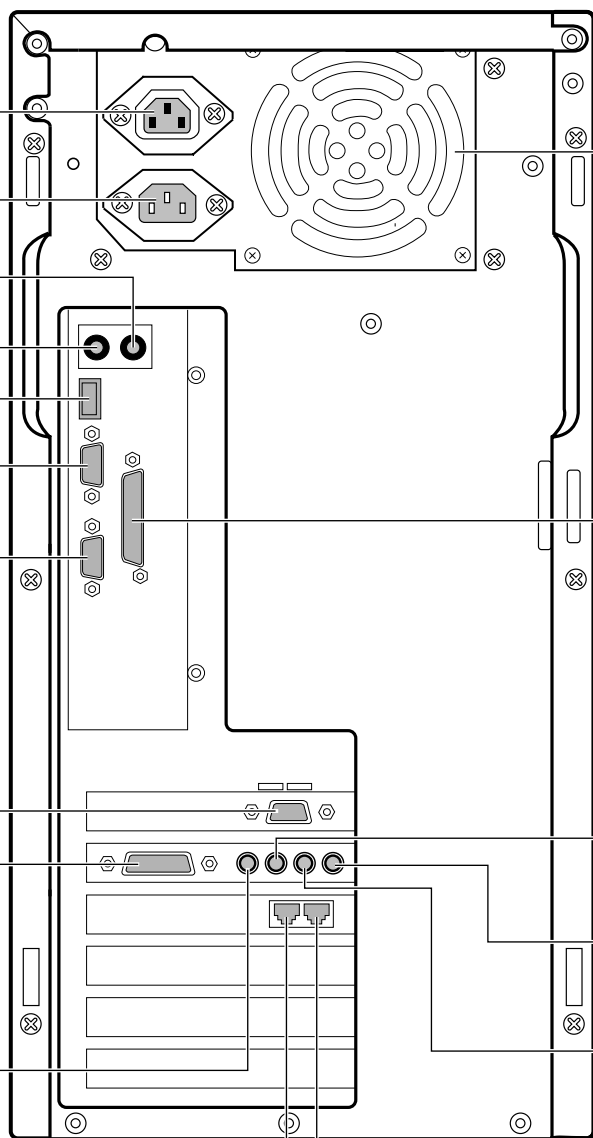
シリアルコネクタ (COM1)
ターミナルアダプタ (●▶ P.103)、デジタルカメラ、IRコマンドなどRS-232C規格に対応した機器のケーブル (D-SUB9ピン) を接続します。シリアルポートともいいます。

シリアルコネクタ (COM2)
本パソコンに取り付けられているFAX/ボイスモデムカードは、COM2を使っています。そのため、このシリアルコネクタはお使いになれません。

ディスプレイコネクタ
ディスプレイケーブルを接続します。

MIDI/JOYSTICK端子
MIDIケーブルやジョイスティックを接続します。

SPK OUT端子
添付されているスピーカー (●▶ P.16) を接続します。



通風孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすための開孔部です。ふさがらないでください。

パラレルコネクタ
プリンタ（●▶ P.35）やスキャナ（●▶ P.102）などのケーブルを接続します。パラレルポートともいいます。

LINE OUT端子
オーディオ機器の入力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

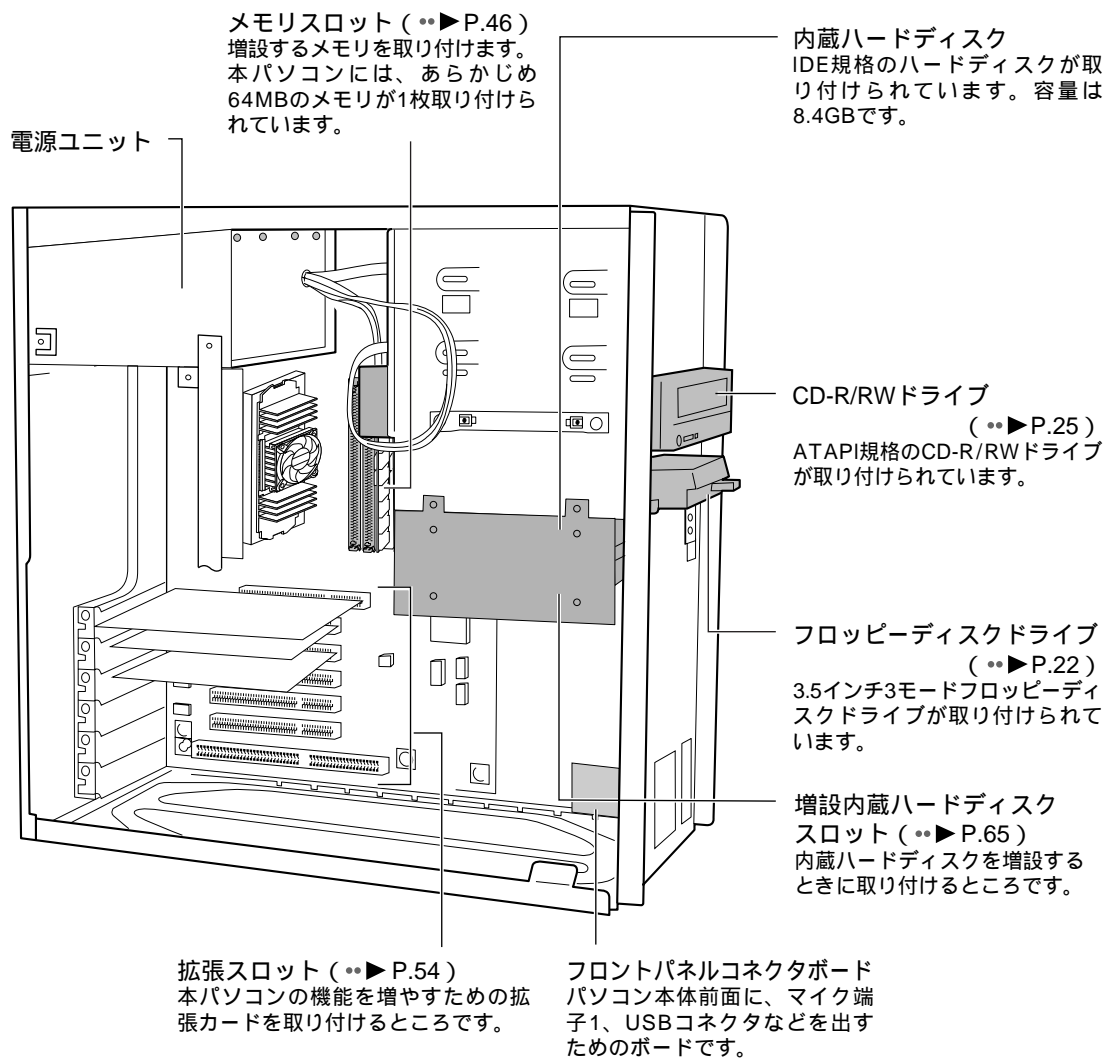
LINE IN端子
オーディオ機器の出力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

マイク端子2
添付されているマイク（●▶ P.21）を接続します。
本体前面のマイク端子1にマイクを接続しているときは、この端子は使えません。

PHONE端子
電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

LINE端子
電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

パソコン本体内部



用語 IDE (アイディーイー)

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。
マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

用語 ATAPI (アタピー)

CD-ROMドライブなど、ハードディスク以外のドライブをIDE規格のコネクタに接続して使うための規格です。
本パソコンには、ATAPI規格のCD-R/RWドライブが内蔵されています。

マザーボード

CPU
Pentium® processorが取
り付けられています。

↑: 1番ピンの位置

1

本パソコンの取り扱い扱い(各部分の名称と働き)

メモリスロット(●▶P.46)
増設するメモリを取り付けます。
左からBANK0、BANK1、
BANK2です。

セカンダリIDEコネクタ
あらかじめ取り付けられてい
るCD-R/RWドライブのフラッ
トケーブルが接続されています。

プライマリIDEコネクタ
あらかじめ取り付けられてい
るハードディスクのフラッ
トケーブルが接続されています。

フロッピーコネクタ
フロッピーディスクドライ
ブのケーブルが接続されていま
す。

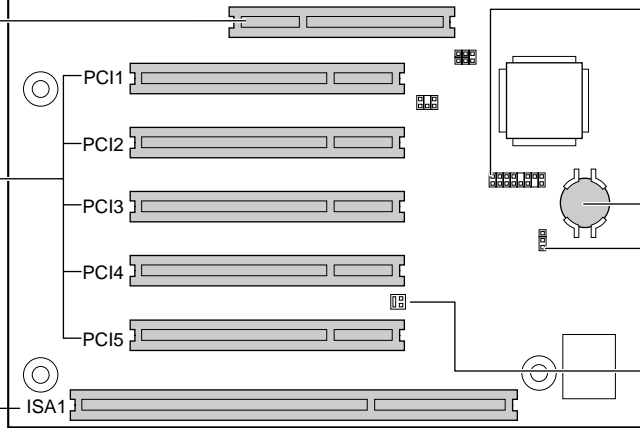
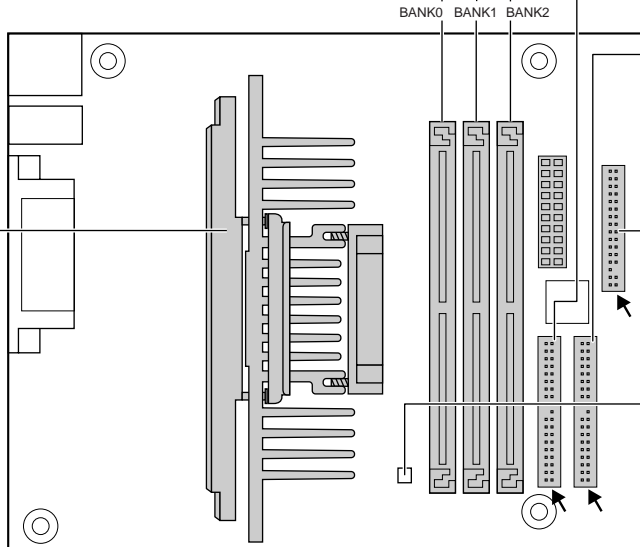
メモリスロット電源供給ランプ
メモリスロットに電源が供給
されているときは、ランプが
点灯します。

フロントUSBコネクタ
フロントパネルコネクタポ
ードのケーブルが接続されてい
ます。

バッテリー
本パソコンのBIOSセットアッ
プの設定を保存するためのバッ
テリーです。標準の使用状態で
約6年間使用できます。

J7B1ジャンプスイッチ
パスワードを消去したり、
CMOS RAMの内容を消去し
たりする(●▶P.143)とき
に、ジャンプセッティングを
行います。

On Modem Ringコネクタ
モデムカードのケーブルが接
続されています。
モデムカードのケーブルを他
のコネクタに接続しないでく
ださい。故障の原因となりま
す。



ISAスロット
ISA拡張カードを取り付けます。
PCI5と取り付けスペースを共有しています。

PCIスロット
PCI拡張カードを取り付けます。図中の上からPCI1~5と並んでい
ます。
PCI5は、ISA1と取り付けスペースを共有しています。

AGPスロット
AGP規格のビデオカードを取り付けます。

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。
本パソコンのキーボードは「109キーボード」というタイプのキーボードです。
キーボードは、ディスプレイのUSBコネクタ（●▶『取扱説明書』）に接続します。

F（ファンクション）キー
アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc（エスケープ）キー
作業を取り消すときに使います。

**Caps Lock（キャプスロック）
英数キー**
アルファベットを入力するときに、**[Shift]**を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

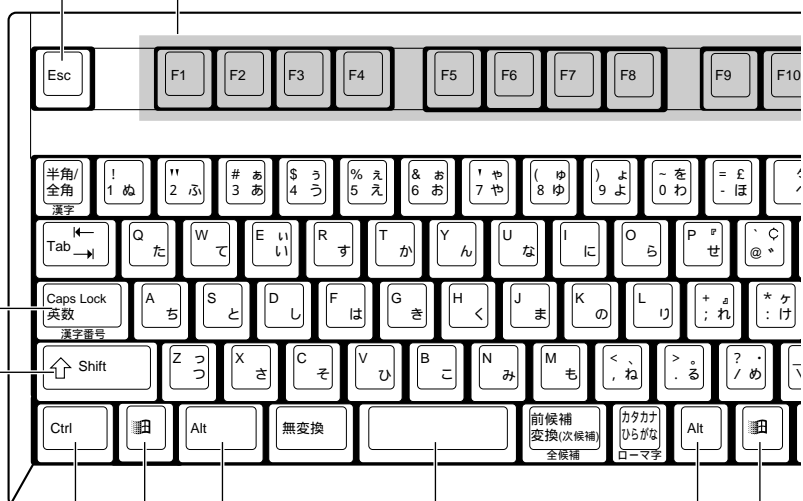
Shift（シフト）キー
他のキーと組み合わせて使います。**[Shift]**を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

Scroll Lock（スクロールロック）キー
画面がスクロールしないようにするときに押します。

Print Screen（プリントスクリーン）キー
画面表示をビットマップファイルにするときに押します。
詳しくは『困ったときのQ&A』の「気に入った画面を保存しておきたい」をご覧ください。

Insert（インサート）キー
入力する文字の挿入/上書きを切り替えるときに押します。

Back space（バックスペース）キー
カーソルの左側の文字を削除するときに押します。



空白（スペース）キー
空白を入力するときに押します。

Alt（オルト）キー
他のキーと組み合わせて使います。

Windows（ウィンドウズ）キー
「スタート」メニューを表示するときに押します。

Application（アプリケーション）キー
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl（コントロール）キー
他のキーと組み合わせて使います。

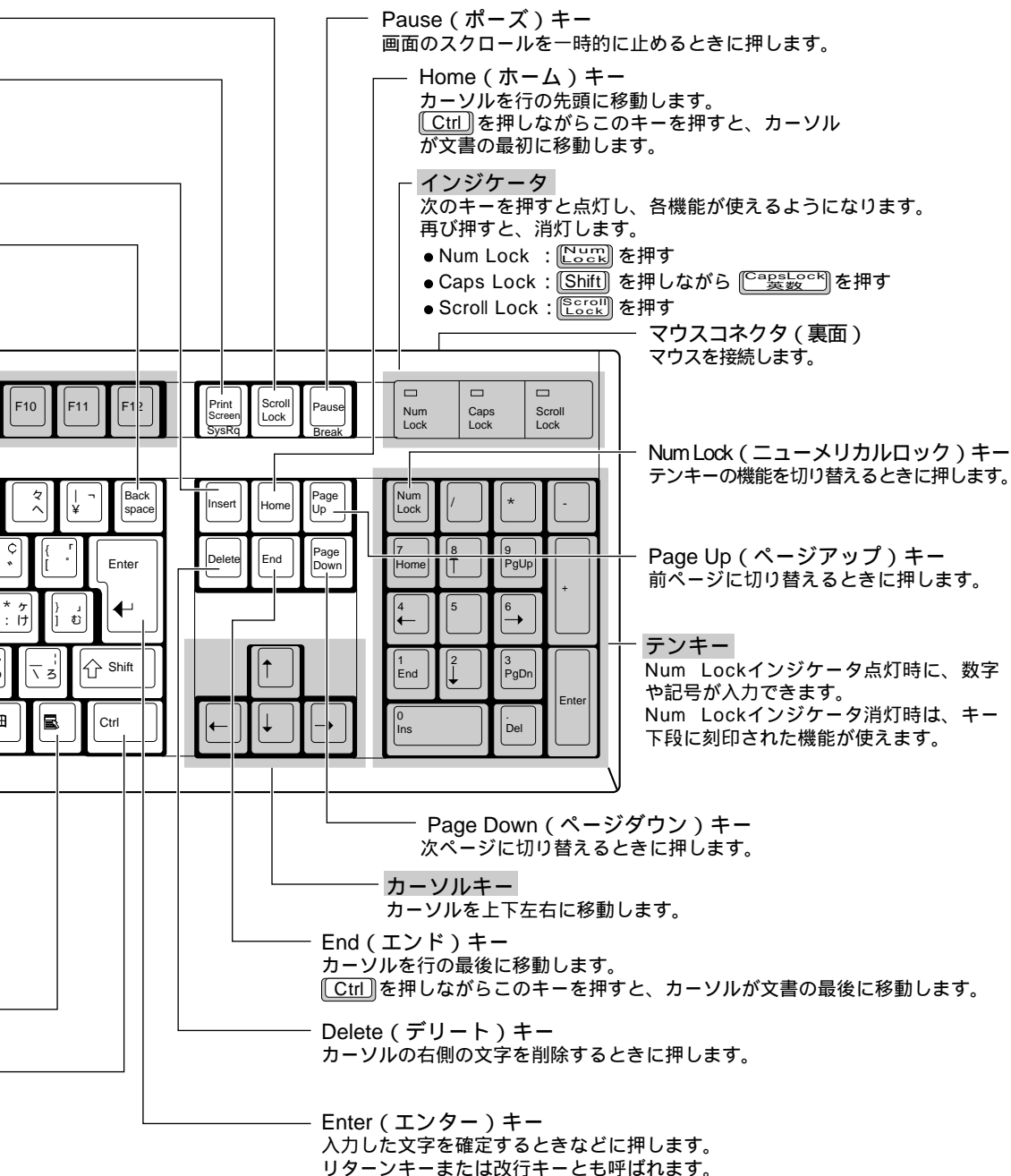
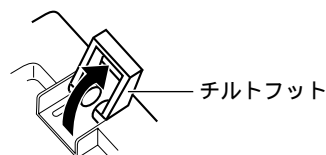
アドバイス

キー動作は異なることがあります

アプリケーションによって、キー動作が異なることがあります。
ここでは一般的なキー動作を説明しています。

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。



2

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、本パソコンの電源の入れかたと切りかたについて説明します。

⚠ 注意



- けが
- フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
 - CD-ROMなどをセットまたは取り出すときは、CD-R/RWドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

電源を入れる

重要

電源を入れるときの注意

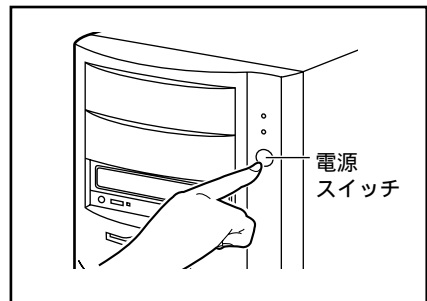
電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください。10秒以内に再び電源を入れると、本パソコンが正常に起動しないことがあります。

1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
セットされているときは、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、フロッピーディスクを取り出してください。



3 本体前面にある電源スイッチを押します。
ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが点灯します。
しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器の電源を入れる前にパソコン本体の電源を入れてしまうと、Windows 98が正常に機器を認識できない場合があります。Windows 98が完全に起動するのを待って、以下の手順に従って操作してください。

- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

ディスプレイの電源を入れる必要はありません

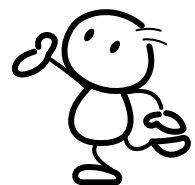
『取扱説明書』に記載されているとおり、ディスプレイ用電源ケーブルをパソコン本体に接続している場合は、はじめにディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになります。ディスプレイの電源プラグを別のコンセントに差し込んでいる場合は、パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れてください。

電源スイッチを押しても Windows 98 が起動しないときは

パソコン本体の電源スイッチを押しても Windows 98 が起動せず、英語のメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(●▶ P.145) をご覧ください。

- 4** スピーカーを使うときは、右スピーカーの電源スイッチを押してスピーカーの電源を入れます。

しばらくすると、Windows 98 の画面が表示されます。



電源を切る

重要

電源スイッチは押さないでください

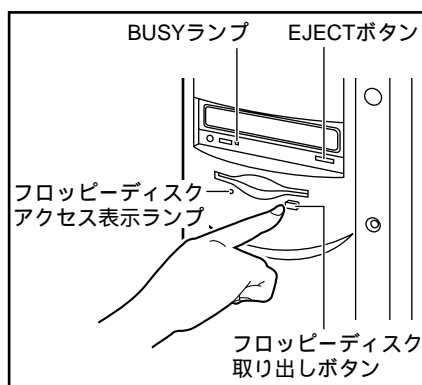
本パソコンの電源を切るときは、Windows98上で操作します。
パソコン本体前面の電源スイッチは、通常は使わないでください。

必ずアプリケーションを終了してください

アプリケーションを起動したままWindows98を終了すると、本パソコンが正常に終了できなかったり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

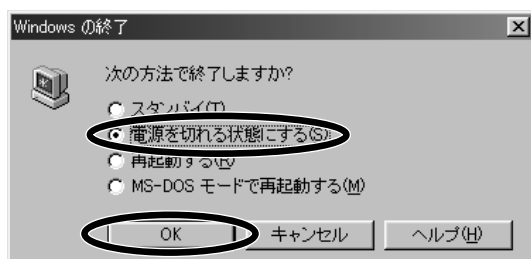
- 2 フロッピーディスクやCD-ROMなどがセットされているときは取り出します。
フロッピーディスクアクセス表示ランプ、またはBUSYランプが消えていることを確認してから、取り出してください。



- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。



- 4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。



パソコン本体とディスプレイの電源が自動的に切れます。

アドバイス

フロッピーディスクがセットされていると終了できません

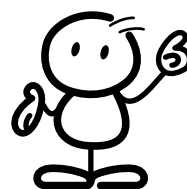
「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示された場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 4 から操作し直してください。

ディスプレイの電源を切る必要はありません

『取扱説明書』に記載されているとおりに、ディスプレイ用電源ケーブルをパソコン本体に接続している場合は、はじめにディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになっています。従って、パソコン本体の電源を切ると、ディスプレイの電源も切れます。

ディスプレイの電源プラグを別のコンセントに差し込んでいる場合は、パソコン本体の電源が切れたあと、ディスプレイの電源を切ってください。

- 5 スピーカーをお使いのときは、右スピーカーの電源スイッチを押して電源を切ります。
- 6 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。



電源スイッチについて

電源スイッチは、通常は次のときに使います。

- パソコンの電源を入れるとき（**▶P.10）
- パソコンをスタンバイ（電力消費を抑えて、画面の表示が消えた状態）にするとき
- パソコンを、スタンバイから元の状態に戻すとき

スタンバイ機能について

Windows98が起動したあとに電源スイッチを押すと、スタンバイ（電力消費を抑えている状態）となり、画面が真っ暗になります（パソコン本体とディスプレイの電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります）。

元の状態に戻すには、もう一度電源スイッチを押します。しばらくすると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプが緑色に点灯し、画面が再び表示されます。

電源スイッチを4秒以上押し続けると

パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れます。

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときなどに、この方法で本パソコンの電源を切ってください。

なお、アプリケーションの強制終了のしかたについて詳しくは、[④『困ったときのQ&A』](#)の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ったあとは、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合には、再び電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

再び電源を入れるときは、10秒ほど待ってから電源スイッチを押してください。

通常の場合は「電源を切る」（**▶P.12）の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ると、本パソコンが故障する原因となることがあります。

重要

次の場合は電源スイッチを押さないでください

- 電源を入れたら、Windows98が完全に起動してデスクトップ画面が表示され、ハードディスクアクセス表示ランプ（**▶P.3）が消えるまで、電源スイッチを押さないでください。Windows98の起動途中に電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しない場合があります。
- ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプ（**▶P.2）が点灯しているときは、電源スイッチを押さないでください。
- 動画や音声・音楽データの再生中に電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しないことがあります。動画や音声・音楽データの再生を終了させてから、電源スイッチを押してください。
- 通信中は電源スイッチを押さないでください。通信を終了させてから、電源スイッチを押してください。

電源スイッチを連続して押さないでください

電源スイッチは連続して押さないでください。連続して押すとスタンバイ機能が正しく動作しない場合があります。

電源スイッチを4秒以上押ししても電源が切れないときは

ソフトウェアが何らかの理由で正しく動かなくなり、電源スイッチを4秒以上押ししても電源が切れないときは、リセットスイッチを押し、すぐに電源スイッチを4秒以上押し続けて、電源を切ってください。

電源スイッチで電源を切ったときは

電源スイッチ以外（Modem Ringなど）では、電源が入らないことがあります。

アドバイス

画面が真っ暗になった場合

本パソコンの電源を入れた状態で約30分操作しないと、自動的にスタンバイ機能が働いて画面が真っ暗になり、パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に変わります。このときは、電源スイッチを押すと、画面が再び表示されます。

1

本パソコンの取り扱い（電源を入れる／電源を切る）

3

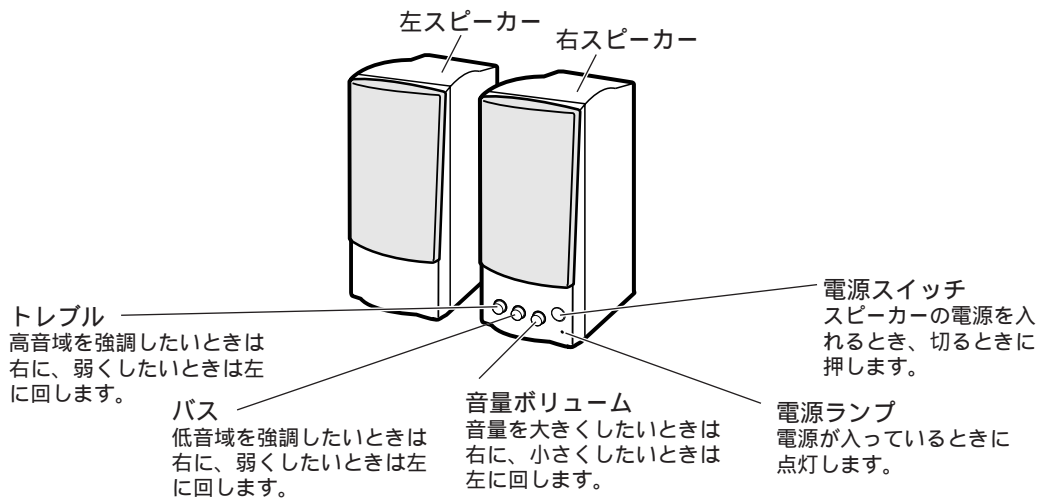
スピーカー / ヘッドホンを使う

スピーカーは、パソコン本体背面の SPK OUT 端子 (**▶P.4) に接続します。

接続方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

ここでは、スピーカーの各部の名称と働きや、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。

スピーカーの各部の名称と働き



スピーカー取り扱い上の注意

スピーカーをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーを使うときは、スピーカーの電源を入れてください。また、使わないときは、電源を切っておいてください。
- スピーカーはディスプレイから離して設置してください。スピーカーをディスプレイの近くに置くと、ディスプレイの画像が乱れる原因となることがあります。
スピーカーから音が出ている状態で、ディスプレイに影響が出なくなるところまで離してお使いください。
- スピーカーの上に重いものをのせないでください。
- スピーカー用のACアダプタは、風通しのよいところに、ディスプレイから離して設置してください。
- ACアダプタは、必ずスピーカーに接続してからコンセントに接続してください。

スピーカーの音量を調節する

音量は、次の3つの方法で調節できます。

- パソコン本体前面の音量ボリュームを使う
- スピーカーの音量ボリュームを使う
- 画面の音量つまみを使う

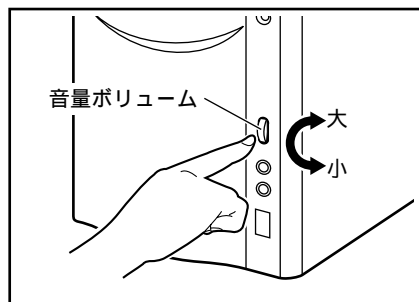
それぞれの音量調節は相互に関係があります。

たとえば、3つのうちどれか1つでも音量を最小にすると、他の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、すべての音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。

ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

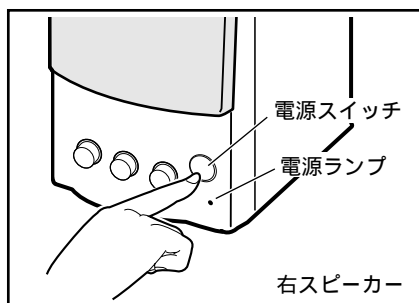
パソコン本体前面の音量ボリュームを使う

- 1 パソコン本体前面右下の音量ボリュームを回して、適切な音量に調節します。
上に回すと大きく、下に回すと小さくなります。

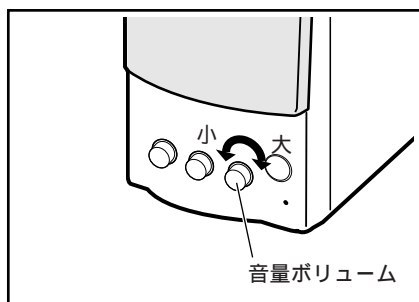


スピーカーの音量ボリュームを使う


- 1 右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。
スピーカーの電源ランプが点灯します。

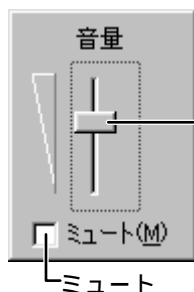


- 2 スピーカーの音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。
右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。




画面の音量つまみを使う

- 1 タスクバーの  (音量) をクリックします。
音量つまみが表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、
上にドラッグすると音が大きくなります。

ここをクリックして にすると音が消え、タスクバーの表示が  に変わります。
もう一度クリックして にすると元の音量に戻ります。


- 3 デスクトップの何も無いところをクリックします。
音量つまみが閉じます。
閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何も無いところをクリックしてください。

アドバイス

その他の音量調節のしかた

「再生コントロール」ウィンドウの再生コントロールのつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できません。

「再生コントロール」ウィンドウの表示方法は次の2つです。

- タスクバーの  (音量) をダブルクリックする
- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックする

「再生コントロール」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- 再生コントロール : パソコン全体の音量
- MIDI : MIDI の音量
- Wave : Wave ファイルの音量
- CD : 音楽CD の音量
- ライン イン : LINE IN 端子に接続した機器の音量

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切るとご購入時の状態に戻ることがあります。

スピーカーから音が聞こえないときは

スピーカーから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

スピーカーが正しく接続されているか

スピーカーは、パソコン本体背面の SPK OUT 端子（●▶P.4）に接続します。


正しく接続されているか確認してください。また、左右のスピーカーが正しく接続されているか、スピーカーのACアダプタがコンセントに接続されているかも確認してください。スピーカーの接続方法について詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

スピーカーの電源が入っているか

スピーカーの電源ランプ（●▶P.16）が点灯しているか確認してください。点灯していないときは、スピーカーの電源スイッチ（●▶P.16）を押して、スピーカーの電源を入れてください。

適切な音量になっているか

パソコン本体前面の音量ボリューム（●▶P.3）、スピーカーの音量ボリューム（●▶P.17）または画面の音量つまみ（●▶P.18）が、適切な音量に調節されているか確認してください。

また、画面の音量つまみのミュートが になっている（タスクバーに  と表示されている）と音は聞こえません。 をクリックして にしてください。

ヘッドホンが接続されていないか

ヘッドホンがパソコン本体前面のヘッドホン端子（●▶P.2）に接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドホンを取り外してください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子（●▶P.2）に接続します。

⚠ 注意

聴力障害



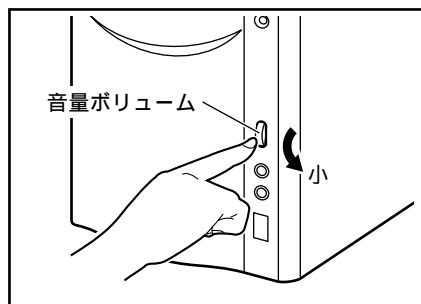
ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害

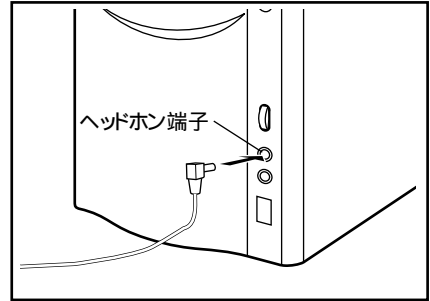


ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

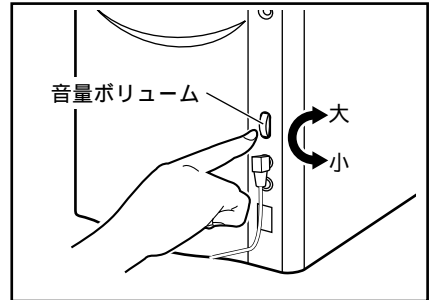
- 1 パソコン本体前面右下の音量ボリュームを下いっばいに回して、音量を最小にします。



- 2** ヘッドホンのプラグをパソコン本体前面右下のヘッドホン端子に差し込みます。
2つ並んでいる差し込み口の上側です。
ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音が聞こえなくなります。



- 3** 音量ボリュームで適切な音量に調節します。
上に回すと大きく、下に回すと小さくなります。



ヘッドホンから音が聞こえないときは


ヘッドホンから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

ヘッドホンが正しく接続されているか

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子(●▶P.2)に接続します。正しく接続されているか確認してください。

適切な音量になっているか

パソコン本体前面の音量ボリューム(●▶P.3)または画面の音量つまみ(●▶P.18)のどちらかの音量が最小になっていると、ヘッドホンからの音は聞こえません。適切な音量に調節されているかを確認してください。

また、画面の音量つまみのミュートが になっている(タスクバーに  と表示されている)と音は聞こえません。 をクリックして にしてください。

4

マイクを使う

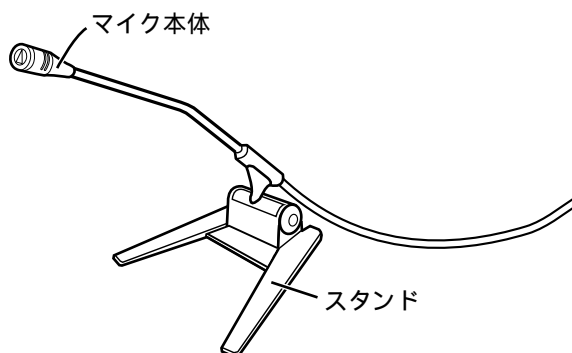
本パソコンでは、マイクを使って録音できます。

マイクはパソコン本体前面のマイク端子1(●▶P.2)か、パソコン本体背面のマイク端子2(●▶P.5)のどちらかに接続します。

マイク端子1にマイクを接続したとき、本体背面のマイク端子2は使えません。

ここでは、マイクの取り扱い上の注意について説明します。

マイク取り扱い上の注意



マイクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーから離してお使いください。ハウリング(キーンと音がすること)を起こす場合があります。
- マイクに向かって録音するときは、マイクと口との距離が15～30cmの範囲になるようにお使いください。
- マイクの先を手に持たないでください。

録音方法については、[4](#)『困ったときのQ&A』の「マイクを使って音声を録音したい」をご覧ください。

アドバイス

市販のマイクをお使いになる場合

市販のマイクをお使いになるときは、アンプ付きのマイク、またはマイクアンプをお使いください。

5

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出ししかたなどについて説明します。

お使いになれるフロッピーディスク

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの各記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクがお使いになれるます。ただし、1.2MBにフォーマットすることはできません。

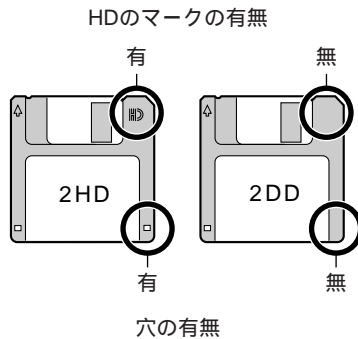
2HD フロッピーディスク

1.44MB（メガバイト）、1.2MBの記憶容量のものです。

2DD フロッピーディスク

2HD フロッピーディスク（1.44MB）の半分の720KB（キロバイト）の記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下の図のような違いがあります。



なお、フロッピーディスクのフォーマット方法については、『[1](#) かるがるパソコン入門』の「フロッピーディスクを使うには」をご覧ください。

用語 MB（メガバイト）

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M（メガ）は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで扱われる単位には、他にKB（キロバイト）、GB（ギガバイト）があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス**データを読み出せないことがあります**

同じ記憶容量のフロッピーディスクでも、フォーマットした環境（機種、ソフトウェア）が違っていると、フロッピーディスクのデータを読み出せないことがあります。

また、他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクは、お使いになれないことがあります。

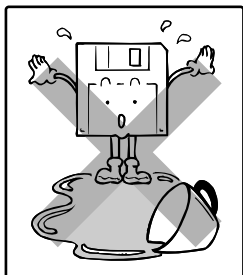
フォーマット済みのフロッピーディスクをご購入の場合は

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものを、ご購入ください。

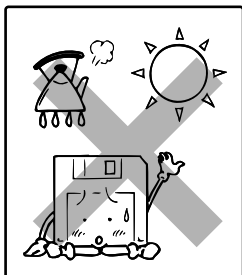
他の形式（Macintoshフォーマットなど）でフォーマットされたフロッピーディスクをご購入されたときは、本パソコンで再フォーマットしてください。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

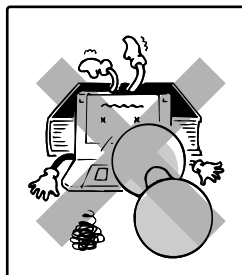
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



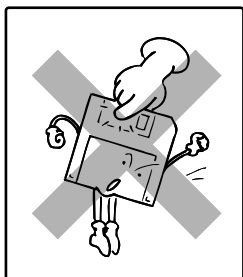
コーヒーなどの液体をかけないでください。



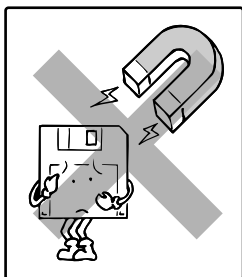
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



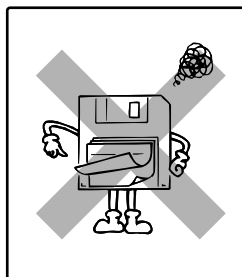
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す

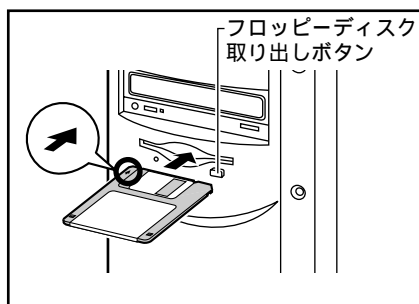
⚠ 注意



けが フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 矢印のある面を上にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



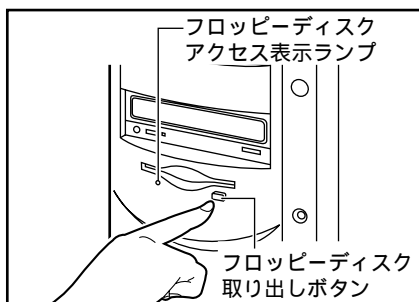
取り出す

重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが壊れるおそれがあります。

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。フロッピーディスクが出てきます。

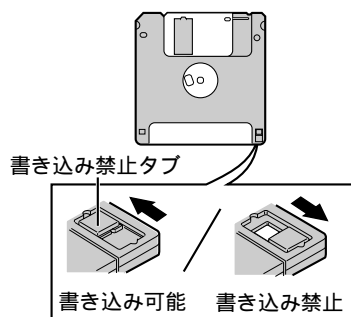


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態（書き込み禁止の状態）にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、フロッピーディスクに強い磁気を帯びたものを近づけると、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。磁石など、強い磁気を帯びたものを近づけないでください。



6

CD-ROM を使う

本パソコンの CD-R/RW ドライブには、次の 3 つの働きがあります。

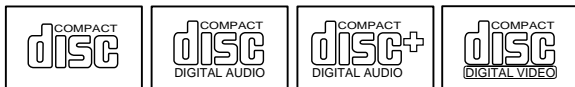
- CD-ROM や音楽 CD の再生 (読み出し)
- CD-R (CD-Recordable) ディスクへのデータの書き込みや再生 (読み出し)
- CD-RW (CD-ReWritable) ディスクへのデータの書き込みや再生 (読み出し)

ここでは、CD-ROM や音楽 CD の取り扱いについて説明します。

CD-R ディスクや CD-RW ディスクの取り扱いについては、『CD-R/RW を使おう』をご覧ください。

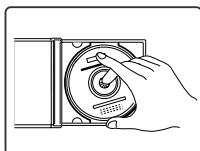
お使いになれる CD-ROM や音楽 CD

本パソコンでは、下図のマークがついた CD-ROM や音楽 CD (12cm、8cm) がお使いになれます。

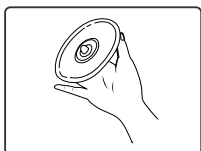


CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意

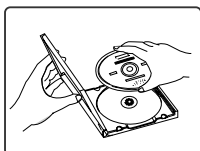
CD-ROM や音楽 CD をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



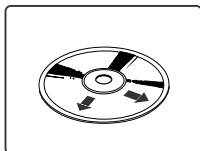
ケースから CD-ROM や音楽 CD を取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



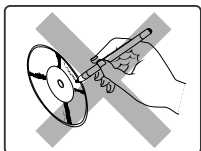
データ面 (裏面) に触れないように CD-ROM や音楽 CD のふちを持つようにしてください。



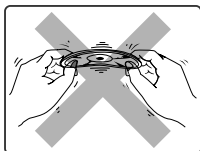
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



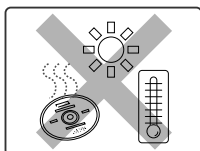
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



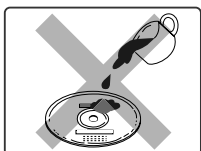
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



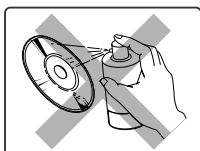
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

アドバイス


CD-ROM が結露したときは

CD-ROM の表面に水滴が付いて、CD-R/RW ドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布でキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。

CD-ROM や音楽CD をセットする / 取り出す

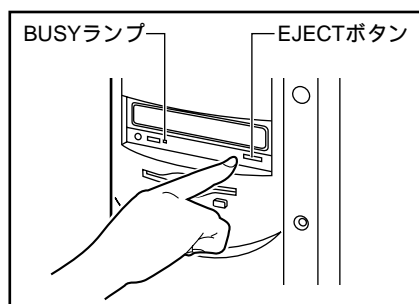
CD-ROM や音楽CD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。ここでは、CD-ROM や音楽CD のセットのしかた、取り出しのかたについて説明します。

⚠ 注意

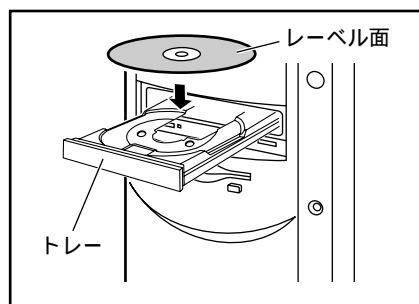
けが  CD-ROM や音楽CD をセットまたは取り出すときには、CD-R/RW ドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

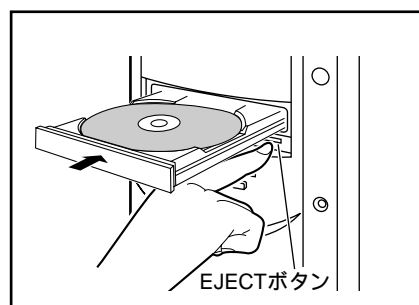
- 1 EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽CD をセットするトレーが出てきます。



- 2 CD-ROM や音楽CD のレーベル面（印刷側）を上にして、トレーの中央に置きます。
トレーにしっかり収まるように置いてください。



- 3 EJECT ボタンを押します。
トレーがパソコン本体に戻ります。CD-ROM や音楽CD がセットされ、BUSY ランプが点灯します。
BUSY ランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



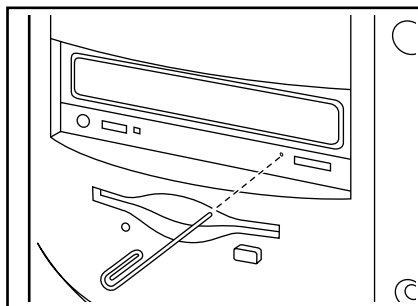
取り出す

- 1 CD-ROM を使っているアプリケーションがあれば終了します。
- 2 BUSY ランプが消えていることを確認します。
- 3 EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽 CD がセットされたトレーが出てきます。
- 4 CD-ROM や音楽 CD を取り出します。
- 5 EJECT ボタンを押します。
トレーがパソコン本体に戻ります。

CD-ROM や音楽 CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、以下の手順でCD-ROM や音楽 CD を取り出してください。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
電源の切りかたについては、「電源を切る」(●▶P.12) をご覧ください。
- 2 用意した針金を、EJECT ボタンの左横にある穴に差し込みます。
まっすぐに、少し力を込めて差し込んでください。
トレーが少し飛び出します。



- 3 トレーを手前に引き出して、CD-ROM や音楽 CD を取り出します。

7

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ

重要

お手入れ前に行うこと

感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、パソコン本体とディスプレイの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボードに水が入らないよう十分に注意してください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、本パソコンの通風孔（本体前面下 / 本体左側面下 / 本体背面）にほこりがたまらないよう、掃除機などでほこりを吸い取ってください。

マウスのお手入れ

重要

お手入れ前に行うこと

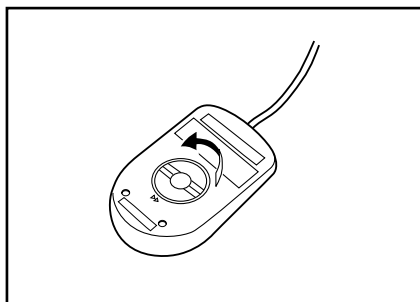
感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

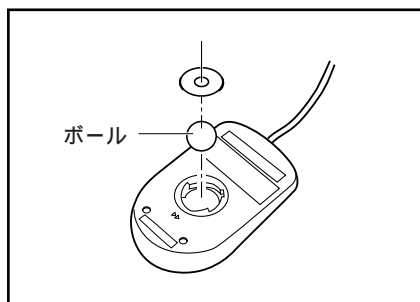
表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。

また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1 マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。

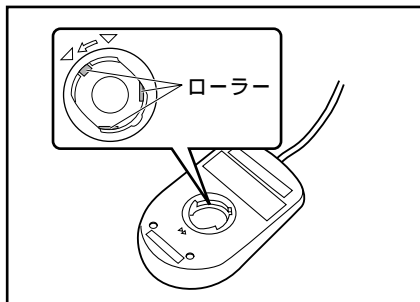


- 2 ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。



- 3 ボールは洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かします。

- 4 ボールを乾かしている間に、マウス内部の汚れを拭き取ります。
 水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。
 ローラー部分は、水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



アドバイス

ゴミは完全に取り除いてください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。
 ゴミを完全に取り除いてください。

- 5 ボールをマウスに戻し、裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

お手入れのしかた

⚠注意



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。
c:¥fjuty¥clndsk 0
「clndsk」と「0」の間は を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。
クリーニングがはじまり、「クリーニング中です。あとXX秒」と表示されます。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **✕** (閉じるボタン) をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exit と入力し、**[Enter]**を押してください。

2

オプション機器を使うには

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

- 1. オプション機器を増設する前に 32
- 2. プリンタを接続する 35
- 3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける 40
- 4. メモリを増やす 46
- 5. 拡張カードを増設する 54
- 6. ハードディスクを増設する 65
- 7. ファイルスロットにオプション機器を取り付ける 94
- 8. その他のオプション機器を使う 101

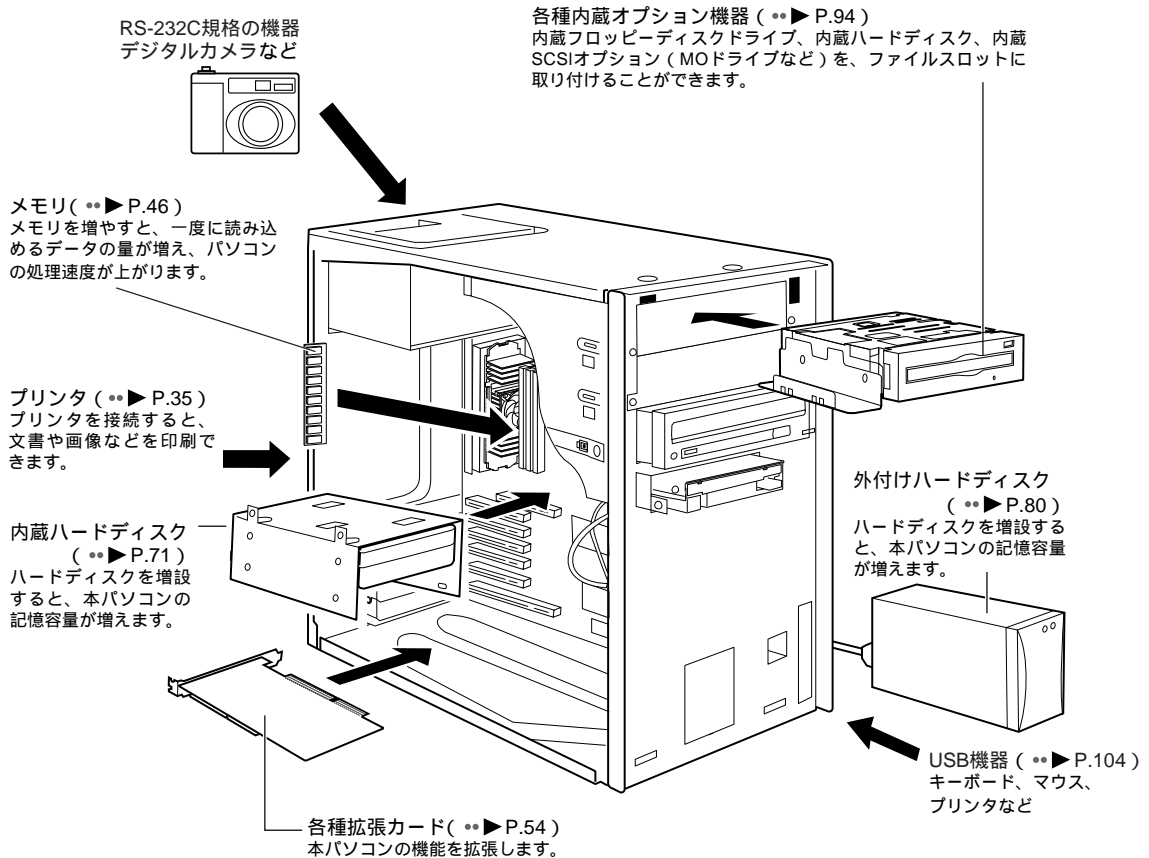
1

オプション機器を増設する前に

別売りのオプション機器を取り付けると、本パソコンの性能を上げたり、機能を付け加えたりできます。ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

取り付けられる主なオプション機器の種類と場所は以下のとおりです。



この他に、スキャナ、ターミナルアダプタなども取り付けられます。詳しくは、「その他のオプション機器を使う」(●▶ P.101)をご覧ください。

オプション機器の接続にあたって

ここでは、オプション機器を取り付ける前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンには、さまざまな規格のがあります。本パソコンは、「PC/AT(ピーシーエーティー)互換機」と呼ばれる規格のパソコンです。

本書では、オプション機器の接続について、PC/AT 互換機の特徴にそって説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは使えないものがあります。このようなオプション機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタや拡張カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という設定作業が必要です。また、ハードディスクを増設したときは、取り付けたあとに「領域の設定」と「フォーマット」という設定作業が必要です。ただし、メモリなどのように、設定作業が必要ないオプション機器もあります。

用語 ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがCD-ROMやフロッピーディスクなどで添付されています。

用語 インストール

インストールとは、ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にする作業です。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するときを使うケーブルは、パソコンの規格に合わせた専用のものをお使いください。

本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT 互換機用」などと表示されたものです。さらに、プリンタをつなぐにはプリンタケーブルを使うというように用途も定まっています。

形状が同じように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。また、ケーブルに使用されているコネクタの大きさによっても、使えない場合があります。よく確かめてご用意ください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。オプション機器によっては、取り付け方法や設定作業などが異なる場合があります。オプション機器を取り付けるときは、本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

必ず電源プラグをコンセントから抜いてください


電源プラグがコンセントに差し込まれている状態で拡張カードの取り付け、または取り外しを行うと、感電するおそれがあり大変危険です。また、本パソコンが故障する原因ともなります。

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

また、本パソコンの誤動作を防ぐため、電源プラグをコンセントから抜いて、再び差し込む場合は、20秒ほど待ってから差し込んでください。

取り付けるときの注意

オプション機器を取り付けるときは、次の点に注意してください。

- オプション機器は、Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。
- 一度に複数のオプション機器を取り付けしないでください。ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- 電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。
- 電源ユニット(●▶P.6)は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部に触れないように、金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。
- 本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。

必要な工具

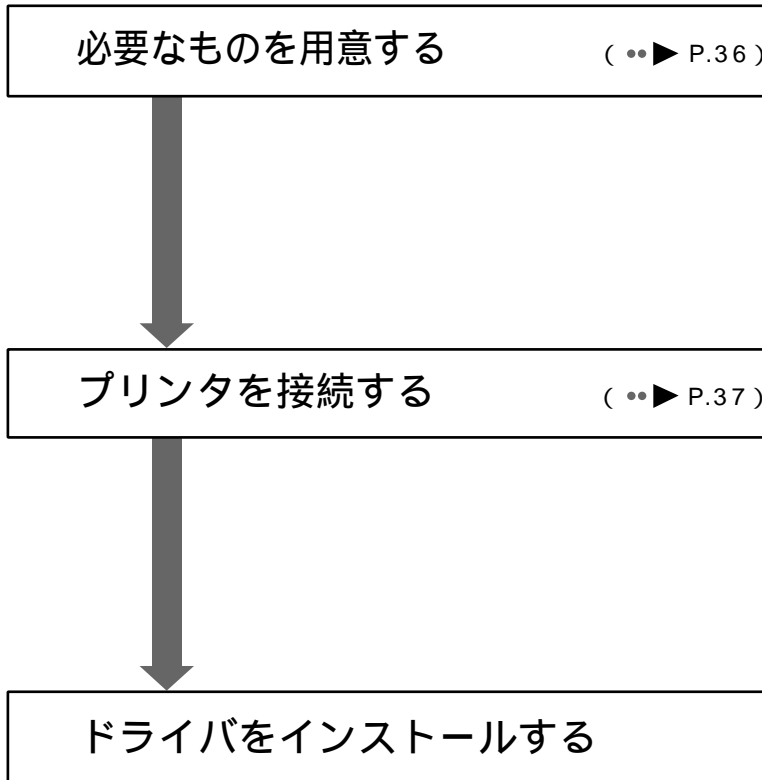
パソコン本体のサイドカバーやスロットカバーなどを取り外すために、プラスのドライバーが必要です。本パソコンで使われているネジは「M3ネジ」と「インチネジ」という規格のものです。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

プリンタを接続する

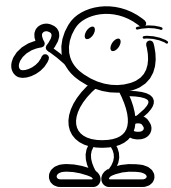
プリンタを接続すると、文書や画像などを印刷できます。

プリンタを接続するまで

プリンタを接続するための作業の流れを説明します。

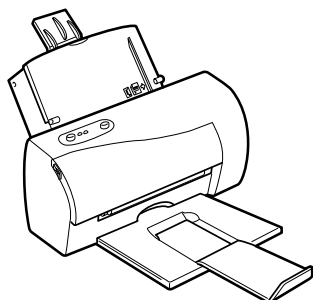


接続したプリンタを使えるように設定します（プリンタドライバをインストールします）。
詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



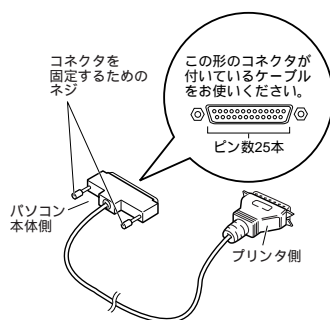
必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。



プリンタ

Windows98 で動作可能なものをご購入ください。

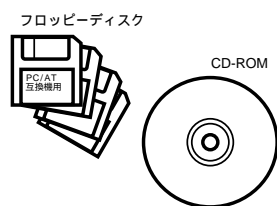


プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。「PC/AT互換機用」などと記載されていて、コネクタが「D-SUB25ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。

プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。

また、USBケーブルで接続するプリンタもあります。



プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」などと記載されたものをお使いください。



プリンタのマニュアル

CD-ROM で見るマニュアルもあります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。USB コネクタに接続するプリンタについては、「USB 機器を接続する」(●▶P.104) をご覧ください。

⚠警告



プリンタの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。

⚠注意



- プリンタケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障の原因となることがあります。
- プリンタ、およびプリンタケーブルは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

プリンタは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

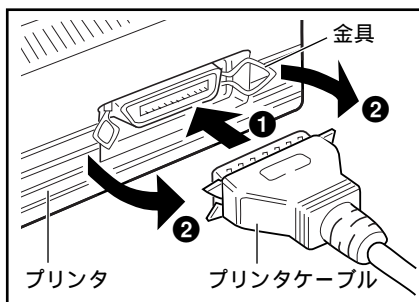
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

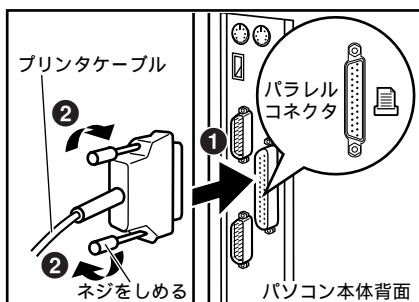
1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 プリンタ側のコネクタに、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。プリンタ側のコネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 パソコン本体背面の平行コネクタ(㊦)に、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。

平行コネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて、差し込んでください。プリンタケーブルのコネクタの上下のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



- 4 プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。
詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 5 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタの設定（プリンタドライバのインストール）を行う必要があります。プリンタのマニュアルをご覧ください。プリンタの設定を行ってください。プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まない場合は、次のアドバイス「プリンタドライバのインストール時の注意」をご覧ください。

アドバイス

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時のCD-R/RWドライブはEです

CD-ROMからプリンタのドライバをインストールする場合に、CD-R/RWドライブ名を指定するときは `e:\` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

弊社製FMLBPシリーズのプリンタをお使いの場合

プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われない場合があります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについてはプリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
プリンタのウィンドウが表示されます。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」タブをクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードがESC/Pモードの場合は、「ESC/Pモード」をクリックし、FMモードの場合は、「FMモード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

- 本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイ（**▶P.57）でプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10（1999年2月現在）
- プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」（GO FMINFO でアクセスできます）
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」（<http://www.fmworld.ne.jp>）
- 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
 - 1 プリンタの電源を切ります。
 - 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
 - 3 本パソコンを再起動します。
 - 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
 - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
インストール方法などについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。

プリンタが正常に動作しない場合

プリンタによっては、ドライバが Windows98 によるリソースの設定に対応していない場合があります。プリンタが正常に動作しない場合は、BIOS セットアップの Advanced メニューの Peripheral Configuration で、サブメニューにある Parallel port（**▶P.119）を「Enabled」に設定してください。また、プリンタで使うポートをプリンタポート以外に設定している場合は、プリンタで使うリソースを設定してください。

.....

本体カバーを取り外す / 取り付ける

パソコン本体内部にオプション機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外す必要があります。

⚠ 警告



本体カバーを取り外すとき、または取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



本体カバーを取り外すとき、または取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

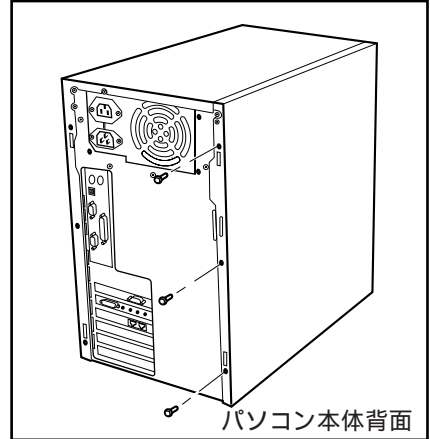
サイドカバーを取り外す

サイドカバーは、次の作業を行うときに取り外します。

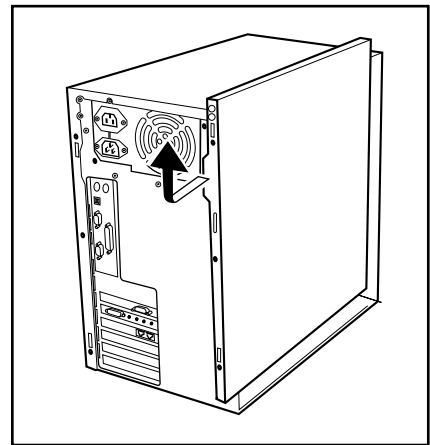
- メモリを取り付けるとき、または交換するとき
- 拡張カードを取り付けるとき
- 内蔵ハードディスクを取り付けるとき
- ファイルスロットオプションを取り付けるとき
- CMOS RAM の内容を消去するとき

- 1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

- 2** パソコン本体背面右側のネジ（3カ所）を外します。



- 3** サイドカバーを矢印の方向に取り外します。パソコン本体背面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。



メモリを取り付ける場合

●▶ P.50 手順 2へ



メモリを交換する場合

●▶ P.52 手順 2へ



拡張カードを取り付ける場合

●▶ P.61 手順 2へ



IDE 規格の内蔵ハードディスクを増設する場合

（内蔵ハードディスクスロット）

●▶ P.73 手順 2へ

（ファイルスロット）●▶ 次ページの「アップパーカバー／フロントパネルを取り外す」へ



SCSI 規格の内蔵ハードディスクを取り付ける場合（内蔵ハードディスクスロット）

●▶ P.79 アドバイス「SCSI規格の内蔵ハードディスクを増設するときは」手順 3へ



ファイルスロットにオプション機器を取り付ける場合

●▶ 次ページの「アップパーカバー／フロントパネルを取り外す」へ



CMOS RAM の内容を消去する場合

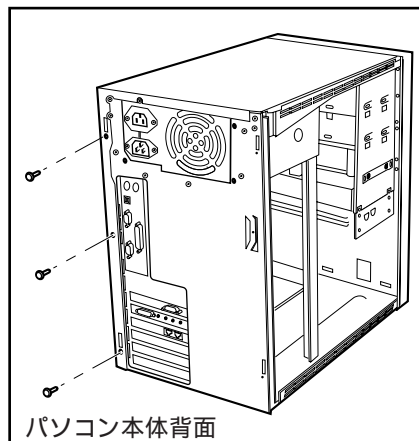
●▶ P.143 手順 2または P.144 手順 11へ

アップカバー/フロントパネルを取り外す

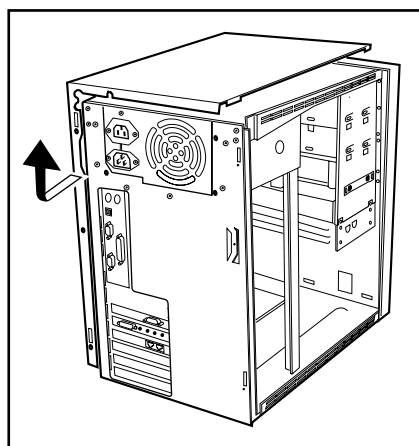
アップカバー/フロントパネルは、ファイルスロットに内蔵オプション機器を取り付けるときに取り外します。

サイドカバーを取り外してから、アップカバー/フロントパネルを取り外してください。

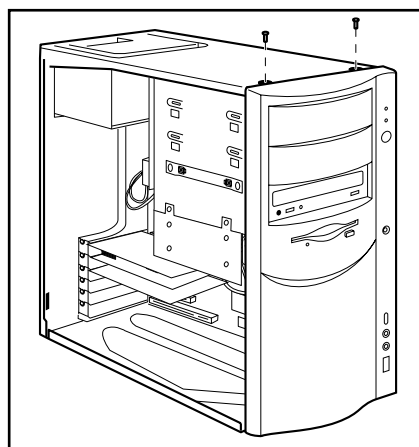
- 1 パソコン本体背面左側のネジ(3カ所)を外します。



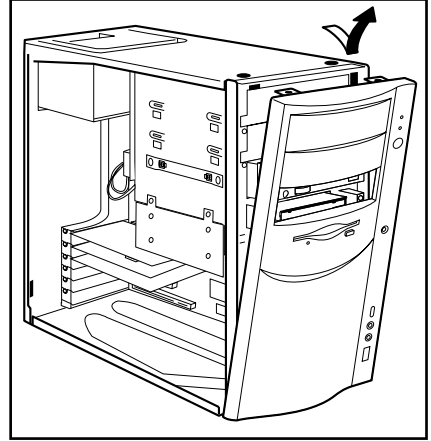
- 2 アップカバーを取り外します。
パソコン本体背面にスライドさせたあと、持ち上げて取り外します。



- 3 フロントパネルの上端のネジ(2カ所)を外します。



- 4** フロントパネルを取り外します。
フロントパネルを手前に倒してから、上に引き抜きます。



内蔵ハードディスクを取り付ける場合（ファイルスロット）

▶▶ P.75 手順 3へ



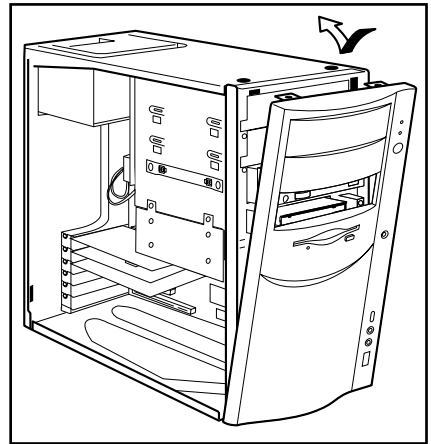
ファイルスロットにオプション機器を取り付ける場合
（フロッピーディスクドライブを取り付ける場合）
（内蔵 SCSI オプション機器を取り付ける場合）

▶▶ P.95 手順 3へ

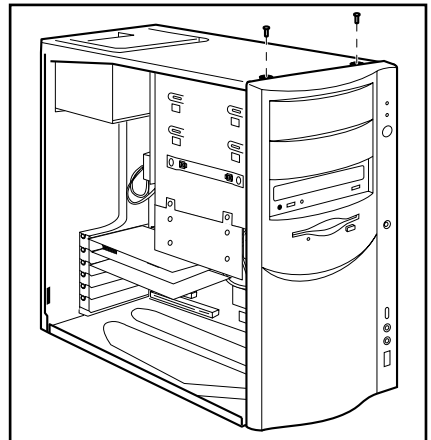
▶▶ P.98 手順 3へ

フロントパネル／アッパーカバーを取り付ける

- 1** フロントパネルを取り付けます。
フロントパネル下端のツメを本体にかけてから、上端をパソコン本体側に倒します。

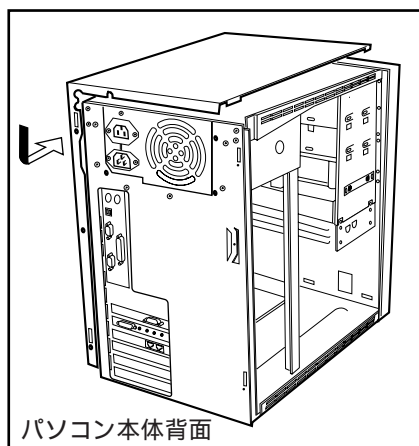


- 2** フロントパネルの上端のネジ（2カ所）を取り付けます。



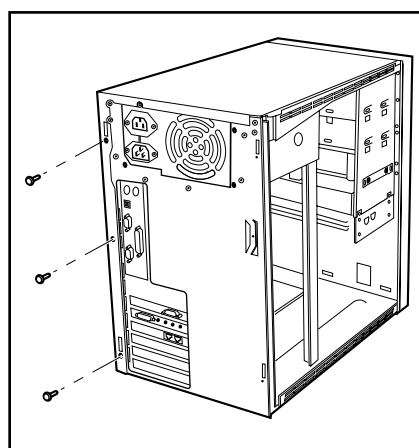
3 本体カバーを取り外す／取り付ける

- 3** アッパーカバーを取り付けます。
パソコン本体前面に向かってスライドさせるようにすると取り付けられます。



パソコン本体背面

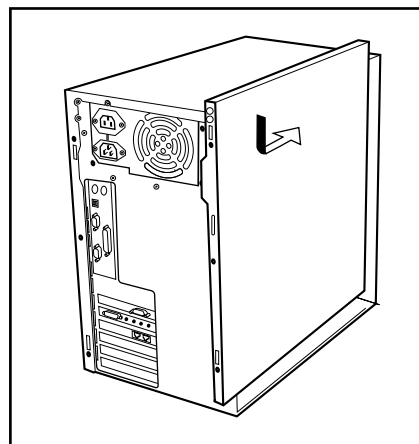
- 4** パソコン本体背面左側のネジ(3カ所)を取り付けます。



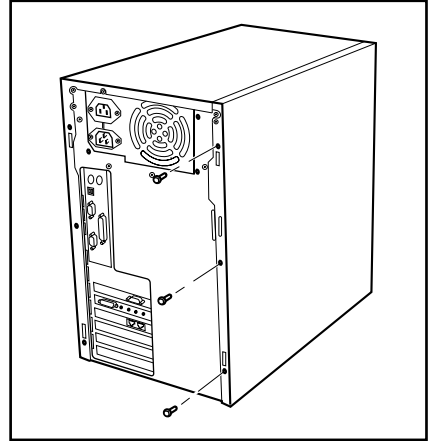
続いて、サイドカバーを取り付けます。次の「サイドカバーを取り付ける」をご覧ください。

サイドカバーを取り付ける

- 1** サイドカバーを取り付けます。
パソコン本体前面に向けてスライドさせるようにすると取り付けられます。



- 2 パソコン本体背面右側のネジ（3カ所）を取り付けます。



- 3 本パソコンおよび接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。



メモリを取り付けた場合

▶▶ P.51 アドバイス「メモリ容量を確認してください」へ



拡張カードを取り付けた場合

▶▶ P.62 手順7へ



内蔵ハードディスクを増設した場合

▶▶ P.83 「領域を設定する」へ

4

メモリを増やす

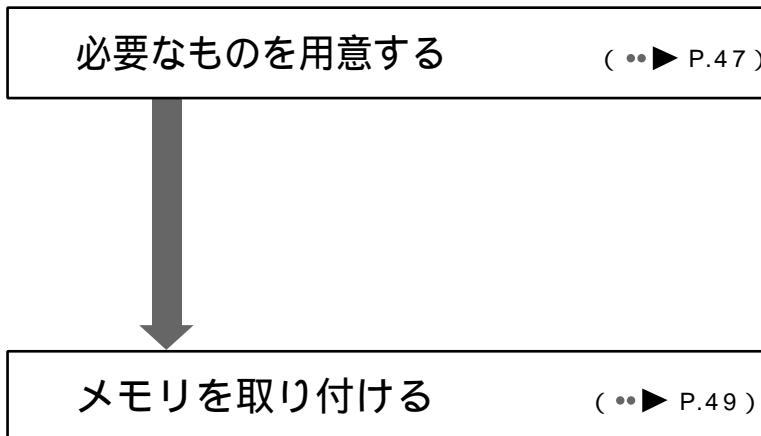
メモリを増やすと、一度に大きなデータを扱えるようになり、複数のアプリケーションを同時に起動するときなどにパソコンの処理が快適になります。

用語 メモリ

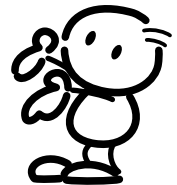
メモリは、CPU が処理するデータを一時的に記憶する装置です。パソコン本体に内蔵されています。

メモリを増やすまで

メモリを増やすための作業の流れを説明します。



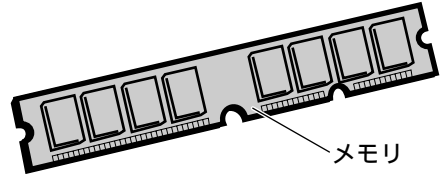
メモリを取り付けたあと、取り付けたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください(●▶ P.51)。



必要なものを用意する

お使いになれるメモリは、次のようなものです。

- 種類 …………… SDRAM (エスディーラム)
DIMM (ディム)(SPD付き)
- ピン数…………… 168ピン
- 容量…………… 32MB (メガバイト)、
64MB、128MB
- ECC…………… なし
- システムバスクロック… 100MHz対応



重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

また、必ずシステムバスクロックが100MHz対応のメモリをお使いください。

用語 SPD (エスピーディー)

SPDは、Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。

用語 ECC (イーシーシー)

ECCは、Error Correcting Codeの略で、データ中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

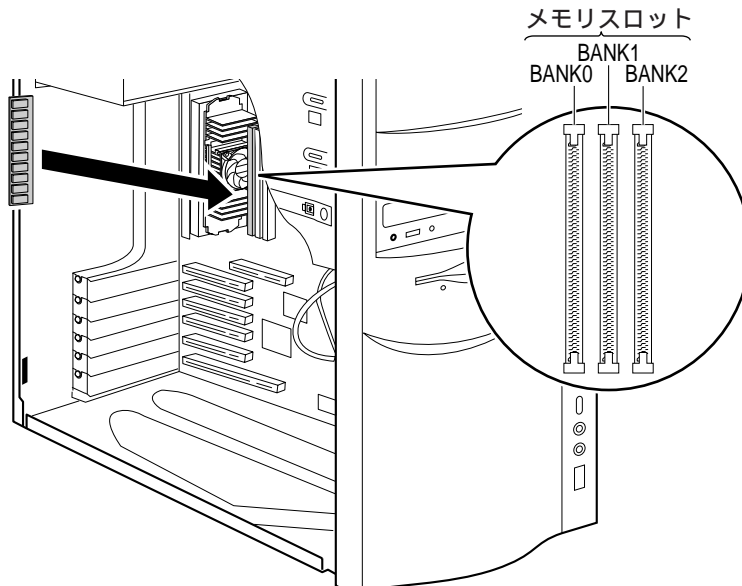
メモリの取り付け場所

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。

本パソコンのご購入時は、BANK2に64MBのメモリが1枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、BANK1と0に、新たにメモリを取り付けます。

メモリは最大384MB(128MB×3枚)まで増やせます。



メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリ容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	BANK2	BANK1	BANK0
64MB (ご購入時)	64MB	なし	なし
96MB	64MB	32MB	なし
128MB	64MB	32MB	32MB
	64MB	64MB	なし
160MB	64MB	32MB	64MB
192MB	64MB	64MB	64MB
	64MB	128MB	なし
224MB	64MB	32MB	128MB
256MB	64MB	64MB	128MB
320MB	64MB	128MB	128MB
384MB (最大)	128MB	128MB	128MB

のついている組み合わせでは、本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリを交換する必要があります。

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。
あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「メモリを交換する」(●▶P.52)をご覧ください。

警告



メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手が届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差し込んだり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

重要

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
メモリを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

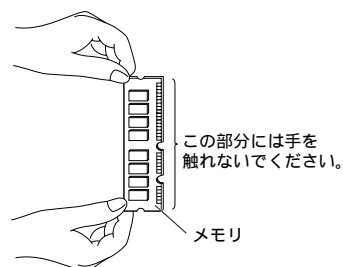
メモリは何度も抜き差ししないでください

故障の原因となることがあります。

アドバイス

メモリの持ちかた

メモリは右図のようにぶちを持ってください。
金色の線が入っている部分(端子)には絶対に手を触れないでください。



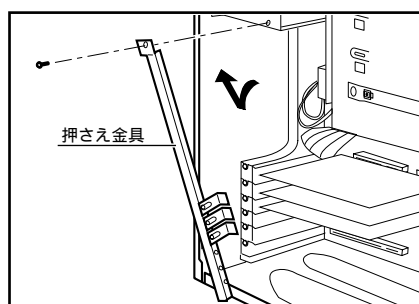
メモリを取り付けるときは

パソコン本体を横に置くと作業しやすくなります。

1 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40)をご覧ください、サイドカバーを取り外します。

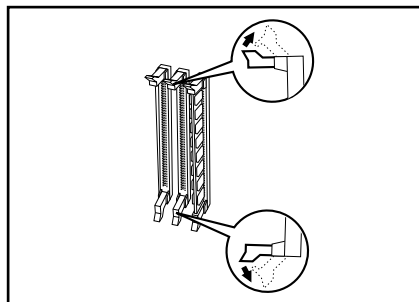
2 押さえ金具を取り外します。

押さえ金具は、押さえ金具のネジ(1カ所)を外すと取り外せます。



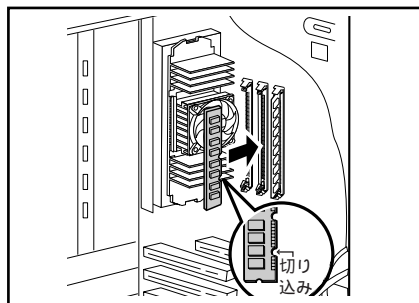
3 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「メモリの取り付け場所」(●▶P.47)と「メモリの組み合わせ表」(●▶P.48)をご覧ください。



4 メモリをスロットに差し込みます。

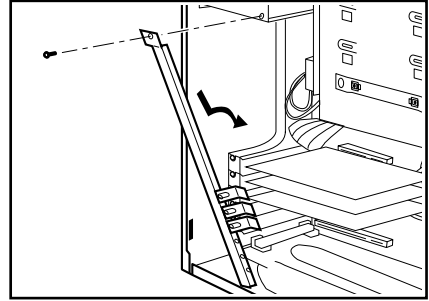
端子の切り込みを下側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。
メモリがスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。
必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください
無理に差し込むと故障の原因となります。

- 5 手順2で外した押さえ金具を取り付けます。
ネジ(1カ所)で固定します。





- 6 「サイドカバーを取り付ける」(▶▶P.44)をご覧ください、サイドカバーを取り付けます。

アドバイス


メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4  で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。
お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

数値が増えていないときは

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか
▶▶「必要なものを用意する」(P.47)
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
▶▶「メモリを取り付ける」(P.49)
- 正しいスロットに取り付けられているか
▶▶「メモリの取り付け場所」(P.47)
- メモリを正しく組み合わせているか
▶▶「メモリの組み合わせ表」(P.48)

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

メモリの取り外しかたについては、次ページの「メモリを交換する」をご覧ください。

メモ리를交換する

本パソコンに取り付けられているメモ리를取り外し、より大容量のメモりに交換することができます。

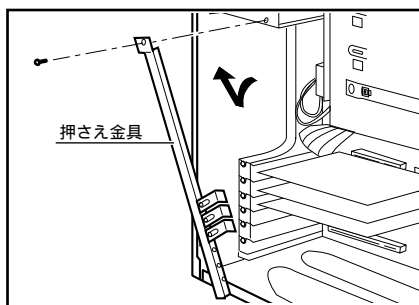
アドバイス

メモ리를交換するときは

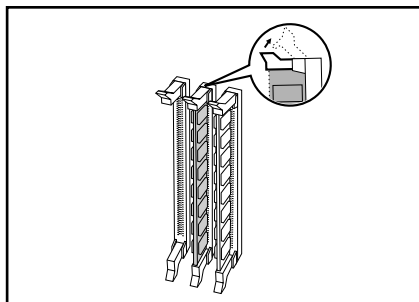
パソコン本体を横にして置くと作業しやすくなります。

1 「サイドカバーを取り外す」(▶▶P.40) をご覧になり、サイドカバーを取り外します。

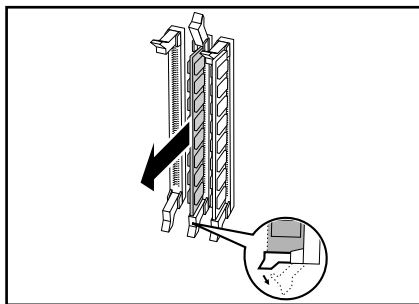
2 押さえ金具を取り外します。
押さえ金具は、押さえ金具のネジ(1カ所)を外すと取り外せます。



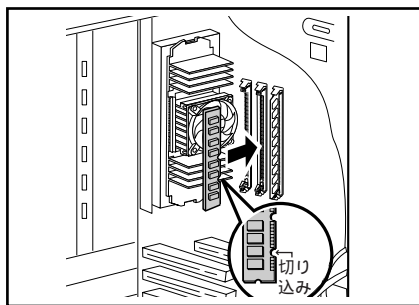
3 取り外したいメモ리의メモリスロットの上側のレバーを外側へ開きます。
メモ리의上側半分が外れて、スロットに斜めに差し込まれている状態になります。



4 メモリが落ちないように手で押さえながら、スロット下側のレバーを外側へ開き、メモ리를抜きます。



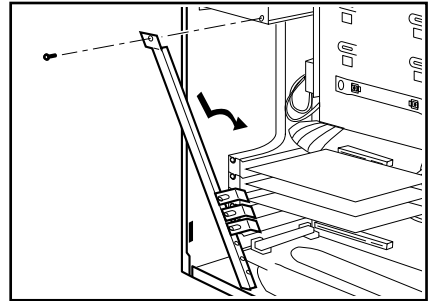
5 新しいメモ리를スロットに差し込みます。
端子に切り込みが入っている方を下側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。メモ리가スロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモ리가ロックされます。必ず、メモ리가ロックされたことを確認してください。



重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください
無理に差し込むと故障の原因となります。

- 6 手順2で外した押さえ金具を取り付けます。
ネジ(1ヵ所)で固定します。

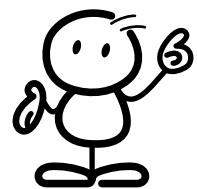


- 7 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44)をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

このあと、「アドバイス」(●▶P.51)をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

2

オプション機器を使うには(メモリを増やす)



5

拡張カードを増設する

拡張カードを使うと、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

拡張カードを増設するまで

拡張カードを増設するための作業の流れを説明します。

必要なものを用意する

(●▶ P.58)

次ページの「拡張カードを取り付ける前に」をご覧になり、本パソコンで使えるハードディスクについてご確認のうえ、必要なものを用意してください。

拡張カードを取り付ける

(●▶ P.60)

拡張カードによっては、取り付ける前に「リソースを解放する」(●▶ P.158)作業が必要になる場合があります。

ドライバをインストールする

拡張カードによっては、自動的にドライバのインストールが行われます。

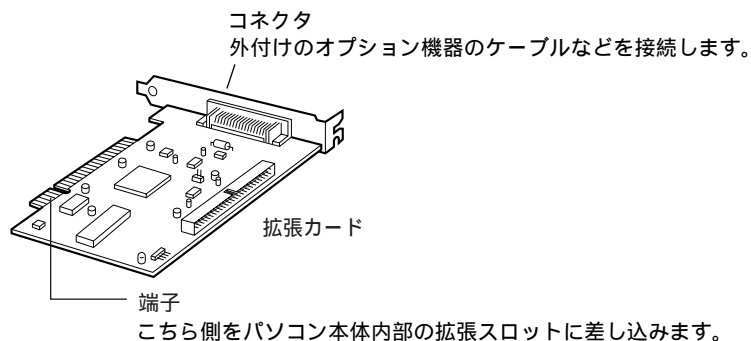


拡張カードを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なものや、必要な作業について説明します。

拡張カードとは

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。



コラム

代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

- SCSI カード
SCSI規格のハードディスクやMO(光磁気ディスク)ドライブなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI規格のハードディスクについては「ハードディスクを増設する」(●▶P.65)をご覧ください。
- モデムカード
パソコン通信、インターネット、FAX送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます(専用のソフトウェアが必要です)。本パソコンには、ご購入時にあらかじめFAX/ボイスモデムカードが取り付けられています。
- LAN カード
複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LANカードでパソコンやプリンタを接続するには、LANケーブルなどのLAN機材も必要となります。
- ビデオキャプチャカード
ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりする拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「AGP (エージーピー)」と「PCI (ピーシーアイ)」と「ISA (アイサ)」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の「拡張スロット」に取り付けます。本パソコンの拡張スロットには、AGP、PCI、ISAの3種類の規格があります。それぞれの拡張スロットに対応した規格の拡張カードを取り付けます。

拡張カードは本パソコンの空いている拡張スロットに増設できます。

なお、本パソコンでは、AGP スロットにあらかじめビデオカードが取り付けられています。AGP 拡張カードを増設することはできません。

拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」があります。本パソコンではどちらの拡張カードも取り付けられます。

重要

お使いになれない拡張カードについて

MPEGチューナーカード (FMV-411/412) およびMPEG再生カード「Real magic」は、本パソコンにあらかじめ取り付けられているビデオカードとは併用できません。

また、フィーチャーコネクタを使うビデオキャプチャカードは、お使いになれません。

拡張スロット	空き状況
AGP	ビデオカードを搭載済み
PCI1	サウンドカードを搭載済み
PCI2	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み
PCI3	空き
PCI4	空き
PCI5 *	空き
ISA1 *	空き

* PCI5 と ISA1 は取り付けスペースを共有しているため、2 枚同時には取り付けられません。

コラム

PCI 拡張カードと ISA 拡張カード

拡張カードには、さまざまな種類があります(「コラム」**▶P.55をご覧ください)。同じ機能の拡張カードでも、PCI 拡張カードと ISA 拡張カードの両方があることがあります。

たとえば、SCSI カードは、PCI 規格のものと ISA 規格のものが市販されています。

PCI 拡張カードは、ISA 拡張カードに比べ、データを速く転送できます。

本パソコンの空いている拡張スロットを確認のうえ、拡張カードをご購入ください。

拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。それぞれで拡張カードを増設する手順が異なります。PCI拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。ISA拡張カードには対応しているものと対応していないものがあります。拡張カードを増設するときは、プラグアンドプレイに対応しているものをお使いになることをお勧めします。

ここでは、プラグアンドプレイに対応している拡張カードを増設する手順について説明します。プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを増設するときは、「アドバイス」（●▶P.63）をご覧ください。

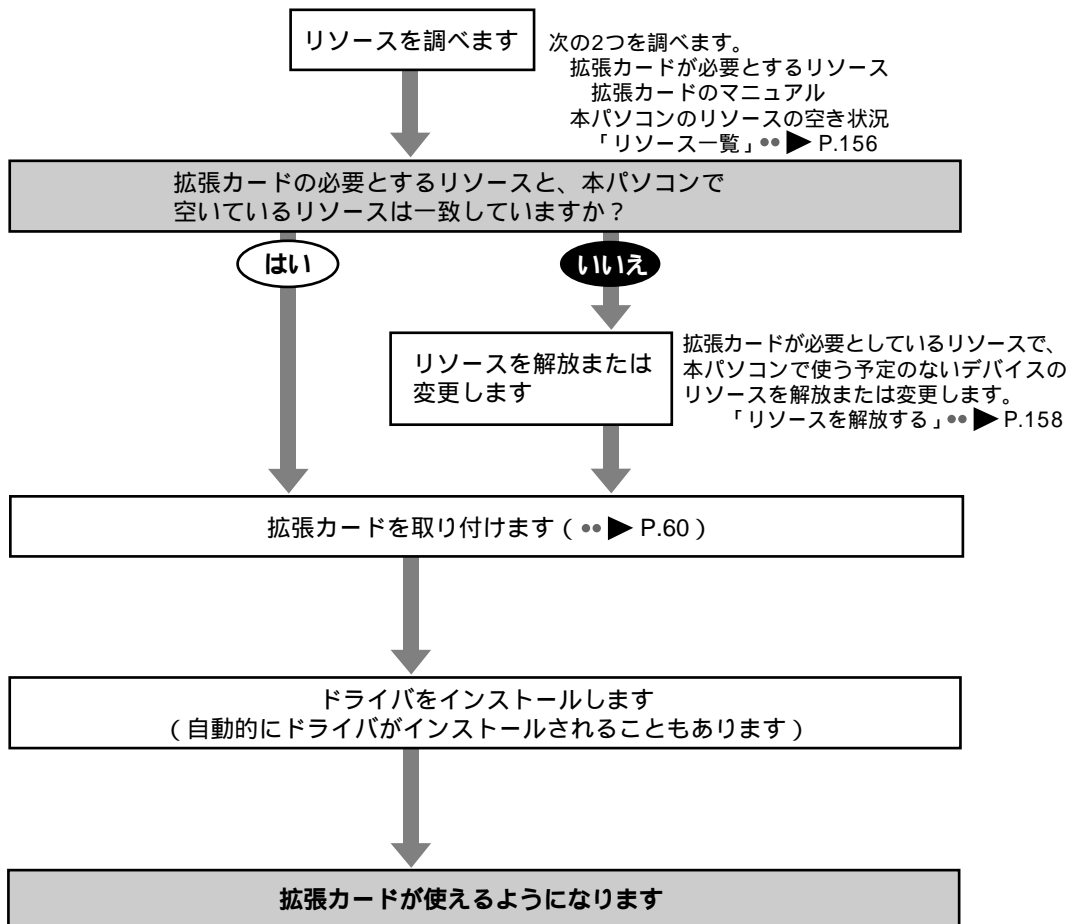
プラグアンドプレイに対応している拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、本パソコンの空いているリソースに設定できない場合や、空きリソースがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「リソースを解放する」（●▶P.158）をご覧ください。

用語 プラグアンドプレイ（Plug&Play/PnP）

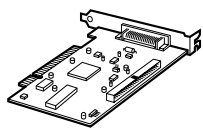
プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

拡張カードを増設するときは、次の手順で作業を行います。



必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

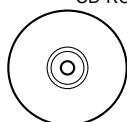


PCI 拡張カード、または ISA 拡張カード

フロッピーディスク



CD-ROM



拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

リソース、IRQ、DRQ、I/Oポートアドレスとは

リソース

本パソコンの各周辺機器(キーボード、マウスなど)や、拡張カードなどに割り当てられているIRQ、DRQ、I/Oポートアドレスなどを総称して「リソース」と呼んでいます。

これらのリソースには識別のための番号が割り当てられます。

IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request)

周辺装置が要求する処理はすべてCPUが行いますが、CPUはどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPUが常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPUに実行してほしいことが発生したときに、IRQの番号を使って現在CPUが行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPUは、どの装置から要求が来たのかをIRQから判断して、処理を行います。それが終われば、CPUはふたたび元の処理に戻ります。

DRQ (DMA 要求 : Direct Memory Access Request)

CPUがひんばんに使うデータやプログラムは、処理にかかる時間を短縮するためにメモリにおかれます。DMA (Direct Memory Access) とは、それらのデータやプログラムなどをハードディスクなどの装置から読み込み、メモリに書き込む作業をCPUが行うのではなく、かわりに専用のプロセッサ(制御回路)が行うというしくみのことです。その間、CPUは他の処理を行えるために、CPUの作業効率が上がります。その専用のプロセッサのことをDMAコントローラと呼びます。

DRQとはDMAコントローラが、どの周辺装置からDMA要求が出されたかを認識するための番号のことです。

I/O (Input/Output) ポートアドレス

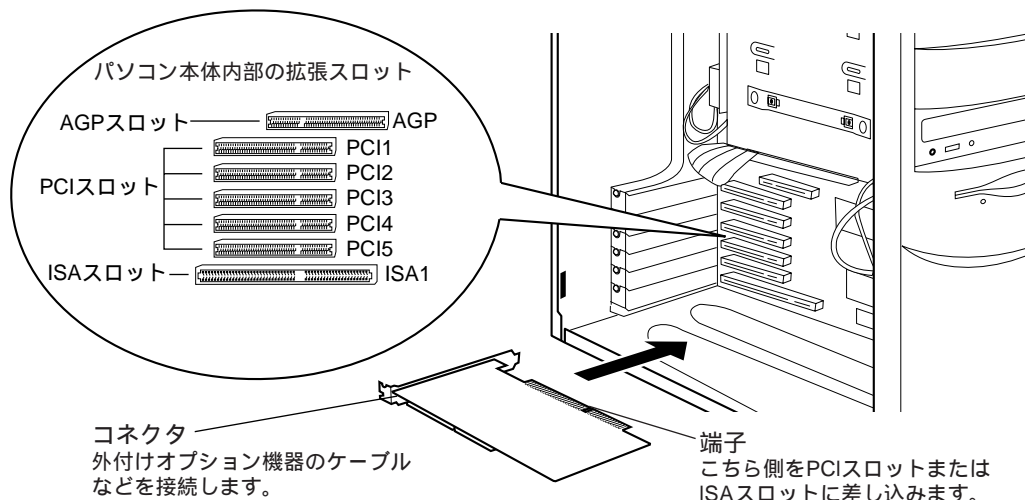
CPUと個々の周辺機器との間には、それぞれ情報をやりとりする出入り口があります。その出入り口に割り当てられる番号がI/Oポートアドレスです。

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける位置と取り付け方法について説明します。

拡張スロットの位置

拡張カードは、パソコン本体内部の拡張スロットに取り付けます。



本パソコンのご購入時には、次の拡張スロットが空いています。

- PCI3、PCI4、PCI5/ISA1

PCI5とISA1は取り付けスペースを共有しているため、2枚同時には取り付けられません。

取り付ける

警告



感電 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。



誤飲 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



けが 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが 基板表面の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障 拡張カードは、弊社純正品をお使いください。純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

拡張カードは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。拡張カードを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

確認

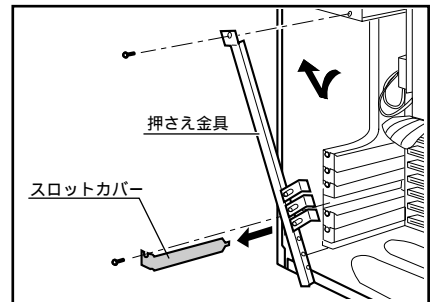
SCSIカードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI ID(●▶P.80)は7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

1
2

「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40)をご覧ください、サイドカバーを取り外します。

スロットカバーと押さえ金具を取り外します。
スロットカバーはスロットカバーのネジ(1カ所)を外すと取り外せます。
押さえ金具は、押さえ金具のネジ(1カ所)を外すと取り外せます。



重要

電源プラグを抜いてください

拡張カードを取り付ける前に、電源プラグがコンセントから抜いてあるかを確認してください。
電源プラグをコンセントに差し込んだまま作業を行うと感電・故障の原因となり大変危険です。
かならず電源プラグをコンセントから抜いてください。

アドバイス

スロットカバーは保管してください

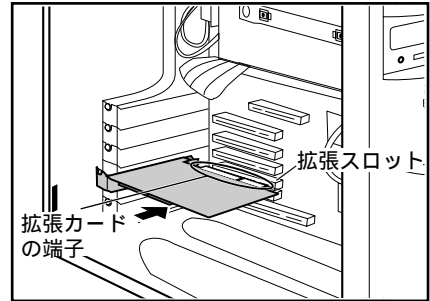
取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



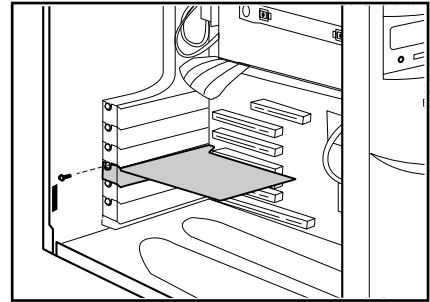
2

オプション機器を使うには(拡張カードを増設する)

- 3** 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。
拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



- 4** 手順2で外したスロットカバーのネジ（1カ所）で、拡張カードを固定します。
ネジは固くしめすぎないようにしてください。



アドバイス

不要なケーブルはクランプでとめてください

不要なケーブルは、他の拡張カードなどに触れないように、クランプ（ケーブルを束ねてあるプラスチックのとめ具）でとめてください。

- 5** 手順2で外した押さえ金具を取り付けます。
ネジ（1カ所）で固定します。
- 6** 「サイドカバーを取り付ける」（**▶P.44）をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。
- 7** パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。または、自動的にドライバがインストールされる場合もあります。
- 拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

アドバイス

リソースが不足した場合

拡張カードの組み合わせにより、IRQ（割り込み要求）などのリソースが不足する場合があります。その場合は、BIOS セットアップを実行して、AdvancedメニューのPlug & Play O/Sを「No」に設定すると、リソース不足が解消されることがあります。

詳しくは「第3章 BIOS セットアップ」の「Advanced」（**▶P.117）をご覧ください。

プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを増設するときは

リソースの設定や、ドライバのインストールをお客様自身で行う必要があります。




以下の流れにそって拡張カードを増設してください。

- 1 本パソコンで空いているリソースと、拡張カードが必要としているリソースが一致しているかを確認します。
「リソース一覧」(●▶P.156) および拡張カードのマニュアルをご覧ください。
- 2 リソースが一致していない場合は、「リソースを解放する」(●▶P.158) をご覧になり、本パソコンのリソースを解放または変更します。
- 3 拡張カードのマニュアルをご覧になり、拡張カードのリソースを設定します。
- 4 「拡張カードを取り付ける」(●▶P.60) をご覧になり、拡張カードを取り付けます。
- 5 次の「拡張カードのドライバをインストールする」をご覧になり、ドライバをインストールします。

拡張カードのドライバをインストールする

以下の手順で拡張カードのドライバをインストールしてください。

インストールの途中で、以下のメッセージが表示されることがあります。そのときは、以下の指示に従ってください。

- Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示された場合
「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
「ファイルのコピー元」に `C:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合
メッセージの内容をよくお読みになり、新しいほうのファイルをインストールしてください。
 - 1 パソコン本体の電源を入れます。
 - 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
 - 3  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
 - 4 「次へ」をクリックします。
 - 5 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックしてください。
 - 6 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら「いいえ（一覧から選択する）」を選び、「次へ」をクリックします。
 - 7 「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というメッセージが表示されたら、「ハードウェアの種類」の一覧から、取り付けた拡張カードの種類をクリックし、「次へ」をクリックします。
たとえば、SCSI カードを取り付けた場合は、「SCSI コントローラ」をクリックします。

- 8 「ハードウェアの製造元とモデルを選んでください。」というメッセージが表示されたら、

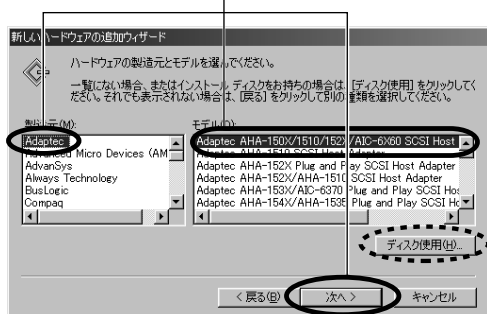


拡張カードにフロッピーディスクや CD-ROM が添付されている場合
「ディスク使用」をクリックします。拡張カードのマニュアルをご覧になり、拡張カードに添付されているフロッピーディスクや CD-ROM から、ドライバをインストールしてください。



拡張カードにフロッピーディスクや CD-ROM が添付されていない場合
「製造元」の一覧から取り付けた拡張カードの製造元をクリックし、「モデル」の一覧から拡張カードのモデル名をクリックして、「次へ」をクリックします。手順 9 へ進みます。

フロッピーディスクまたは CD-ROM が添付されていない場合



フロッピーディスクまたは CD-ROM が添付されている場合

(画面は一例です)

- 9 画面の指示に従って、「次へ」をクリックします。
- 10 「新しいハードウェアに必要なソフトウェアのインストールが完了しました。」というメッセージが表示されたら、「完了」をクリックします。
これで、ドライバがインストールされ、拡張カードが使えるようになります。
「完了」をクリックしたあとに、再起動または終了するメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動または終了してください。
- 11 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。

リソースが一致していないときは

「デバイスがインストールされましたが、このデバイスはほかのデバイスと競合しています。」というメッセージが表示されたときは、拡張カードが必要としているリソースが、本パソコンの空いているリソースと一致していません。以下の手順に従ってリソースを設定してください。

- 1 「完了」をクリックします。
- 2 「デバイスを使用可能にする」をクリックします。
- 3 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 4 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム) をクリックします。
- 5 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 6 取り付けた拡張カードが該当する、ハードウェアの種類の をクリックします。
取り付けた拡張カードのモデル名に ? が表示されています。
- 7 ? が表示されている拡張カードのモデル名をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 8 「リソース」タブをクリックします。
- 9 「手動設定」をクリックし、リソースを設定してください。
拡張カードが必要とするリソースの値については、拡張カードのマニュアルをご覧ください。
リソースは不用意に設定すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「リソース一覧」(●▶P.156)でよくご確認のうえ、リソースを設定してください。

「コンピュータを終了しますか？」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックしてください。パソコン本体の電源が切れます。
10秒ほど待ってから、もう一度パソコン本体の電源を入れてください。ドライバのインストールが完了します。

ハードディスクを増設する

本パソコンにはあらかじめ IDE 規格のハードディスクが 1 台内蔵されています。
さらに、内蔵ハードディスクと、外付けのハードディスク (SCSI 規格) を増設できます。

ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するための作業の流れを説明します。

必要なものを用意する

(●▶ P.69)

次ページの「ハードディスクを取り付ける前に」をご覧になり、
本パソコンで使えるハードディスクについてご確認のうえ、必
要なものを用意してください。

ハードディスクを取り付ける

内蔵ハードディスク (●▶ P.71)
外付けハードディスク (●▶ P.80)

ハードディスクを設定する

(●▶ P.83)

接続したハードディスクを本パソコンで使えるようにするための
作業です。



ハードディスクを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるハードディスクにはどのようなものがあるか、ハードディスクを取り付けるために必要なもの、必要な作業について説明します。

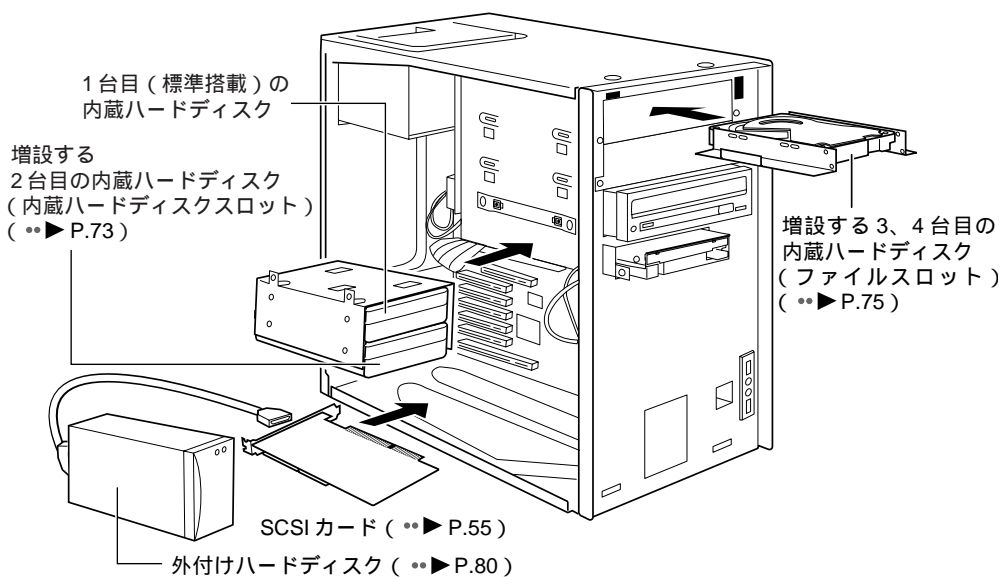
お使いになれるハードディスク

ハードディスクにはパソコン本体に内蔵するものと、外付けのものがあります。また、IDE（アイディーイー）とSCSI（スカジー）という2つの規格があります。

IDE規格のハードディスクは、パソコン本体内部に取り付けます。SCSI規格のハードディスクは、外付けのものと内蔵のものがあります。

内蔵ハードディスクは、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要としません。また、省スペースというメリットもあります。

SCSI規格のハードディスクを使うには、SCSIカードという拡張カードが必要です。



本パソコンでお使いになれる内蔵ハードディスクの台数と接続方法は、以下のとおりです。

増設可能な 最大内蔵ハードディスク数	最大増設時の接続方法	接続場所
3	1：IDE - プライマリのスレーブ	内蔵ハードディスクスロット
	2：IDE - セカンダリのマスター -	ファイルスロット
	3：SCSI	ファイルスロット

セカンダリのマスターに取り付けるには、標準搭載のドライブ（CD-R/RWドライブ）をセカンダリのスレーブに変更する必要があります。

本パソコンのご購入時に取り付けられている内蔵ハードディスクは、IDE - プライマリのマスターに取り付けられています。プライマリ、セカンダリ、マスター、スレーブについて詳しくは、「コラム」（**▶P.78）をご覧ください。

用語 IDE (アイディーイー)

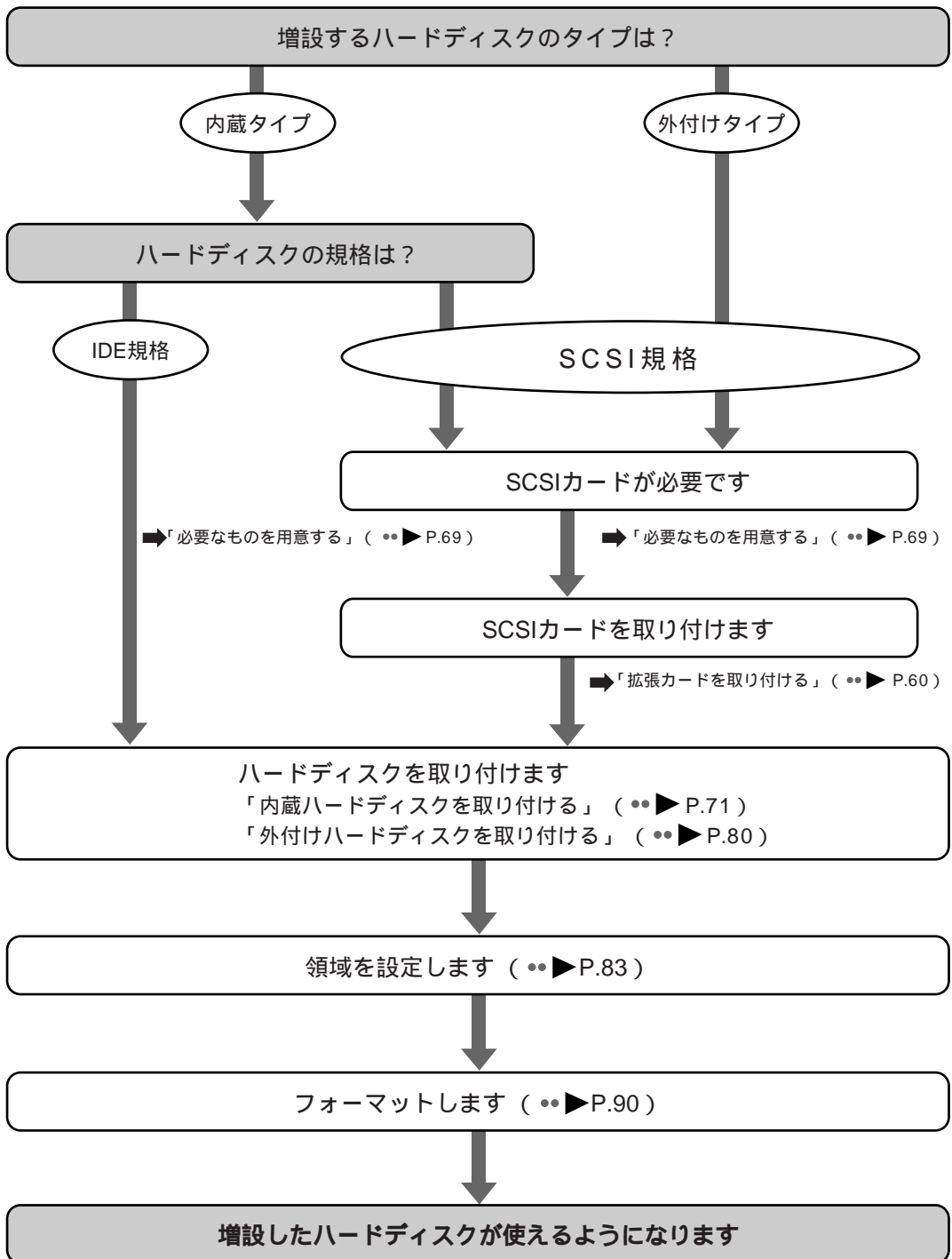
ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

用語 SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するときは、次の手順で作業を行います。
増設するハードディスクが内蔵か外付けか、また IDE 規格か SCSI 規格かによって、手順が異なります。



必要なものを用意する

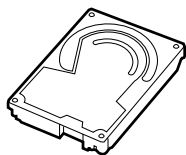
IDE規格の内蔵ハードディスクと、SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクでは、必要なものが異なります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のハードディスク、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

■ IDE規格の内蔵ハードディスクを増設する場合 ■

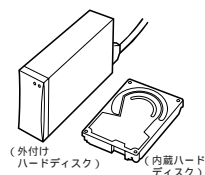


必要なものは増設するハードディスク本体とハードディスクのマニュアルのみです。ケーブル類は、本パソコンに内蔵されているものを使います。

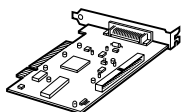
取り付け方法は、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(●▶P.71)をご覧ください。

■ SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合 ■

SCSI規格のハードディスクをお使いになる場合は、次のものが必要です。



SCSI規格のハードディスク



SCSIカード(●▶P.55)

SCSI規格のハードディスクを取り付けるときに必要な拡張カードです。



SCSIケーブル

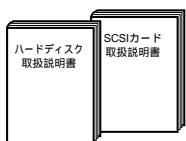
SCSIカードとハードディスクをつなぐために必要なケーブルです。SCSI規格のコネクタには数種類あります。お使いになるSCSIカードとハードディスクに合ったものをよくご確認のうえ、ご購入ください。



終端抵抗(ターミネータ)

電気信号が、SCSIケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。詳しくは次ページの「コラム」をご覧ください。

終端抵抗は3つ以上、取り付けたり有効にしたりしないでください。



ハードディスクとSCSIカードのマニュアル

終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けハードディスクを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けハードディスクが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカード上のジャンプスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

外付けハードディスクには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

また、SCSI規格の内蔵ハードディスクには、通常、終端抵抗が内蔵されています。内蔵ハードディスク上のディップスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

なお、SCSI規格の内蔵ハードディスクと外付けハードディスクの両方を接続した場合は、SCSI規格の内蔵ハードディスクと外付けハードディスクが、両端の機器となります。



内蔵ハードディスクを取り付ける場合

「内蔵ハードディスクを取り付ける」(●▶P.71) をご覧ください。



外付けハードディスクを取り付ける場合

「外付けハードディスクを取り付ける」(●▶P.80) をご覧ください。

内蔵ハードディスクを取り付ける

ここでは、IDE 規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについて説明します。
SCSI規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「アドバイス」(●▶P.79)をご覧ください。

警告



ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。
- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

内蔵ハードディスクは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
内蔵ハードディスクを取り付けるときは、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから作業を始めてください。

IDE 規格の内蔵ハードディスクを取り付ける前に

「IDE デバイスを増設するときの注意」(●▶P.180)をご覧ください。必要な設定を行ってください。

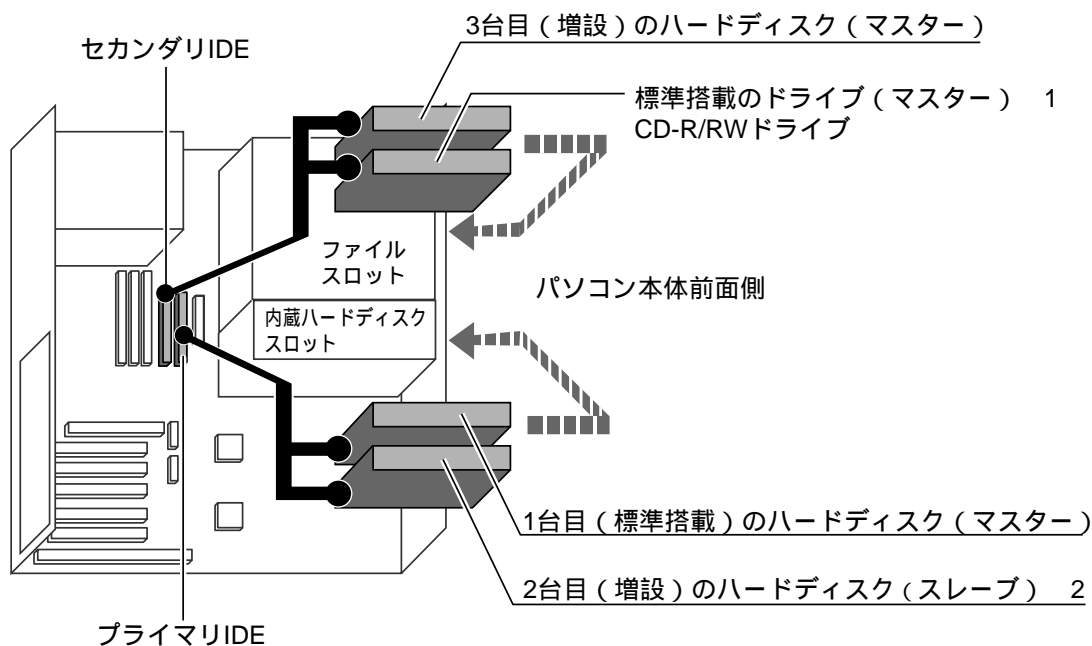
衝撃を与えないでください

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがあります。取り付けるときは、落としたり倒したりしないよう十分ご注意ください。
また、内蔵ハードディスクのマニュアルに記載されている取り扱い上の注意をよくご覧になってから、パソコン本体に取り付けてください。

IDE規格の内蔵ハードディスクの設定は、以下のとおりです。
 マスター、スレーブについて詳しくは、「コラム」(●▶P.78)をご覧ください。

1 台目 (標準搭載)	2 台目 2	3 台目 1
プライマリのマスター	プライマリのスレーブ	セカンダリのマスター

- 3台目のハードディスクを増設する場合は、フラットケーブルを接続し直して、CD-R/RWドライブをセカンダリのスレーブに設定します。
 - 初めて増設する内蔵ハードディスクは、必ず内蔵ハードディスクスロットに取り付けます。
- IDE規格の内蔵ハードディスクを取り付けるときは、取り付ける内蔵ハードディスクが何台目であるかによって、ジャンプスイッチの設定と取り付ける場所が異なります。取り付ける前に次の図をご覧ください。



初めてハードディスクを増設する場合

次ページの「内蔵ハードディスクスロットに取り付ける」をご覧ください。初めて増設するIDE規格の内蔵ハードディスクは、必ず内蔵ハードディスクスロットに取り付けてください。



すでにIDE規格のハードディスクを増設している場合

「ファイルスロットに取り付ける」(●▶P.75)をご覧ください。

内蔵ハードディスクスロットに取り付ける

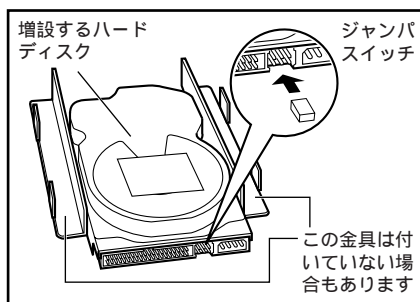
初めて内蔵ハードディスクを増設するときは、内蔵ハードディスクスロットに取り付けます。

1 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40)をご覧ください、サイドカバーを取り外します。

2 増設するハードディスクのジャンプスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているかを確認します。

弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」(●▶P.78)に設定されています。

「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「スレーブ」(●▶P.78)に設定してください。ジャンプスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクが本パソコンに正しく認識されないことがあります。設定方法について詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



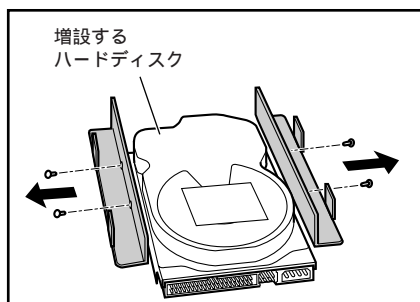
(イラストは一例です)

3 増設するハードディスクの両側に金具が付いている場合は、金具を取り外します。

ハードディスクを固定しているネジ(4カ所)を外すと、金具が取り外せます。

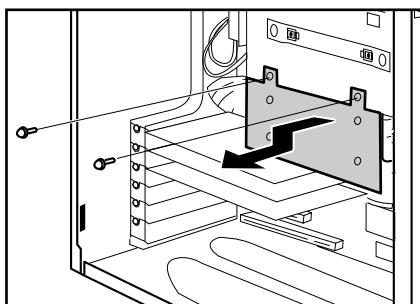
ハードディスクによっては、この金具が付いていないものもあります。

詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



4 パソコン本体から取り付け金具を取り外します。ネジ(2カ所)を外して、取り外してください。

取り付け金具には、標準搭載の内蔵ハードディスクが、あらかじめ取り付けられています。

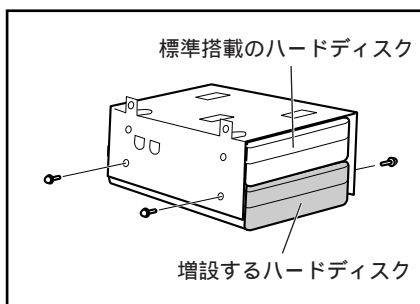


5 増設するハードディスクを、手順4で外した金具に取り付けます。

あらかじめ取り付けられているハードディスクの下に、増設するハードディスクを取り付けてください。

手順3で外したネジ、またはハードディスクに添付されているネジ(4カ所)で固定します。

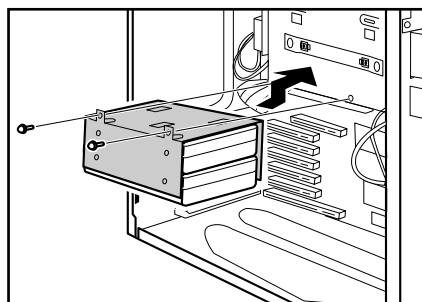
ハードディスクを金具に取り付けるときは、インチネジ(青色のネジ)をお使いください。



2

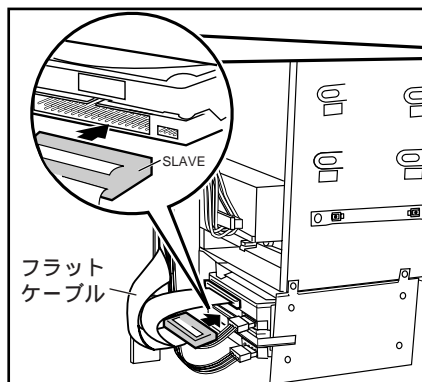
オプション機器を使用するには(ハードディスクを増設する)

- 6 ハードディスクをパソコン本体に取り付けます。
手順4で外したネジ(2カ所)で、固定してください。



- 7 ハードディスクのコネクタに、フラットケーブルを接続します。

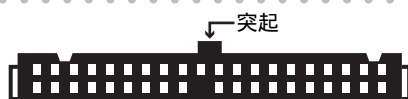
あらかじめ取り付けられているハードディスクのフラットケーブルの中間に「SLAVE」と書かれている黒いコネクタがあります。そのコネクタを、増設するハードディスクのコネクタに差し込んでください。



アドバイス

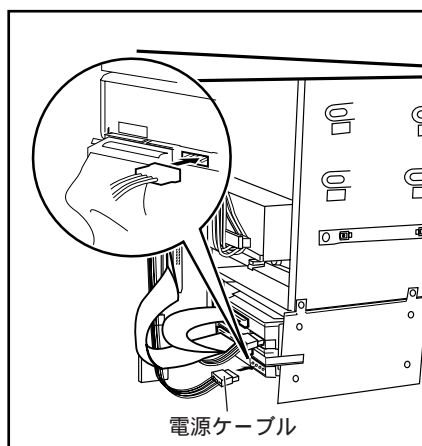
コネクタの切り込みを合わせてください

フラットケーブルのコネクタにある突起部分とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



フラットケーブルのコネクタ(正面)

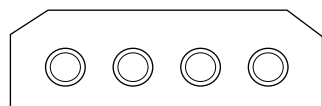
- 8 ハードディスクに、電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部にある電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使われていない1本を、増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。



アドバイス

コネクタの形を合わせてください

電源ケーブルのコネクタと、ハードディスクのコネクタは正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。



9 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44)をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(●▶P.83)をご覧ください。

アドバイス

Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合

Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスク(FMV-ID84G1、FMV-ID43G4 など)を Windows 98 環境上で Ultra DMA/33 モードで使うためには、内蔵ハードディスクを増設したあとに設定が必要です。詳しくは、アドバイス「Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合」(●▶P.78)をご覧ください。

なお、Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを、Ultra DMA/33 モードにせずに使うこともできます。この場合は、続けて領域の設定を行ってください。

ファイルスロットに取り付ける

ここでは、ファイルスロットに内蔵ハードディスクを取り付ける方法を説明します。

確認

内蔵ハードディスクを取り付ける前に

「IDE デバイスを取り付けるときの注意」(●▶P.180)をご覧ください、必要な設定を行ってください。

- 1 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40)をご覧ください、サイドカバーを取り外します。
- 2 「アッパーカバー/フロントパネルを取り外す」(●▶P.42)をご覧ください、アッパーカバーとフロントパネルを取り外します。

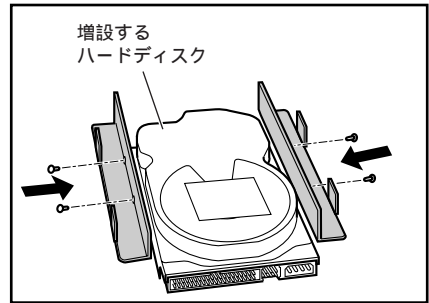
- 3 増設するハードディスクの両側に金具を取り付けます。

ハードディスクに添付されている金具を、添付されているネジ(4カ所)で固定します。

ハードディスクに金具を取り付けるときは、インチネジ(青色のネジ)をお使いください。

ハードディスクによっては、この金具があらかじめ取り付けられているものもあります。

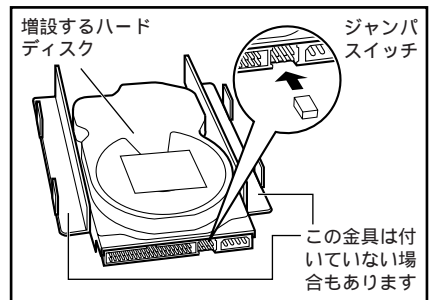
詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



- 4 増設するハードディスクのジャンプスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているかどうか確認します。

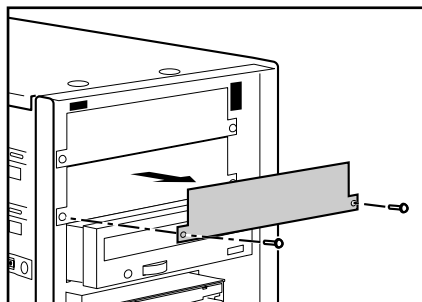
弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」(●▶P.78)に設定されています。

「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「マスター」(●▶P.78)に設定してください。ジャンプスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクが本パソコンに正しく認識されないことがあります。設定方法について詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



(イラストは一例です)

- 5** パソコン本体のかくし板を取り外します。
両側のネジ（2カ所）を取り外します。

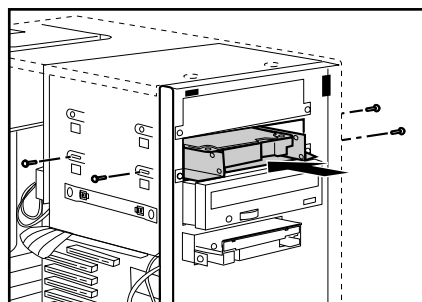


アドバイス

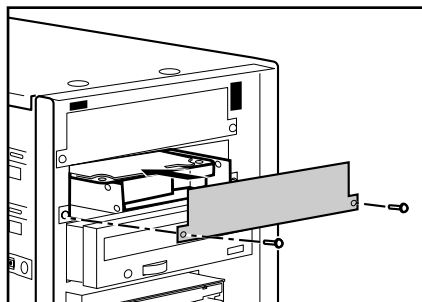
かくし板は保管してください

取り外したかくし板は捨てずに保管してください。

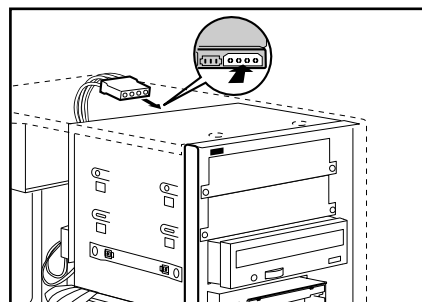
- 6** ハードディスクを取り付けます。
奥までスライドさせ、ハードディスクに添付されているネジ（4カ所）で固定します。



- 7** 手順5で取り外したかくし板を、パソコン本体に取り付けます。
両側のネジ（2カ所）をしめます。



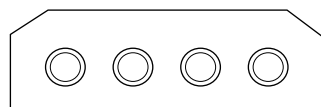
- 8** ハードディスクに、電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部にある電源ケーブル（白いコネクタ）のうち、使われていない1本を増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。



アドバイス

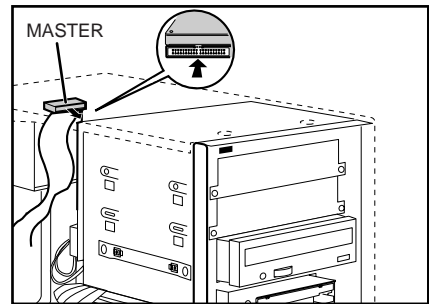
コネクタの形を合わせてください

電源ケーブルのコネクタとハードディスクのコネクタは、正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。



電源ケーブルのコネクタ（正面）

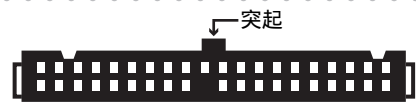
- 9 CD-R/RWドライブに接続されているフラットケーブル(黒いコネクタ)をいったん取り外します。
- 10 手順9で取り外したフラットケーブルの黒いコネクタ(「MASTER」と書かれているコネクタ)を、増設したハードディスクに接続します。



アドバイス

コネクタの切り込みを合わせてください

フラットケーブルのコネクタにある突起部分とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



フラットケーブルのコネクタ(正面)

- 11 手順10で接続したフラットケーブルの真ん中にある黒いコネクタ(「SLAVE」と書かれているコネクタ)を、CD-R/RWドライブに接続します。

アドバイス

コネクタの切り込みを合わせてください

フラットケーブルのコネクタにある突起部分とCD-R/RWドライブのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。

- 12 「フロントパネル/アッパーカバーを取り付ける」(●▶P.43)をご覧になり、フロントパネルとアッパーカバーを取り付けます。
- 13 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44)をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(●▶P.83)をご覧ください。

コラム

マスター / スレーブとは

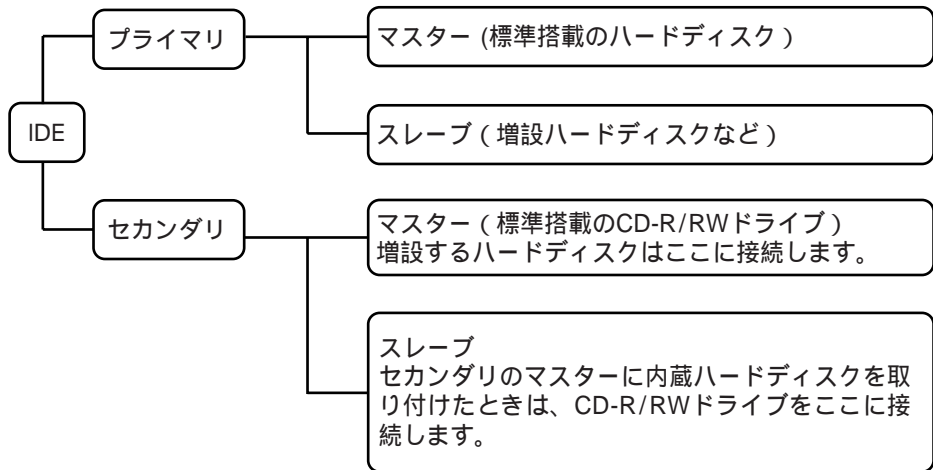
拡張IDE規格では、規格に対応した内蔵ハードディスクやCD-ROMドライブなどを2系統で各2台、合計4台まで接続できます。

2系統をそれぞれ、プライマリ、セカンダリと呼び、各系統の1台目をマスター、2台目をスレーブとして区別します。

本パソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクは、「ケーブルセレクト」(以下参照)に設定され、プライマリのマスターとして認識されています。

増設するハードディスクは、プライマリのスレーブ、またはセカンダリのマスターとして取り付けます。

本パソコンにあらかじめ取り付けられているCD-R/RWドライブは、「ケーブルセレクト」に設定され、セカンダリのマスターとして認識されています。



ケーブルセレクトとは

本パソコンは「ケーブルセレクト」という機能を備えています。ケーブルセレクトとは、IDE規格のハードディスクをケーブルの指定の場所に接続するだけで、取り付けたハードディスクがマスターであるかスレーブであるかを、本パソコンが自動的に認識するというものです。

増設するハードディスクのジャンプスイッチをケーブルセレクトに設定し、本パソコンの内部にあるハードディスク用フラットケーブルの空いているコネクタに接続するだけで、そのハードディスクをマスターまたはスレーブとして使うことができます。

アドバイス

Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合

Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスク (FMV-ID84G1、FMV-ID43G4 など) を Windows 98 環境上で Ultra DMA/33 モードで使うには、内蔵ハードディスクを増設したあとに以下の操作を行ってください。

なお、Ultra DMA/33 モードに対応していないハードディスクでは、以下の操作は行わないでください。ハードディスクが正常に動作せず、データが失われることがあります。

また、Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを、Ultra DMA/33 モードにせずに使うこともできます。その場合は、以下の作業は不要です。「領域を設定する」(●▶P.83) をご覧になり、領域の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 「ディスクドライブ」の をクリックします。
ディスクドライブの一覧が表示されます。
- 5 2つある「GENERIC IDE DISK TYPEXX」のうち、上から2つ目をクリックします。

- 6 「プロパティ」をクリックします。
「GENERIC IDE DISK TYPEXX のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7 「設定」タブをクリックします。
- 8 「現在のドライブ文字割り当て」に「C:」が表示されていないこと、または何も表示されていないことを確認します。
「現在のドライブ文字割り当て」に「C:」が表示されているときは、「キャンセル」をクリックします。「ディスクドライブ」の2つある「GENERIC IDE DISK TYPEXX」のうち、1つ目をクリックし、手順6に戻って操作し直してください。
- 9 「DMA」の をクリックし、 にします。
- 10 「OK」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 11 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 12 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

このあと、「領域を設定する」(●▶P.83)をご覧になり、増設したハードディスクの領域を設定してください。

SCSI 規格の内蔵ハードディスクを増設するときは

以下の手順に従って取り付けてください。

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがありますので、取り付けるときは落としたり倒したりしないように十分ご注意ください。

- 1 SCSI 規格の内蔵ハードディスクと SCSI カードの SCSI ID (●▶P.80) を設定します。
終端抵抗(ターミネータ)の設定が必要な場合もあります。詳しくは、内蔵ハードディスクと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。
 - 2 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40)をご覧になり、サイドカバーを取り外します。
ファイルスロットに取り付けるときは、サイドカバーを取り外したあと、「アッパーカバー/フロントパネルを取り外す」(●▶P.42)をご覧になり、アッパーカバーとフロントパネルも取り外してください。
 - 3 SCSI カードを取り付けます。
詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶P.54)をご覧ください。
 - 4 内蔵ハードディスクスロット、またはファイルスロットに、SCSI 規格の内蔵ハードディスクを取り付けます。
取り付けかたは、「内蔵ハードディスクスロットに取り付ける」の手順3~6(●▶P.73)または「ファイルスロットに取り付ける」の手順3、5~7(●▶P.75)をご覧ください。
 - 5 SCSI カードに添付されているフラットケーブルで、増設した内蔵ハードディスクと SCSI カードを接続します。
 - 6 増設した内蔵ハードディスクに、電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部にある電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使われていない1本を、増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。
 - 7 フロントパネル/アッパーカバーを取り外したときは、「フロントパネル/アッパーカバーを取り付ける」(●▶P.43)をご覧になり、アッパーカバーとフロントパネルを取り付けます。
 - 8 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44)をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。
- 続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(●▶P.83)をご覧ください。

ケーブルを誤って取り外してしまったときは

本パソコンに標準搭載されているハードディスク(Primary IDE Master)に接続されているフラットケーブルを誤って取り外してしまった場合など、本パソコンに接続されているIDEドライブの構成を変更すると、ドライブの起動順序が変更されてしまい、OS が起動できなくなる場合があります。

その場合は、フラットケーブルを正しく接続し、BIOS セットアップの Boot メニューの Hard Drive (●▶P.134)で、ドライブの起動順序を修正してください。

.....

外付けハードディスクを取り付ける

⚠警告



ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。

- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

SCSIカードと外付けハードディスクは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われぬおそれがあります。

1

ハードディスクとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0～7番までの番号があります。

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。

ハードディスクのSCSI IDは、それ以外の番号(0～6番)を設定してください。

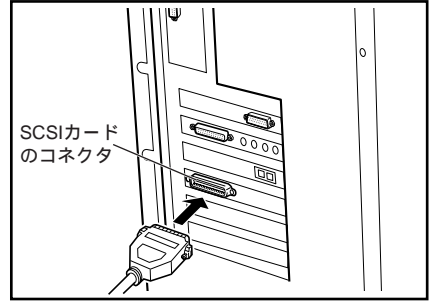
設定のしかたについては、SCSIカードとハードディスクのマニュアルをご覧ください。

2

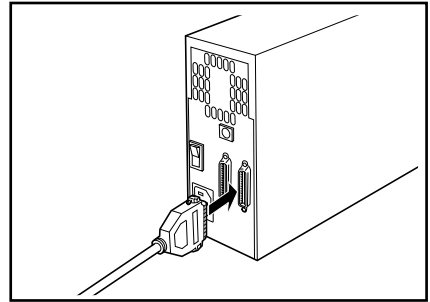
SCSIカードを取り付けます。

取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶P.54)をご覧ください。

- 3** SCSIカードのコネクタにSCSIケーブルを接続します。
SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。



- 4** ハードディスクのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。

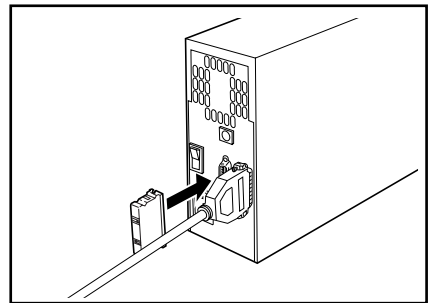


アドバイス

コネクタにIN/OUTの指示がないときは

ハードディスクによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。その場合は、どちら側に接続してもかまいません。

- 5** ハードディスクに終端抵抗を取り付けます。
ハードディスクのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。



重要

終端抵抗は3つ以上取り付けないでください

終端抵抗は、SCSIカードおよび末端となる機器にのみ取り付けてください（SCSIカードには通常、終端抵抗が内蔵されています）。

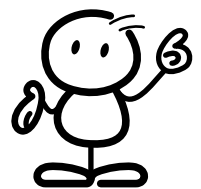
すでにSCSI規格の内蔵オプション機器を増設している場合は、SCSIカードの終端抵抗を無効にする必要がある場合があります。詳しくは、SCSIカードのマニュアルをご覧ください。

終端抵抗を3つ以上取り付けたら、3つ以上有効にしたりすると、故障の原因となることがあります。

- 6** ハードディスクに電源ケーブルを接続します。
ハードディスクに電源ケーブルが繋がっている場合もあります。詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。

- 7 本パソコンと、接続されている機器、接続したハードディスクの電源プラグをコンセントに差し込みます。

続いて領域の設定を行います。次ページの「領域を設定する」をご覧ください。



領域を設定する

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定作業は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。領域を分けると、それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っていたハードディスクの領域を設定し直す場合は、「アドバイス」(●▶P.88)をご覧ください。領域を削除してから、領域の設定を行ってください。

重要

ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して、本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成した場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。CD-R/RWドライブのドライブ名も変更されます。詳しくは、「コラム」(●▶P.89)をご覧ください。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

保存されていたデータが失われます

ハードディスクの領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

確認

先に外付けハードディスクの電源を入れてください

外付けハードディスクを増設したときは、パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。

常駐しているアプリケーションを終了してください

領域を設定する前に、常駐しているアプリケーション(「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
- 3 C:¥WINDOWS> に続けて `fdisk` と入力して、`[Enter]` を押します。

```
Microsoft(R) Windows 98
(C) Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
```

```
C:¥WINDOWS>fdisk
```

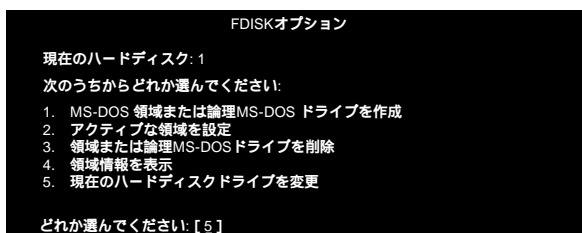
4 **[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクではほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N) ? [Y]

5 **[5]**を押して「5.現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]**を押します。



アドバイス




「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。領域の設定を中断するには、手順 16、18、19（●▶P.87）を行ったあと、「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

- ハードディスクが正しく接続されているか
 - 外付けハードディスクを接続した場合は、電源が入っているか
- 確認したあと、再び手順 1（●▶P.83）から操作し直してください。

SCSI規格のハードディスクを増設した場合で、上記のことを確認しても「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設したハードディスクをWindows 98が認識していない可能性があります。

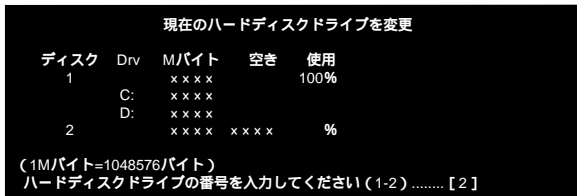
以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （システム）をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の  をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int 13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。 になっているときは、クリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の （閉じるボタン）をクリックします。
- 8 再び手順 2（●▶P.83）から操作し直します。

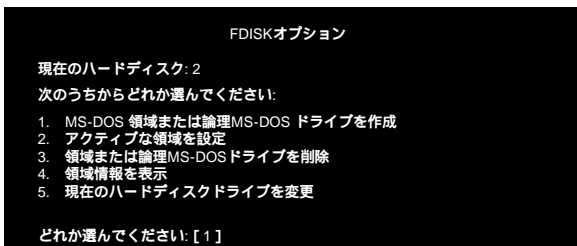
ドライブ名やハードディスクの番号は異なる場合があります

ハードディスクなどのオプション機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

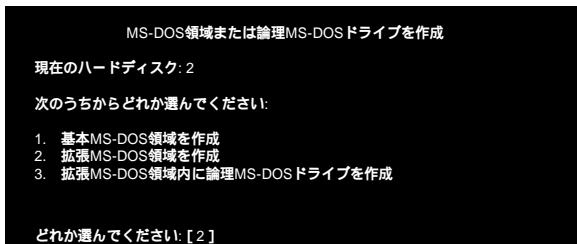
- 6 ②を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]**を押します。
ディスク1は、ご購入時に内蔵されているハードディスクです。
ディスク2が増設したハードディスクです。



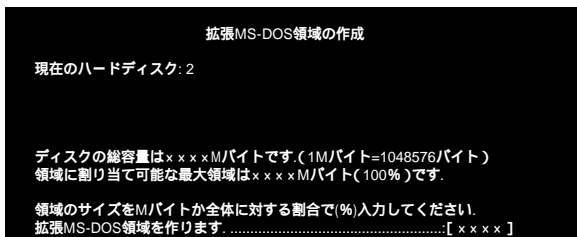
- 7 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[1]**を押して「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選び、**[Enter]**を押します。



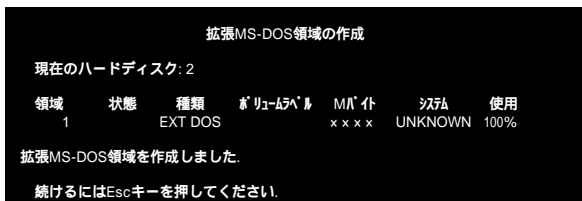
- 8 ②を押して「2. 拡張MS-DOS領域を作成」を選び、**[Enter]**を押します。



- 9 「ディスクの総容量は...拡張MS-DOS領域を作ります。」というメッセージが表示されたら、そのまま**[Enter]**を押します。
増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。



10 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



11 ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。



領域を分けない場合

手順 12へ進みます。

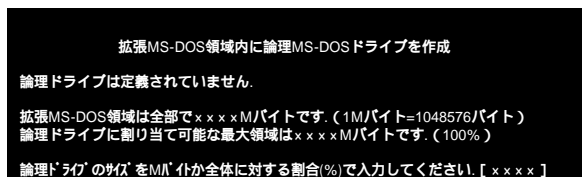


領域を分ける場合

手順 13へ進みます。

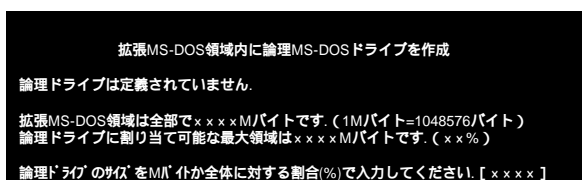
■ 領域を分けない場合 ■

12 そのまま **[Enter]**を押して、手順 15へ進みます。



■ 領域を分ける場合 ■

13 1つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。



アドバイス

容量を入力するときに

単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。

画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

- 14 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されたら、2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けられます。

表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

```

拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

Drv # 容量(MB) ドライブ名 システム 使用
E:          XXXX UNKNOWN  XX%

拡張MS-DOS領域は全部でx x x x Mバイトです。(1Mバイト=1048576バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域はx x x x Mバイトです。(XX%)

論理ドライブのサイズをMB単位が全体に対する割合(%)で入力してください。[ x x x x ]

論理 MS-DOS ドライブを作成しました。 ドライブ名は変更または追加されました。

```

- 15 「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

- 16 **[Esc]**を押します。

- 17 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

```

変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。
変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマット
する必要があります。

再起動する前にWindowsを終了してください。

```

- 18 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウの右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]**を押してください。

- 19 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 20 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。「フォーマットする」(●▶P.90)をご覧ください。

アドバイス

領域を削除する

増設したハードディスクの領域は、削除したり分け直したりできます。

たとえば、本書の手順に従って増設したハードディスクの領域を分けずに使っていた場合に、領域の設定をし直すことで領域を分けることができます。ただし、領域を削除したり、領域の設定をし直したりすると、増設ハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

また、以下の手順に従って領域を削除すると、Eドライブ以降（基本MS-DOS領域を削除した場合はDドライブ以降）のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- 1 「領域を設定する」の手順 1 ~ 6 (●▶ P.83) の作業を行います。
- 2 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[3]**を押して「3.領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 3 **[3]**を押して「3.拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 4 「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット1文字)を入力し、**[Enter]**を押します。領域を削除する増設ハードディスクの領域が2つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名(アルファベット)が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。
- 5 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合
そのまま **[Enter]** を押します。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合
表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]** を押します。

- 6 「よろしいですか(Y/N)」というメッセージが表示されたら、**[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました..」というメッセージが表示されます。
- 7 ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。



領域が分かれていない場合

画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました..」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]**を押します。



領域が分かれている場合

手順 4 ~ 6 を繰り返して、ドライブを削除します。

「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました..」というメッセージが表示され、画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました..」というメッセージが表示されたことを確認します。そのあと、**[Esc]**を押します。

- 8 「論理ドライブは定義されていません..」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。
- 9 **[3]**を押して「3.領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 10 **[2]**を押して「2.拡張MS-DOS領域を削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 11 **[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。
- 12 「拡張MS-DOS領域を削除しました..」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。基本MS-DOS領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本MS-DOS領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「領域を設定する」の手順 7 (●▶ P.85) から作業を行ってください。

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て

ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ハードディスクとCD-R/RWドライブのドライブ名が変更されます。

本パソコンにハードディスクを1台増設した場合、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスク、増設したハードディスク、CD-R/RWドライブには、以下の表のとおり順番でドライブ名が割り当てられます。

ドライブ名(ア)は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名(イ)は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名 (ア)	ドライブ名 (イ)	備考 (FDISK との対応)
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOSドライブ
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
5	CD-R/RWドライブ	F	G	-

- 増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に、増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にCD-R/RWドライブが割り当てられます。
- 増設ハードディスクに基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域(ハードディスク2の基本MS-DOS領域)が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

フォーマットする

新しくハードディスクを取り付けたときには、領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

フォーマットするとデータは失われます

ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

BIOS セットアップの設定を変更した場合

BIOS セットアップの Advanced メニューの Primary IDE Slave/Secondary IDE Master/Secondary IDE Slave (**▶P.122) で、サブメニューにある Type を「Auto」以外に設定した場合は、設定を「Auto」に戻してからフォーマットしてください。Auto 以外の値に設定する場合は、増設するハードディスクのマニュアルをご覧ください。設定が正しくないと、ハードディスクに正常にアクセスできなくなります。




設定が正しくないと、ハードディスクに正常にアクセスできなくなります。

本パソコンのご購入時は「Auto」に設定されているので、通常、変更する必要はありません。詳しくは「第3章 BIOS セットアップ」(**▶P.107) をご覧ください。

確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション（「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション）やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 デスクトップの （マイコンピュータ）をクリックします。
- 2 増設したハードディスクのドライブにマウスポインタを合わせます。マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張 MS-DOS 領域）を2つに分けた場合です。

重要

どのドライブが増設したハードディスクのものが調べてください

本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域を設定すると、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成した場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更される場合があります。増設したハードディスクがどのドライブに割り当てられているか、調べてください。

増設したハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

2

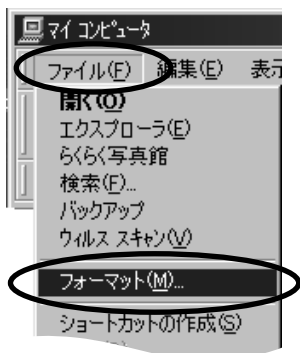
オプション機器を使用するには(ハードディスクを増設する)

アドバイス

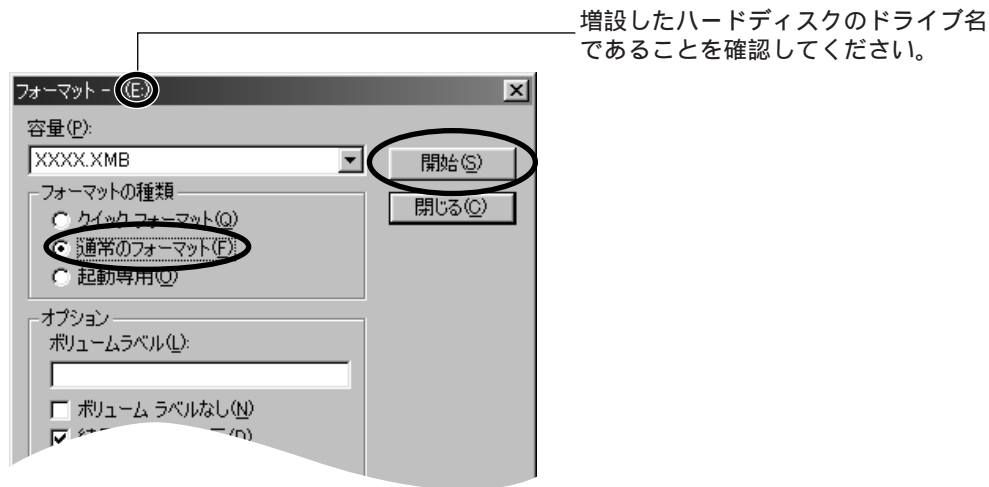
「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

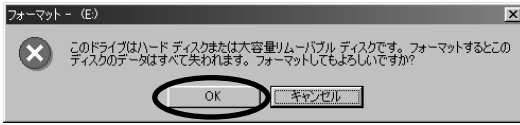
- 3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。



- 4 「フォーマットの種類」欄の「通常のフォーマット」をクリックし、「開始」をクリックします。

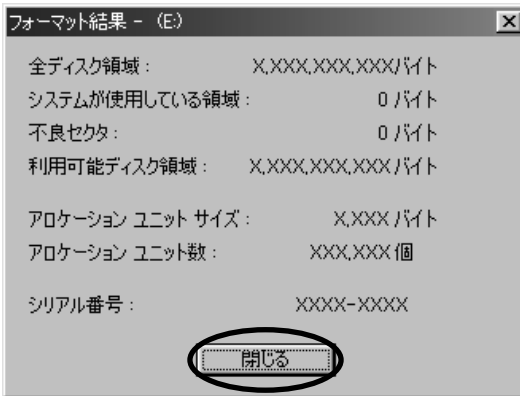


5 「OK」をクリックします。

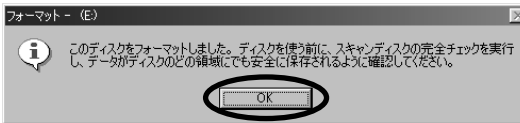


フォーマットが始まります。

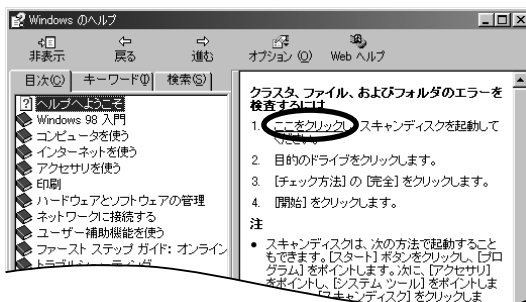
6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。



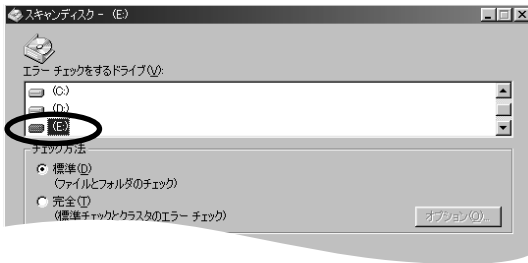
7 「OK」をクリックします。



8 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。
スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10 「チェック方法」で「完全」を選びます。

- 11 「開始」をクリックします。

アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

- 12 スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

- 13 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

- 14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

- 15 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

アドバイス

領域を 2 つ以上に分けたときは

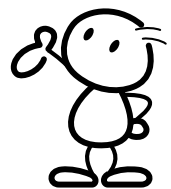
手順 2 ~ 15 (**▶P.90) を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

長いファイル名を使ったファイルをコピーするには

Windows98 で作成した長いファイル名(半角で8文字の基本名と3文字の拡張子より長いファイル名)をつけたファイルは、ハードディスクをフォーマットした直後はコピーできません。

長いファイル名をつけたファイルをコピーするには、フォーマット後に本パソコンを再起動してください。SCSI規格のハードディスクを増設した場合は、再起動しなくても長いファイル名をつけたファイルをコピーできます。

- 16 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

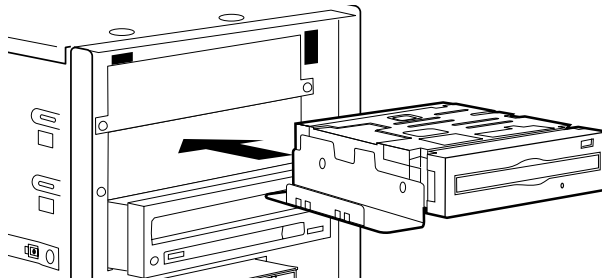


ファイルスロットにオプション機器を取り付ける

ファイルスロットは、内蔵フロッピーディスクドライブ、内蔵SCSIオプション機器（MOドライブ、CD-ROMドライブなど）、内蔵ハードディスクなどを取り付けるためのスロットです。

ここでは、ファイルスロットへのオプション機器の取り付けかたを説明します。

内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「内蔵ハードディスクを取り付ける」（**▶P.71）をご覧ください。



警告

感電



内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。

誤飲



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意

故障



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。
- 内蔵オプション機器は、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の内蔵オプション機器をお使いになると、故障の原因となる場合があります。

けが



内蔵オプション機器の取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因になることがあります。

けが



基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となる場合があります。

重要

内蔵オプション機器は、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
ファイルスロットオプションを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業をはじめてください。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

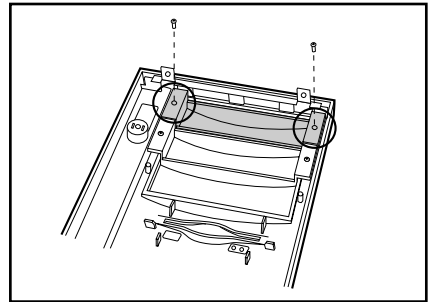
ここでは、5インチフロッピーディスクドライブを例に、取り付けかたを説明します。

確認

内蔵FDD増設カードを取り付けてください

フロッピーディスクドライブを取り付けるには、別売りの「内蔵FDD増設カード」(FMV-151)を取り付けてください。取り付けかたについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶P.54)をご覧ください。

- 1 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40)をご覧ください、サイドカバーを取り外します。
- 2 「アッパーカバー/フロントパネルを取り外す」(●▶P.42)をご覧ください、アッパーカバーとフロントパネルを取り外します。
- 3 手順2で取り外したフロントパネルの裏面から、かくし板を取り外します。
かくし板の両端にあるネジ(2カ所)を取り外します。



アドバイス

かくし板は保管してください

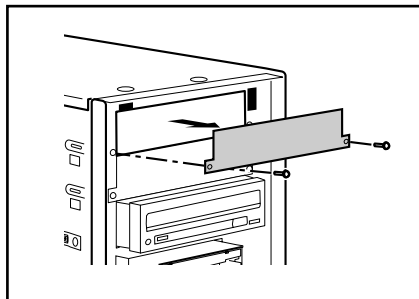
取り外したかくし板は、捨てずに保管してください。
フロッピーディスクドライブを取り外したときは、かくし板をフロントパネルに取り付けてください。

3.5インチフロッピーディスクドライブを取り付けるときは

3.5インチフロッピーディスクドライブを取り付ける場合は、本パソコンに添付されているファイルスロットパネルを、手順3で取り外したネジで、フロントパネルに取り付けてください。

取り付けかたについては、「内蔵SCSIオプション機器を取り付ける」の手順4(●▶P.98)をご覧ください。

- 4** パソコン本体からかくし板を取り外します。
ネジ（2カ所）を外して取り外します。

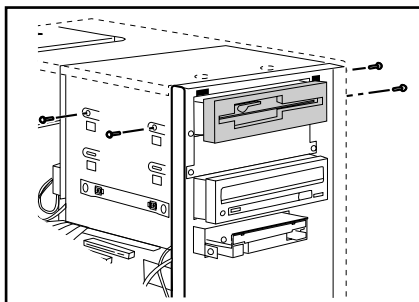


アドバイス

かくし板は保管してください

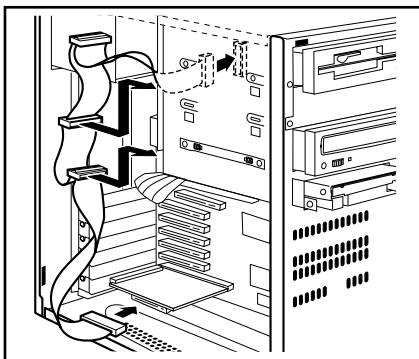
取り外したかくし板は、捨てずに保管してください。
フロッピーディスクドライブを取り外したときは、かくし板をパソコン本体に取り付けてください。

- 5** フロッピーディスクドライブをパソコン本体に取り付けます。
奥までスライドさせ、フロントパネルを当ててみて、ドライブの前面がフロントパネルの面とそろう位置を探します。
位置が決まったら、ドライブに添付されているネジ（4カ所）で固定します。



- 6** 本パソコンのご購入時に搭載されているフロッピーディスクドライブとマザーボードを接続しているフラットケーブルを取り外します。

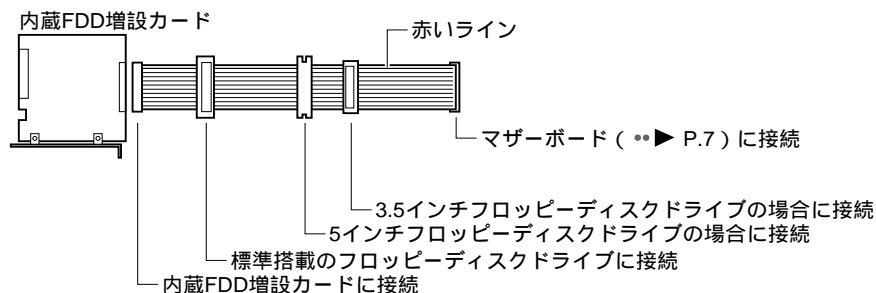
- 7** 内蔵FDD増設カードに添付されているフラットケーブルを接続します。
次ページのアドバイス「フラットケーブルのコネクタの接続先」をご覧ください。ケーブルの各コネクタを接続してください。



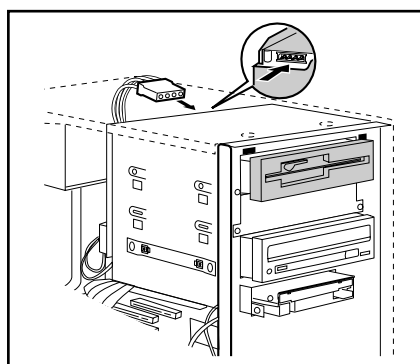
アドバイス

フラットケーブルのコネクタの接続先

内蔵 FDD 増設カードに添付されているフラットケーブルの各コネクタの接続先は以下のとおりです。



- 8** 電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部の電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使っていない1本をフロッピーディスクドライブのコネクタに接続します。



アドバイス

3.5 インチフロッピーディスクドライブを取り付けたときは
ドライブに添付されている電源変換ケーブルを使って接続します。

- 9** 「フロントパネル/アッパーカバーを取り付ける」(●▶ P.43) をご覧になり、フロントパネルとアッパーカバーを取り付けます。
- 10** 「サイドカバーを取り付ける」(●▶ P.44) をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

このあと、BIOS セットアップを起動し、Advanced メニューの Floppy Options のサブメニューにある Diskette B (●▶ P.125) の設定を、取り付けたフロッピーディスクドライブのタイプに設定してください。詳しくは、「第3章 BIOS セットアップ」(●▶ P.107) をご覧ください。

内蔵 SCSI オプション機器を取り付ける

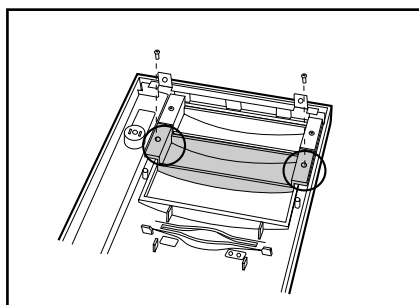
内蔵 SCSI オプション機器には、ハードディスク、MO (光磁気ディスク)、CD-ROM などの各種ドライブがあります。

内蔵 SCSI オプション機器を使うには、SCSI カードが必要です。SCSI カードの取り付けかたについては「拡張カードを増設する」(●▶ P.54) をご覧ください。

ここでは MO ドライブを例に、取り付けかたを説明します。

内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(●▶ P.71) をご覧ください。

- 1 「サイドカバーを取り外す」(●▶ P.40) をご覧になり、サイドカバーを取り外します。
- 2 「アッパーカバー / フロントパネルを取り外す」(●▶ P.42) をご覧になり、アッパーカバーとフロントパネルを取り外します。
- 3 手順 2 で取り外したフロントパネルの裏面から、かくし板を取り外します。
かくし板の両端にあるネジ (2カ所) を取り外します。



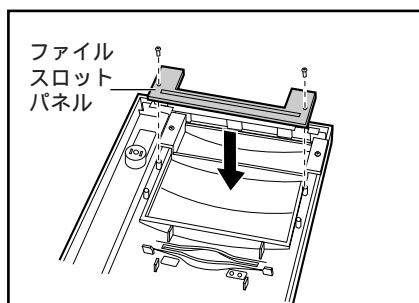
アドバイス

かくし板は保管してください

取り外したかくし板は捨てずに保管してください。

内蔵 SCSI オプションを取り外したときは、かくし板をフロントパネルに取り付けてください。

- 4 フロントパネルに、ファイルスロットパネルを取り付けます。
本パソコンに添付されているファイルスロットパネルをネジでフロントパネルに取り付けます。



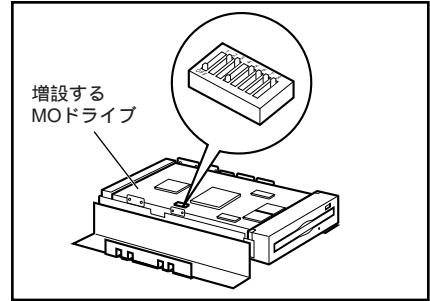
アドバイス

CD-ROM ドライブを取り付ける場合

CD-ROM ドライブを取り付ける場合には、この作業は必要ありません。

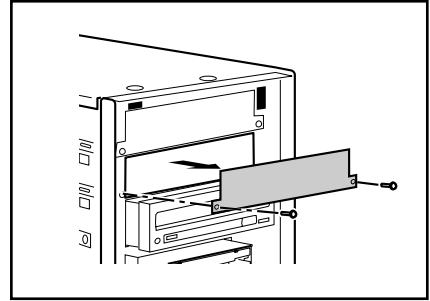
- 5 SCSI カードを取り付けます。
取り付けかたは「拡張カードを取り付ける」(●▶ P.60) をご覧ください。
- 6 増設する内蔵 MO ドライブの両側に金具を取り付けます。
MO ドライブに添付されている金具を、添付されているネジ (4カ所) で固定します。
MO ドライブによっては、この金具があらかじめ取り付けられているものもあります。
詳しくは、MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

- 7 増設するMOドライブのSCSI IDを設定します。MOドライブのマニュアルをご覧になり、0～6番の間で任意の番号を設定します。ほかのSCSI機器を取り付けている場合は、その機器のSCSI IDと重複しない番号を設定してください。



（イラストは一例です）

- 8 パソコン本体からかくし板を取り外します。ネジ（2カ所）を外して取り外します。



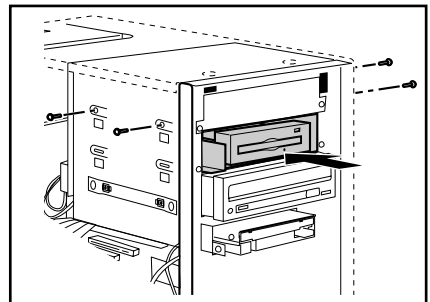
アドバイス

かくし板は保管してください

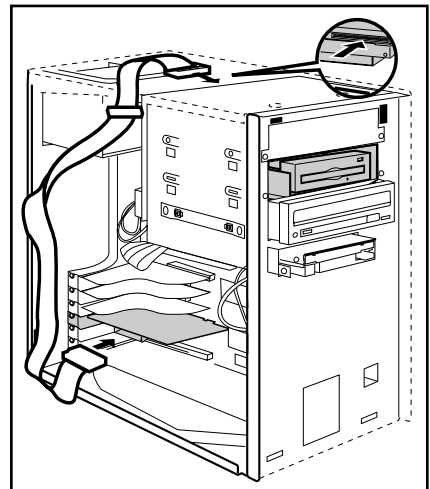
取り外したかくし板は捨てずに保管してください。

内蔵 SCSI オプションを取り外したときは、かくし板をパソコン本体に取り付けてください。

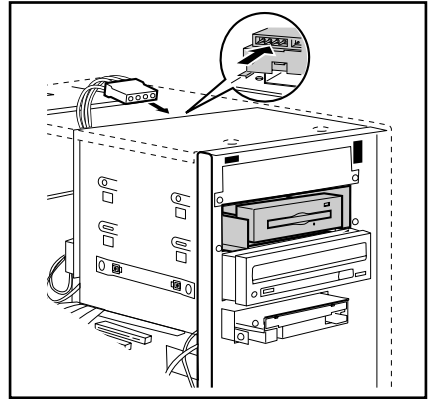
- 9 MOドライブをパソコン本体に取り付けます。奥までスライドさせ、フロントパネルを当ててみて、ドライブの前面がフロントパネルの面とそろう位置を探します。位置が決まったら、ドライブに添付されているネジ（4カ所）で固定します。



- 10 SCSIカードに添付されているフラットケーブルを接続します。フラットケーブルの片方のコネクタを、MOドライブのコネクタに接続します。もう片方のコネクタを拡張スロットに取り付けたSCSIカードのコネクタに接続します。



- 11** 電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部の電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使っていない1本をMOドライブのコネクタに接続します。



- 12** 「フロントパネル/アッパーカバーを取り付ける」(●▶P.43)をご覧になり、フロントパネルとアッパーカバーを取り付けます。
- 13** 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44)をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

その他のオプション機器を使う

MO(光磁気ディスク)ドライブを使う

MO(エムオー)ドライブとは、レーザーと磁気でMO(光磁気ディスク)にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

必要なものを用意する

MOドライブを使うには、次のものがが必要です。

MOドライブ

MOドライブにはパソコン本体に内蔵するものと、外付けのがあります。また、ATAPI規格とSCSIという2つの規格があります。

ATAPI規格のMOドライブは、パソコン本体のファイルスロット(●▶P.94)に取り付けます。SCSI規格のMOドライブは外付けのものと内蔵のがあります。

SCSI規格のMOドライブを使うには、MOドライブ本体のほかに、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗などが必要です。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI規格のMOドライブを使うために必要なものです。

終端抵抗(ターミネータ)は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合」(●▶P.69)をご覧ください。

MO

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをご購入ください。

用語 SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。

MOドライブを使うには

ATAPI規格のMOドライブとSCSI規格のMOドライブとは、取り付ける手順が異なります。ATAPI規格のMOドライブをお使いになる場合は、「内蔵ハードディスクを取り付ける」の「ファイルスロットに取り付ける」(●▶P.75)を参考にしてください。また、MOドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

SCSI規格のMOドライブを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたなどについては、「拡張カードを増設する」(●▶P.54)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードとMOドライブをつなぎます。外付けのMOドライブには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。内蔵のMOドライブは、ディップスイッチなどで終端抵抗を設定する必要があるものもあります。内蔵MOドライブの接続方法については、「ファイルスロットにオプション機器を取り付ける」(●▶P.94)をご覧ください。外付けのMOドライブの接続方法については、「外付けハードディスクを取り付ける」(●▶P.80)を参考にしてください。

また、MOドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

スキャナを使う

スキャナは、イラストや写真などを画像データとして取り込むための装置です。

必要なものを用意する

スキャナを使うには、次のものがが必要です。

スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。

また、パソコン本体のパラレルコネクタ(●▶P.5)に接続するものや、SCSIカードという拡張カードを使うもの(SCSI規格)などがあります。

スキャナにはTWAINという規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

用語 TWAIN (トゥウエイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

アドバイス

SCSI規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)が必要になります。SCSIのコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)については詳しくは、「SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合」(●▶P.69)をご覧ください。

フォトタッチソフト(画像を加工するソフトウェア)

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能が使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの ■

ケーブルで、スキャナとパソコン本体(平行コネクタ●▶P.5)をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。
接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

■ SCSIカードに接続するもの ■

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては「拡張カードを増設する」(●▶P.54)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

ターミナルアダプタを接続する

本パソコンには、ターミナルアダプタ(TA:ティーエー)を接続できます。

ターミナルアダプタは、ISDN回線に接続するために必要な機器です。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには次のものがが必要です。

ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ(●▶P.4)に接続するものや、USBコネクタ(●▶P.2、4)に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するものは、専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体をつなぎます。

USBコネクタに接続するものは、次ページの「USB機器を接続する」をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU(ディーエスユー)という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

USB 機器を接続する

本パソコンには、USB 機器を接続できます。

必要なものを用意する

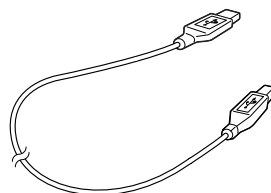
USB 機器を使うには、次のものがが必要です。

USB 機器

マウス、キーボード、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

USB ケーブル

USB 機器と本パソコンをつなぐケーブルです。
USB 機器に添付されている場合もあります。




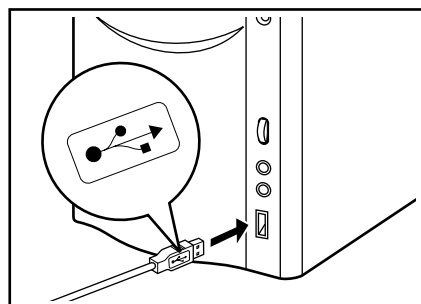
USB 機器のドライバ

通常はUSB 機器に添付されています。

USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

- 1 パソコン本体前面またはディスプレイのUSBコネクタに、USB 機器のケーブルを接続します。本体前面に接続するときは、カバーを下にスライドさせてから、コネクタのマークを右に向けて差し込んでください。USB コネクタをお使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。ディスプレイのUSBコネクタに接続する場合は『取扱説明書』をご覧ください。



- 2 ドライバをインストールします。ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

マルチモニタ機能を使う

Windows98には、1台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものと、行う作業について説明します。

必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、本パソコンのほかに次のものがが必要です。

- マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- 用意したグラフィックスカードのディスプレイドライバ（マルチモニタ機能対応のもの）
- ディスプレイ

グラフィックスカードを選ぶときの注意

- 本パソコンにはAGPスロットの空きが無いため、AGP規格のグラフィックスカードはお使いになれません。
- ISA 規格のグラフィックスカードではマルチモニタ機能をお使いになれません。
- Windows98に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能に対応していない場合があります。マルチモニタ機能に対応しているか製造元のメーカーにご確認ください。



グラフィックスカードとディスプレイを接続する

始めに、グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

- 1 「拡張カードを取り付ける」(●▶P.60) をご覧になり、グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます。
- 2 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。
接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。
- 3 ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 接続したディスプレイと、パソコン本体の電源を入れます。
パソコン本体の電源を入れると、新たに接続したディスプレイのほうに起動画面が表示されます。
- 5 ディスプレイドライバをインストールします。
グラフィックスカードのマニュアルをご覧になり、ディスプレイドライバをインストールしてください。
ドライバインストール後、本パソコンを再起動してください。

マルチモニタ機能を設定する


ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあと、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「2」と表示されたディスプレイをクリックして選びます。
「このモニタを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。
- 6 接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。
解像度と発色数の設定のしかたについて詳しくは、『困ったときのQ&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。
「互換性の警告」ウィンドウが表示された場合は、「新しい色の設定で再起動する」を選び、「OK」をクリックしてください。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

コラム

プライマリモニタとセカンダリモニタ

本パソコンでは、プライマリモニタは「PCI」に設定されています。増設したPCI規格のグラフィックスカードがプライマリアダプタになり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがプライマリモニタになります。

一方、本パソコンのご購入時に搭載されているAGP規格のグラフィックスシステムはセカンダリアダプタとなり、『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイがセカンダリモニタになります。

パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリモニタに表示されます。

プライマリアダプタは「画面のプロパティ」の「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリアダプタは「2」と表示されます。

また、複数のPCIグラフィックスカードを取り付けた場合、PCIスロット（**▶P.60）の番号の小さい順に、モニタが割り当てられます。

アドバイス

2つのディスプレイに表示できない場合

グラフィックスカードによっては、解像度と発色数を変更すると、片方のディスプレイが表示されなくなることがあります。この場合は、本パソコンをもう一度再起動すると、2つのディスプレイに表示されるようになります。

3

BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常적으로お使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは 108
2. BIOS セットアップの操作のしかた 109
3. ご購入時の設定に戻す 113
4. BIOS セットアップメニューの詳細 115
5. パスワードを使う 138
6. CMOS RAM の内容を消去する 143
7. BIOS が表示するメッセージ一覧 145

BIOS セットアップとは

BIOSセットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。

次のような場合にのみ設定を行ってください。

- フロッピーディスクドライブや内蔵ハードディスク(IDE規格)、CD-ROMドライブなどの装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード(暗証番号)を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- 省電力モード(電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態)を変更するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOSセットアップに関するメッセージが表示されたとき
- 他のOSをお使いになるとき

アドバイス

バッテリーの交換について

BIOSセットアップで設定した内容は、パソコン本体内部のCMOS RAM(シーモス・ラム)と呼ばれるメモリに記録されます。このCMOS RAMは、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOSセットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOSセットアップに関するメッセージが表示される場合は、このCMOS RAMに設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、「パソコンFMシリーズ サポート&サービス 富士通サポート ご案内」をご覧ください。

2

BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4 画面左下に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されている間に、**[F2]**を押します。
BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
BIOS Version	4W4SB0X0.07A.XXXX.XXX				
Processor Type	Pentium®				
Processor Speed	500MHz				
Cache RAM	512KB				
System Memory	64 MB				
Memory Bank 0	Not Installed				
Memory Bank 1	Not Installed				
Memory Bank 2	64 MB SDRAM				
Language:	[English (US)]				
Processor Serial Number:	[Enabled]				
ECC Configuration	[Non-ECC]				
L2 Cache ECC Support:	[Disabled]				
System Time:	[16:05:31]				
System Date:	[03/01/1999]				
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select	▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit	

メニューバー
メニューの名称です。
Main、Advanced、
Security、Power、Boot、
Exitの6つのメニューが
あります。

設定フィールド
各メニューで設定する、
項目と設定値が表示さ
れます。

ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項
目の解説が表示されま
す。

キー一覧
設定時に使用するキー
の一覧です。

アドバイス

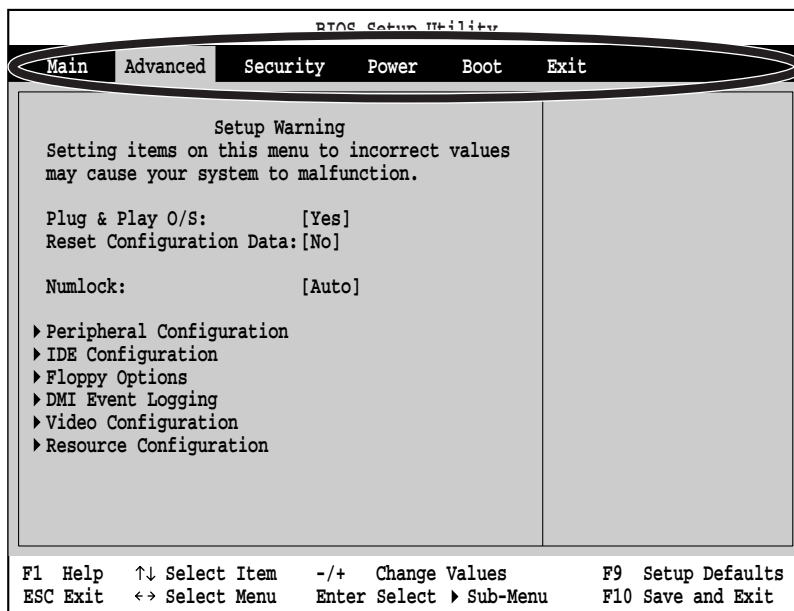
Windows 98 が起動してしまったら

Windows 98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。

Windows 98 が起動してしまったときは、Windows 98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

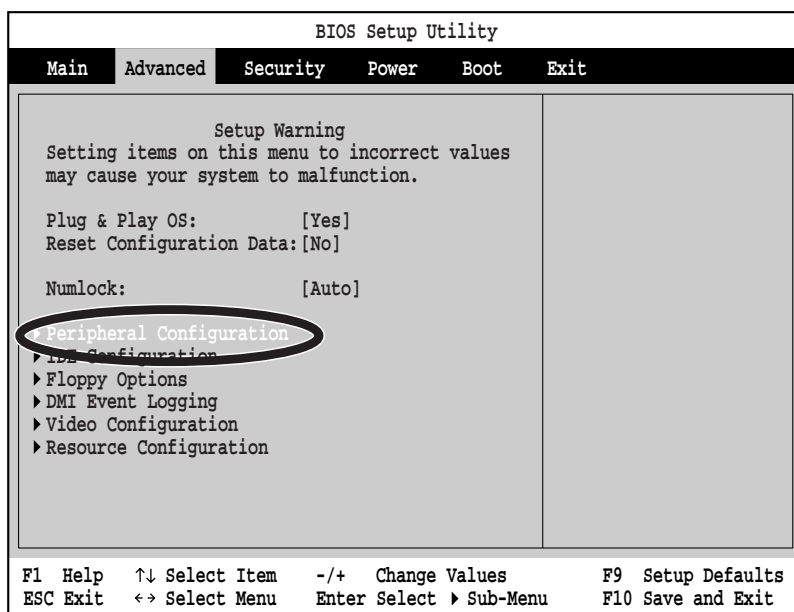
設定を変更する

- 1 を押して、設定を変更したいメニューを表示します。
 を押すと、Main、Advanced、Security、Power、Boot、Exit の各メニュー画面が表示されます。



(画面は一例です)

- 2 を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
▶ の付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。



(画面は一例です)

3 、、 のどれかを押し、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、 を押し、設定を変更したいメニューを表示し、手順 2 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、 を押し、1 つ前の画面に戻ります。

アドバイス

数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは「BIOS セットアップメニューの詳細」(●▶ P.115) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了するときは、次ページの「BIOS セットアップを終了する」をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- 、 + : BIOS セットアップの全般的な解説を表示します。 を押し、2 ページ目が表示されます。、または を押し、元の画面に戻ります。
- : メニューを切り替えます。
- : 設定する項目にカーソルを移動します。
- : メニューの一番上にカーソルを移動します。
- : メニューの一番下にカーソルを移動します。
- : 1 つ前のページに移動します。
- : 1 つ後のページに移動します。
- 、 : 1 つ前の設定を選択します。
- 、、 : 1 つ後の設定を選択します。
- : 設定を本パソコンのご購入時の設定に戻します。
このキーを押すと、「Load default configuration now? 」というメッセージが表示されます。設定をご購入時の設定に戻す場合は「Yes」、ご購入時の設定状態に戻さないでもう一度設定画面に戻る場合は「No」を選択します。
- : このキーを押すと、「Save configuration changes and exit now? 」というメッセージが表示されます。設定を保存して BIOS セットアップを終了する場合は「Yes」、BIOS セットアップを終了しないでもう一度設定画面に戻る場合は「No」を選択します。
- : 前画面に戻ります。Main、Advanced、Security、Power、Boot、Exit メニューを表示しているときは、「Discard configuration changes and exit now? 」というメッセージが表示されます。設定を保存しないで BIOS セットアップを終了する場合は「Yes」、BIOS セットアップを終了しないでもう一度設定画面に戻る場合は「No」を選択してください。
サブメニューを表示していた場合は、1 つ前の画面に戻ります。
- : サブメニューの表示、設定の一覧の表示、設定の選択を行います。

変更内容を取り消す

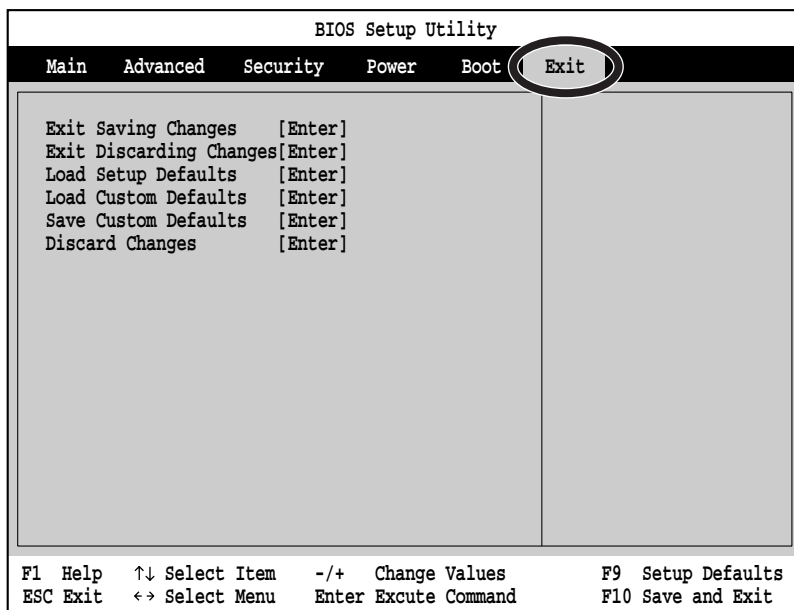
前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

- 1 を押し、Exit メニューを表示します。
- 2 を押し、「Discard Changes」を選び、 を押し。
「Load Previous configuration now? 」というメッセージが表示されます。
- 3 を押し「Yes」を選び、 を押し。
設定が前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(●▶ P.113) をご覧ください。

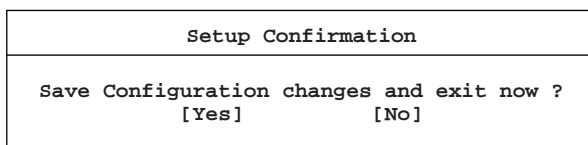
BIOS セットアップを終了する

- 1 を押して、Exit メニューを選びます。



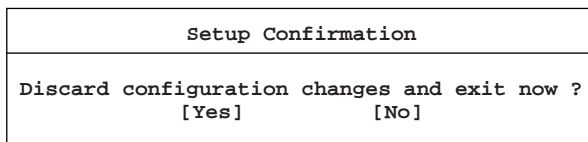
- 2 設定を保存して BIOS セットアップを終了する場合

「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。
次のウィンドウが表示されます。



- 設定を保存しないで BIOS セットアップを終了する場合

「Exit Discarding Changes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。
次のウィンドウが表示されます。



- 3 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。
BIOS セットアップが終了し、Windows98 が再起動します。
Exit メニューについては、「Exit」(●▶ P.136)をご覧ください。

アドバイス

設定を変更した場合

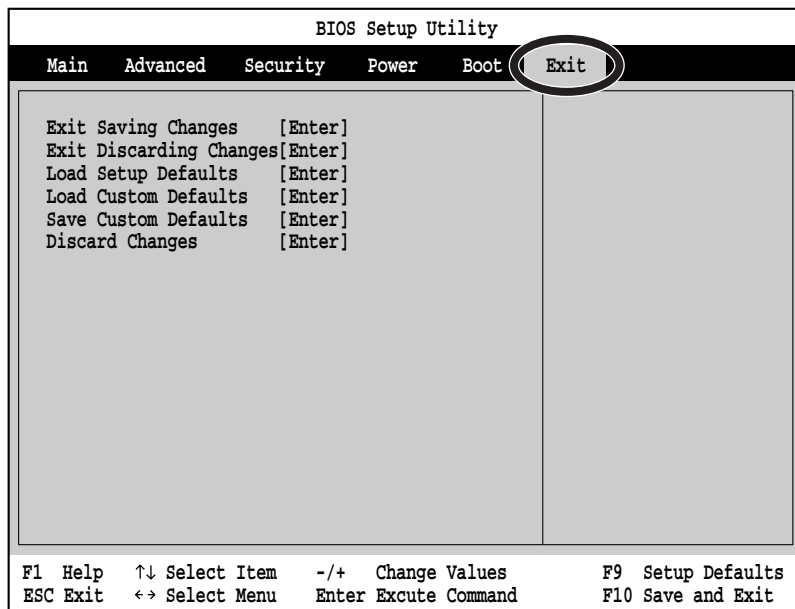
設定を保存しないで終了する場合で、設定を変更した項目があった場合は、「Configuration has not been saved! Save before exiting?」というメッセージが表示されます。 を押して「No」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押してください。

3

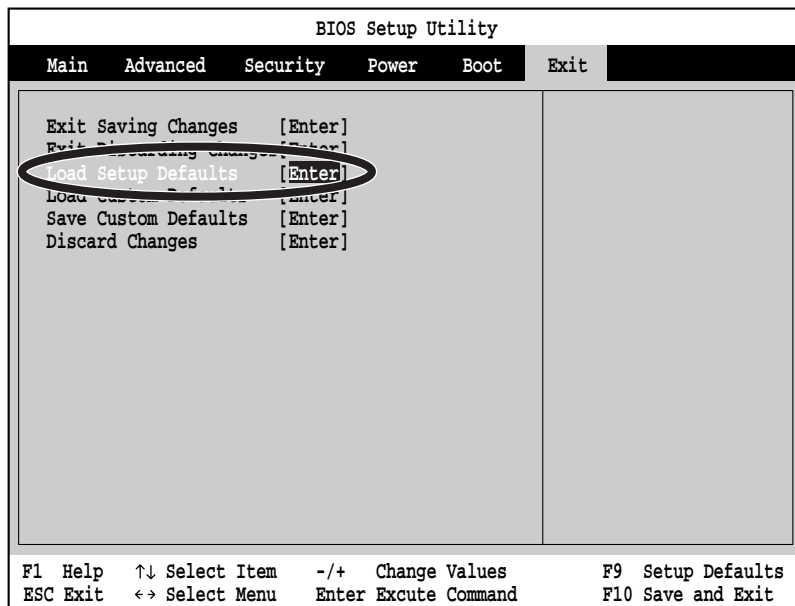
ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1 を押して、Exit メニューを表示します。



- 2 を押して「Load Setup Defaults」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。



- 3 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

Setup Confirmation
Load default configuration now ? [Yes] [No]

設定をご購入時の状態に戻ります。

- 4 を押して、「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

- 5 を押して、「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

BIOS セットアップが終了し、Windows98 が再起動します。

アドバイス

設定をご購入時の設定に戻す他の方法

[F9]を押しても、設定をご購入時の設定に戻すことができます。

[F9]を押すと、「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

設定をご購入時の設定に戻ります。

4

BIOS セットアップメニューの詳細

ここでは、BIOS セットアップの各メニューの詳細を説明します。
各メニューの表示のしかた、設定の変更のしかたについて詳しくは、「BIOS セットアップの操作のしかた」(●▶P.109)をご覧ください。

Main

Main メニューは、CPU のタイプやメモリ情報などを表示します。また、日時の設定などを行います。
Main メニューの表示方法については、「設定を変更する」(●▶P.110)をご覧ください。

BIOS Setup Utility	
Main	Advanced Security Power Boot Exit
BIOS Version	4W4SB0X0.07A.XXXX.XXX
Processor Type	Pentium®
Processor Speed	500MHz
Cache RAM	512KB
System Memory	64 MB
Memory Bank 0	Not Installed
Memory Bank 1	Not Installed
Memory Bank 2	64 MB SDRAM
Language:	[English (US)]
Processor Serial Number:	[Enabled]
ECC Configuration	[Non-ECC]
L2 Cache ECC Support:	[Disabled]
System Time:	[16:05:31]
System Date:	[03/01/1999]

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

設定項目の詳細

BIOS Version

BIOS のバージョンを表示します。

Processor Type

CPU の種類を表示します。

Processor Speed

CPU の動作クロック数を表示します。

Cache RAM

CPU の 2 次キャッシュメモリの容量を表示します。

System Memory

本パソコンの全メモリ容量を表示します。

Memory Bank 0/1/2

メモリスロット (Bank0,1,2) に取り付けられているメモリの種類を本パソコンが検出して表示します。

Language

BIOS セットアップで使われる言語を表示します。英語に設定されていて、変更できません。

Processor Serial Number

Intel® Pentium® III processor が持つプロセッサ・シリアル・ナンバ読み取り機能を有効にするか無効にするかを設定します。

Disabled に設定した場合、Intel プロセッサ シリアルナンバ コントロールユーティリティで読み取り機能を有効に設定できません。

- Enabled
プロセッサ・シリアル・ナンバ読み取り機能を有効にします。
- Disabled
プロセッサ・シリアル・ナンバ読み取り機能を無効にします。

ECC Configuration

メモリのエラーチェックを ECC (●▶P.47) モードで行うかを設定します。

- Non-ECC (初期値)
ECC モードでチェックしません。
- ECC
ECC モードでチェックします。

アドバイス

ECC モードでエラーチェックはできません

本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリでは、ECC モードでエラーチェックはできません。

L2 Cache ECC Support

CPU 内部の 2 次キャッシュメモリのエラーチェック (ECC) について設定します。

- Disabled (初期値)
エラーチェックを行いません。
- Enabled
エラーチェックを行います。

System Time

時刻を設定します。キーボードから数値を入力します。「時 : 分 : 秒」の順に 24 時間単位で入力します。

System Date

年月日を設定します。キーボードから数値を入力します。「月 / 日 / 年」の順に入力します。 **[Enter]** を押すと、「月 / 日 / 年」の順にカーソルが移動します。

アドバイス

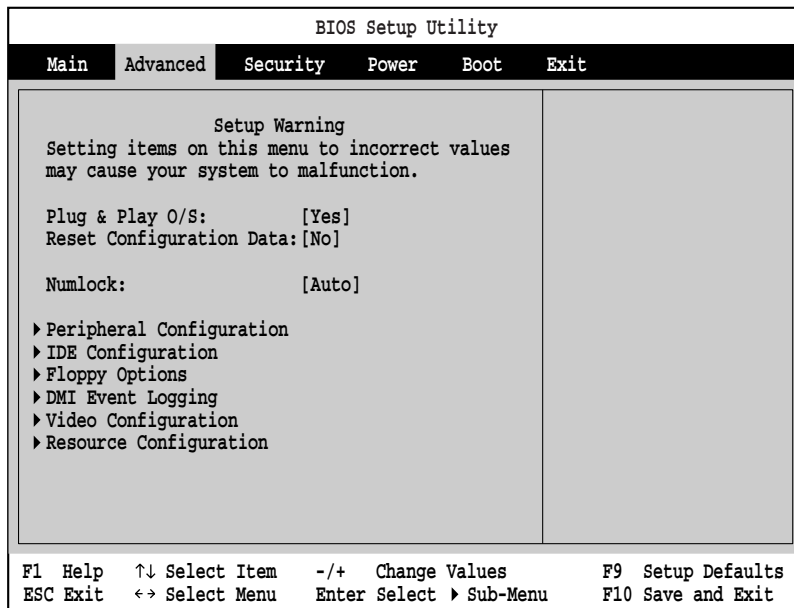
日時の設定は一度だけ

System Date , System Time は、一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。入力した数値を修正するときは、 **[Space]** を押して、再度入力してください。

Advanced

Advancedメニューは、フロッピーディスクドライブ、IDEインターフェース、マザーボード上にあるデバイスの設定などを行います。

Advancedメニューの表示方法については、「設定を変更する」(●▶P.110)をご覧ください。



設定項目の詳細

Plug & Play O/S

Windows98 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使うか設定します。

- No
WindowsNT4.0など、プラグアンドプレイに対応していないOSを使う場合に選びます。
- Yes (初期値)
プラグアンドプレイに対応している OS を使う場合に選びます。

アドバイス

次の場合は「No」に設定してください

Windows98以外のOSをお使いのとき、OSでリソース設定が正しく動作しないとき、またはWindows98とWindowsNT4.0とをマルチブートするときは、「No」に設定してください。

Reset Configuration Data

ESCD (Extended System Configuration Data) の内容の保存について設定します。

- No (初期値)
ESCDの内容を消去しません。
- Yes
再起動時にESCDの内容を消去します。

アドバイス

ESCDを消去すると

「Yes」に設定したとき、再起動時にESCDの内容を消去すると、自動的に設定が「No」に変更されます。

用語 ESCD (イーエスシーデー)

Extended System Configuration Dataの略で、リソースや共有メモリアドレスなどの情報が記録されるメモリです。

起動時にESCDからデータを読み込み、プラグアンドプレイ対応の拡張カードなどにリソースを割り当てます。

Numlock

本パソコンの電源を入れたあと、または再起動したときに、キーボードをNumlock状態にするかを設定します。Numlock状態にすると、テンキーから数字を入力できます。

- Auto (初期値)
キーボードにNumlockキーがある場合、Numlock状態にします。
- On
キーボードをNumlock状態にします。
- Off
キーボードをNumlock状態にしません。

Peripheral Configuration

サブメニューを使って、シリアルポート、パラレルポートのI/Oポートアドレスなどに関する設定を行います。カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility	
Advanced	
Peripheral Configuration	
Serial port A:	[Enabled]
Base I/O address:	[3F8]
Interrupt:	[IRQ4]
Serial port B:	[Disabled]
Parallel port:	[Enabled]
Mode:	[Bi-directional]
Base I/O address:	[378]
Interrupt:	[IRQ7]
PS/2 Mouse	[Auto Detect]
Legacy USB Support:	[Enabled]

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Serial port A

シリアルポートA (COM1) のI/OポートアドレスとIRQ (割り込み要求) を設定します。

- Disabled
シリアルポートA (COM1) を無効にします。
- Enabled (初期値)
シリアルポートA (COM1) のI/OポートアドレスとIRQを設定します。
- Auto
本パソコンが自動的にI/OポートアドレスとIRQを割り当てます。
- OS Controlled
Windows98のデバイスマネージャでシリアルポートA (COM1) の設定をした場合に表示されます。

Base I/O address

Serial port A を Enabled に設定したときに表示される項目です。シリアルポート A (COM1) の I/O ポートアドレスを設定します。

- 3F8,2F8,3E8,2E8 (初期値 : 3F8)

Interrupt

Serial port A を Enabled に設定したときに表示される項目です。シリアルポート A (COM1) の IRQ を設定します。

- IRQ3,IRQ4 (初期値 : IRQ4)

Serial port B

シリアルポート B (COM2) の I/O ポートアドレスと IRQ (割り込み要求) を設定します。

- Disabled (初期値)
シリアルポート B (COM2) を無効にします。
- Enabled
シリアルポート B (COM2) の I/O ポートアドレスと IRQ を設定します。
- Auto
本パソコンが自動的に I/O ポートアドレスと IRQ を割り当てます。
- OS Controlled
Windows98 のデバイスマネージャでシリアルポート B (COM2) の設定をした場合に表示されます。

Base I/O address

Serial port B を Enabled に設定したときに表示される項目です。シリアルポート B (COM2) の I/O ポートアドレスを設定します。

- 3F8,2F8,3E8,2E8 (初期値 : ---)

Interrupt

Serial port B を Enabled に設定したときに表示される項目です。シリアルポート B (COM2) の IRQ を設定します。

- IRQ3,IRQ4 (初期値 : ---)

アドバイス

2F8、IRQ3 は設定しないでください

本パソコンでは 2F8h の I/O ポートアドレスおよび IRQ3 の割り込み番号を FAX / ボイスモデムカードが使っています。

Parallel port

パラレルポートの I/O ポートアドレス、IRQ (割り込み要求) を設定します。

- Disabled
パラレルポートを無効にします。
- Enabled (初期値)
パラレルポートの I/O ポートアドレス、IRQ を設定します。
- Auto
本パソコンが自動的に I/O ポートアドレスと IRQ を割り当てます。
- OS Controlled
Windows98 のデバイスマネージャでパラレルポートの設定をした場合に表示されます。

Mode

Parallel port を Auto、または Enabled に設定したときに表示される項目です。パラレルポートの動作モードを設定します。

- Output only
出力専用モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。
- Bi-directional (初期値)
双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。
- EPP
EPP 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- ECP
ECP 規格の周辺装置を接続するときに選択します。

Base I/O address

Parallel port を Enabled に設定したときに表示される項目です。パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

- 378,278,228 (初期値 : 378)

Interrupt

Parallel port を Enabled に設定したときに表示される項目です。パラレルポートの IRQ を設定します。

- IRQ5,IRQ7 (初期値 : IRQ7)

DMA Channel

Parallel Port を Enabled に設定し、Mode を ECP に設定したときのみ表示されます。ECP 規格の周辺機器を接続するときに、どの DMA チャンネルを使うかを選択します。

- DMA 1
DMA チャンネル 1 を使います。
- DMA 3 (初期値)
DMA チャンネル 3 を使います。

アドバイス

Serial port、Parallel port を Disabled にすると

Serial port A/B、または Parallel port を Disabled に設定すると、Windows 98 のデバイスマネージャに表示されなくなります。

PS/2 Mouse

PS/2 マウスコントローラについて設定します。

- Disabled
PS/2 マウスコントローラを無効にします。
- Enabled
PS/2 マウスコントローラを有効にします。
- Auto Detect (初期値)
PS/2 マウス、USB キーボードが接続されている場合は、PS/2 マウスコントローラを有効にします。
- OS Controlled
Windows 98 のデバイスマネージャでマウスを設定した場合に表示されます。

Legacy USB Support

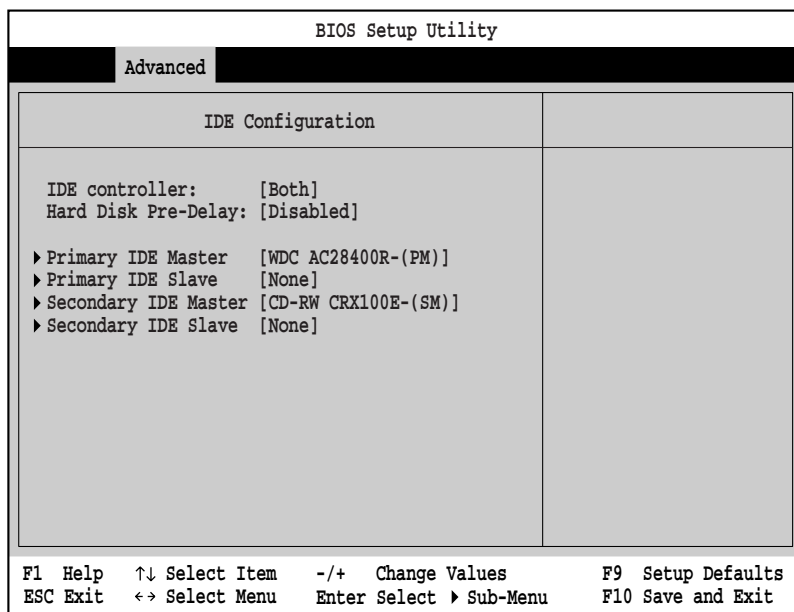
USB キーボードについて設定します。

- Disabled
USB キーボードを Windows 98 以外の OS で使えないようにします。
Disabled に設定すると、USB キーボードで OS などをインストールする場合にキー入力ができなくなります。
USB キーボードを使う場合は Enabled に設定してください。

- Enabled (初期値)
USB キーボードを Windows98 以外の OS で使えるようにします。
Enabled に設定すると、Windows98 以外の OS では、本パソコンの動作が遅くなります。

IDE Configuration

サブメニューを使って、IDE ドライブに関する設定を行います。
カーソルを合わせて、**[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。



IDE controller

IDE コントローラについて設定します。通常は Both のままでお使いください。

- Disabled
IDE インタフェースを無効にします。IDE インタフェースに接続されている内蔵ドライブは使えなくなります。
- Primary
プライマリ IDE インタフェースのみを有効にします。セカンダリ IDE インタフェースに接続されている内蔵ドライブは使えなくなります。
- Secondary
セカンダリ IDE インタフェースのみを有効にします。プライマリ IDE インタフェースに接続されている内蔵ドライブは使えなくなります。
- Both (初期値)
プライマリ IDE、セカンダリ IDE インタフェースを共に有効にします。

Hard Disk Pre-Delay

起動時に IDE デバイスの認識を行うまでの時間を設定します。

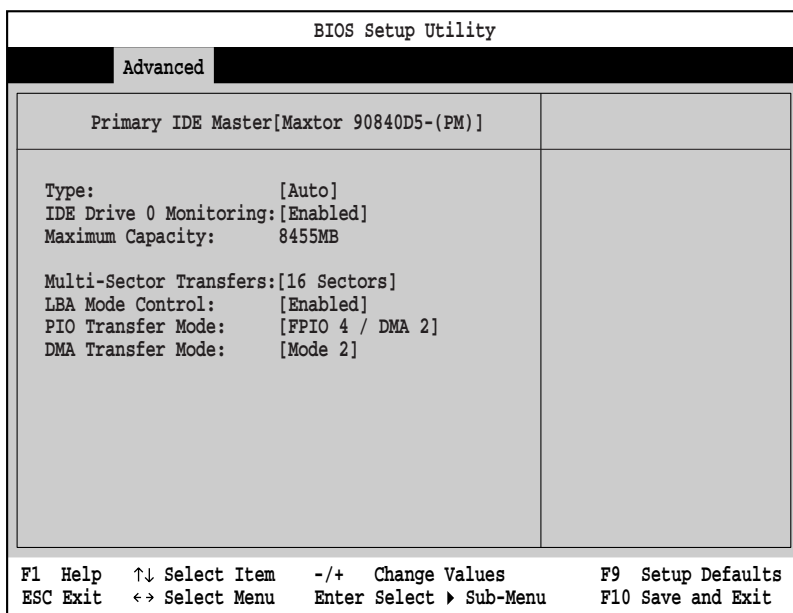
- Disabled (初期値)
IDE の認識を行うまでの時間を設定しません。
- 3/6/9/12/15/21/30
設定時間後に、IDE デバイスの認識を行います。

アドバイス

IDE デバイスが認識できない場合

システム構成によっては、ハードディスクなどの IDE デバイスが認識されない場合があります。その場合は、起動できるか確認して時間を設定してください。

Primary IDE Master/Primary IDE Slave/Secondary IDE Master/Secondary IDE Slave サブメニューを使って、プライマリIDEコネクタとセカンダリIDEコネクタに取り付けたマスターとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量 / シリンダ数など）を設定します。カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。



Type

IDEドライブの認識方法を設定します。設定値は を押して選択してください。通常はAuto のままでお使いください。

- Auto (初期値)
本パソコンがIDEドライブのタイプを自動的に設定します。自分で設定しない場合に選択します。
- None
IDEドライブを使わない場合に選択します。
- ATAPI Removable
MOなどのATAPI Removableドライブを接続し、Multi-Sector Transfers, LBA Mode Control, PIO Transfer Mode を設定したい場合に選択します。
- CD-ROM
CD-ROMドライブを接続し、Multi-Sector Transfers, LBA Mode Control, PIO Transfer Mode を設定したい場合に選択します。
- IDE Removable
IDE Removableドライブを接続し、Multi-Sector Transfers, LBA Mode Control, PIO Transfer Mode, DMA Transfer Mode を設定したい場合に選択します。
- Other ATAPI
その他のRemovableドライブを接続した場合に選択します。
- User
ハードディスクを増設し、Multi-Sector Transfers, LBA Mode Control, PIO Transfer Mode, DMA Transfer Mode を設定したい場合に選択します。

アドバイス

通常は Auto でお使いください

「Auto」以外の設定にする場合は、ハードディスクなどのドライブがサポートしている正しい値に設定してください。正しく設定されていないとハードディスクなどに正常にアクセスできない場合があります。詳しくはハードディスクなどのマニュアルをご覧ください。

IDE Drive 0/1/2/3 Monitoring

IDEドライブのアクセス中に、本パソコンが省電力モードに移行しないようにIDEドライブを監視するかを設定します。Windows98をお使いの場合は、この項目を設定しても無効となります。

- Disabled (初期値: Secondary IDE Master/Secondary IDE Slave)
IDEドライブを監視しません。
- Enabled (初期値: Primary IDE Master/Primary IDE Slave)
IDEドライブを監視します。

Maximum Capacity (ハードディスクの場合)

本パソコンが検出したディスクの最大容量を表示します。内蔵ハードディスクが接続され、TypeでAuto、Userに設定した場合のみ表示されます。

Multi-Sector Transfers

TypeでAutoに設定した場合は、本パソコンが検出した一括して転送するセクタ数を表示します。TypeでAuto、None以外に設定した場合は、一括して転送するセクタ数を設定します。一括して転送するセクタ数が多いほど、ディスクアクセスが高速になります。

- Disabled
1セクタずつ転送します。一括転送をサポートしていないディスクの場合に選択します。
- 2 Sectors
2セクタずつ転送します。
- 4 Sectors
4セクタずつ転送します。
- 8 Sectors
8セクタずつ転送します。
- 16 Sectors (初期値)
16セクタずつ転送します。

LBA Mode Control

LBA (Logical Block Addressing:論理的な通し番号によるアクセス) について設定します。TypeでAutoに設定した場合は、本パソコンが検出したLBAの設定を表示します。TypeでAuto、None以外に設定した場合は、有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
LBAを無効にします。
- Enabled (初期値)
LBAを有効にします。

重要

フォーマットしたあとは変更しないでください

ハードディスクをフォーマットしたあとに、LBA Mode Controlの設定を変更すると、正常にアクセスできない場合があります。ハードディスクをフォーマットしたあとは、LBA Mode Controlの設定を変更しないでください。

PIO Transfer Mode

データ転送モードを設定します。

Type で Auto に設定した場合は、本パソコンが検出したデータ転送モードを表示します。

Type で Auto、None 以外に設定した場合は、データ転送モードを設定します。

- Standard
PIO Mode 0 (最も基本的なデータ転送モード) に設定します。
- Fast PIO 1/2/3/4, FPIO/DMA 1, FPIO 4/DMA 2
データ転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

DMA Transfer Mode

Ultra DMA/33 の転送モードを設定します。

Type で Auto に設定した場合は、本パソコンが検出した Ultra DMA/33 の転送モードを表示します。

Type で Auto、None 以外に設定した場合は、Ultra DMA/33 の転送モードを設定します。

- Disabled
Ultra DMA 転送を行いません。
- Mode 0/1/2
Ultra DMA 転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

Floppy Options

サブメニューを使って、フロッピーディスクドライブに関する設定を行います。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility	
Advanced	
Floppy Options	
Floppy disk controller:	[Enabled]
Diskette A:	[1.44/1.25MB 3 1/2"]
Diskette B:	[Disabled]
Floppy Write Protect:	[Disabled]

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Floppy disk controller

フロッピーディスクコントローラについて設定します。通常は Enabled のままでお使いください。

- Disabled
フロッピーディスクコントローラを無効にします。標準搭載のフロッピーディスクドライブは使えなくなります。
- Enabled (初期値)
フロッピーディスクコントローラを有効にします。
- Auto
本パソコンがフロッピーディスクコントローラの有効、または無効を自動的に設定します。

Diskette A

あらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブを交換したときに、フロッピーディスクドライブのタイプ (サイズと記録密度) を設定します。

- Disabled
- 360KB 5 1/4"
- 1.2MB 5 1/4"
- 720KB 3 1/2"
- 1.44/1.25MB 3 1/2" (初期値)

本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブは、1.44/1.25MB 3 1/2" でのみ動作します。このフロッピーディスクドライブを他のものと交換した場合は、そのドライブのタイプに設定を変更します。

Diskette B

ファイルスロットにフロッピーディスクドライブを増設したときに、ドライブのタイプを設定します。設定値は、Diskette A と同じです。増設しない場合は、Disabled にします。(初期値 : Disabled)

重要

Diskette B を使う場合

本パソコンでは、Diskette B を標準でサポートしていません。Diskette B を使う場合は、別売りの内蔵FDD増設カード(FMV-151)が必要です。詳しくは「フロッピーディスクドライブを取り付ける」(**▶P.95) をご覧ください。

Floppy Write Protect

フロッピーディスクへの書き込みについて設定します。通常はDisabledのままお使いください。ファイルスロットに増設したフロッピーディスクドライブ(Diskette B)は、本機能はお使いになれません。

- Disabled (初期値)
フロッピーディスクへの書き込みができます。
- Enabled
フロッピーディスクへの書き込みを禁止します。

DMI Event Logging

サブメニューを使って、DMI (Desktop Management Interface) イベントロギングに関する設定を行います。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility	
Advanced	
DMI Event Logging	
Event log capacity	Space Available
Event log validity	Valid
View DMI event log	[Enter]
Clear all DMI event logs	[No]
Event Logging	[Enabled]
ECC Event Logging	[Enabled]
Mark DMI events as read	[Enter]

F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

Event log capacity

エラー情報などの保存状態を表示します。

Event log validity

エラー情報などの記録について表示します。

View DMI event log

[Enter] を押すと、エラーなどの詳細をサブメニューに表示します。

Clear all DMI event logs

再起動時にエラーなどの記録を消去するか保存しておくかを設定します。

- No (初期値)
エラーなどを消去しません。
- Yes
エラーなどを消去します。再起動すると設定は、No になります。

Event Logging

本パソコンのエラーなどの記録について設定します。

- Disabled
エラーなどを記録しません。
- Enabled (初期値)
エラーなどを記録します。

ECC Event Logging

システムメモリの ECC イベントロギングについて設定します。

- Disabled
ECC イベントロギングを無効にします。
- Enabled (初期値)
ECC イベントロギングを有効にします。

アドバイス

ECC イベントログは記録されません

本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリはECC付きではありません。そのため、ECC イベントログが記録されることはありません。

Mark DMI events as read

エラー情報などがある場合、カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、現在記録されているすべてのエラー情報を既読にします。

Mark DMI events as read を実行したときまでに記録されたログは表示されなくなります。

Video Configuration

サブメニューを使って、画面表示に関する設定を行います。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility			
Advanced			
Video Configuration			
Palette Snooping:	[Disabled]		
AGP Aperture Size:	[64 MB]		
Default Primary Video Adapter:	[PCI]		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

Palette Snooping

オプションのディスプレイカードなどのビデオコントローラが、パソコン本体のビデオコントローラのパレット情報（画面に表示する色の情報）を参照するか参照しないかを設定します。

- Disabled (初期値)
パレット情報を参照しません。
- Enabled
パレット情報を参照します。

AGP Aperture Size

AGP ビデオコントローラが画面表示に使う、本パソコンのメモリの上限を設定します。

- 64MB/256MB (初期値: 64MB)

Default Primary Video Adapter

本パソコンに標準搭載されているAGPカード以外に、PCIのディスプレイカードを増設した場合、画面の表示にPCIカードを使うか、AGPカードを使うかを選択します。

Windows98のマルチモニタ機能を使う場合は、「PCI」に設定してください。

- PCI (初期値)
PCIのディスプレイカードを増設した場合、PCIカードを使います。
- AGP
標準搭載のAGPのディスプレイカードを使います。

Resource Configuration

サブメニューを使って、メモリと IRQ に関する設定を行います。
カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility	
Advanced	
Resource Configuration	
C800-CBFF:	[Available]
CC00-CFFF:	[Available]
D000-D3FF:	[Available]
D400-D7FF:	[Available]
D800-DBFF:	[Available]
DC00-DFFF:	[Available]
IRQ 3:	[Available]
IRQ 4:	[Available]
IRQ 5:	[Available]
IRQ 7:	[Available]
IRQ 10:	[Available]
IRQ 11:	[Available]

F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

C800-CBFF/CC00-CFFF/D000-D3FF/D400-D7FF/D800-DBFF/DC00-DFFF
プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスで使うメモリブロックを設定します。

- Available (初期値)
メモリブロックをしません。
- Reserved
メモリブロックを使います。

IRQ3/IRQ4/IRQ5/IRQ7/IRQ10/IRQ11

プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスで使う IRQ (割り込み番号) を設定します。

- Available (初期値)
IRQ (割り込み番号) をしません。
- Reserved
IRQ (割り込み番号) を使います。

アドバイス

IRQ3、4、5、7 を Reserved にする場合

IRQ3、4、5、7 は、本パソコンが標準で使っています。

Reserved にする場合は、現在使っているデバイスを削除または変更してから設定してください。

本パソコンで使われている IRQ については、「リソース一覧」(●▶ P.156) をご覧ください。

Security

Securityメニューは、特定の人だけが本パソコンを操作できるように設定を行います。
Securityメニューの表示方法については、「設定を変更する」(●▶P.110)をご覧ください。

BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
User Password is: Clear					
Administrator Password is: Clear					
Set User Password [Enter]					
Set Administrator Password [Enter]					
User Setup Access: [Limited Access]					
Unattended Start: [Disabled]					
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit		

設定項目の詳細

User Password is

一般利用者用のパスワードの設定状況を本パソコンが検出して表示します。

Administrator Password is

システム管理者用のパスワードの設定状況を本パソコンが検出して表示します。

Set User Password

一般利用者用のパスワードを設定します。User Passwordを設定すると、本パソコン、またはBIOSセットアップの起動時にパスワードの入力を要求されます。また、Administrator Passwordを設定した場合は、BIOSセットアップの設定項目も制限されます。パスワードの設定のしかたについては、「パスワードを使う」(●▶P.138)をご覧ください。

Set Administrator Password

システム管理者用のパスワードを設定します。Administrator Passwordを設定すると、BIOSセットアップの起動時に、パスワードの入力を要求されます。また、一般利用者のBIOSセットアップのアクセス権を管理できます。パスワードの設定のしかたについては、「パスワードを使う」(●▶P.138)をご覧ください。

アドバイス

誤ったパスワードを入力すると

パスワードの入力を要求されたときに、誤ったパスワードを3回入力すると、「System Disabled」と表示され、本パソコンはキーボードやマウスに一切反応しなくなります。この場合は、本パソコンの電源スイッチを4秒以上押し続け、電源を切ります。しばらく待ってから再び電源を入れ、その後正しいパスワードを入力してください。

Clear User Password

一般利用者のパスワードを強制的に消すことができます。User Password が設定されている場合に表示されます。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押し、「Clear the User Password Now? 」と表示されます。ここで「Yes」を選んで **[Enter]** を押し、User Password を消すことができます。

User Setup Access

一般利用者が BIOS セットアップで設定できる項目の制限を設定します。

System Time、System Date (**▶P.116) の設定は制限されません。

Administrator Password が設定されている場合に有効になります。

User Password のみが設定されている場合は、本パソコンを再起動すると表示されなくなります。

- None
BIOS セットアップに入れません。
- View Only
BIOS セットアップの内容を見ることのみできます。
- Limited Access (初期値)
Set User Password、Unattended Start のみ変更できます。
- Full
BIOS セットアップのすべての項目を設定できます。

Unattended Start

起動時のキーボードの状態について設定します。

User Password が設定されている場合のみ有効となります。

また、この機能は、PS/2 キーボードを接続しているときのみお使いになれます。

本パソコンには USB キーボードが添付されていますので、この項目は Disabled のままでお使いください。

- Disabled (初期値)
本パソコンの起動時にキーボードをロックしません。
- Enabled
本パソコンの起動時にキーボードをロックします。キーボードがロックされた状態でパスワードを入力すると、ロックは解除されます。

Power

Power メニューは省電力モードに関する設定を行います。

Power メニューの表示方法については、「設定を変更する」(**▶P.110) をご覧ください。

BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Power Management: [Enabled]					
Inactivity Timer: [Off]					
Hard Drive: [Enabled]					
VESA Video Power Down: [Sleep]					
Fan Always On: [No]					
Power Button Behavior [Sleep/Wake]					
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit		

Power Management

本パソコンの省電力モードへの移行について設定します。この項目を Disabled に設定すると、これ以降の項目は表示されません。

- Disabled
省電力モードに移行しません。
- Enabled (初期値)
省電力モードに移行します。

重要

Disabled に設定すると、Windows98 の自動電源オフができなくなります

Disabled に設定したときは、電源を切るとき、最後に「コンピュータの電源を切る準備ができました。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、電源スイッチを押して電源を切ってください。

Inactivity Timer

IDE ハードディスクおよびディスプレイを省電力モードに移行する時間を設定します。

本設定では、CPU は省電力モードに移行しません。そのため、本設定で省電力モードに移行しても、CPU ファンは停止しません。

Power Management が Enabled に設定されているときのみ、設定を変更できます。

Inactivity Timer を設定しても、Windows98 では設定が無効になります。

- Off (初期値)
省電力モードに移行しません。
- 1、5、10、20、30、60、120 Minutes
省電力モードに移行する時間を設定します。

Hard Drive

IDE ハードディスクを、Inactivity Timer で設定した時間で省電力モードに移行するかを設定します。省電力モードに移行すると、ハードディスクは、ドライブの回転を停止します。ディスクアクセスがあると、回転を再開します。

Power Management が Enabled に設定されているときのみ、設定を変更できます。

Windows98 をお使いの場合は、この項目を設定しても無効となります。

- Disabled
省電力モードに移行しません。
- Enabled (初期値)
省電力モードに移行します。

アドバイス

IDE ハードディスクの省電力モードを使っている場合

- この機能を使用するためには、省電力対応のハードディスクが必要です。本パソコンに標準搭載されているハードディスクは、省電力モードに対応しています。
- 省電力モードから通常の状態に復帰するとき、ディスクの回転が安定するまで数秒間かかります。そのため、アクセスが遅く感じられる場合があります。

VESA Video Power Down

ディスプレイを、Inactivity Timerで設定した時間で省電力モードにするかを設定します。Power ManagementがEnabledに設定されているときのみ、設定を変更できます。Windows98をお使いの場合は、この項目を設定しても無効となります。

- Disabled
省電力モードに移行しません。
- Standby
スタンバイモードにします。
- Suspend
サスペンドモードにします。
- Sleep (初期値)
スリープモードにします。

アドバイス

省電力対応のディスプレイが必要です

この機能を使用するためには、省電力対応のディスプレイが必要です。本パソコンに添付されているディスプレイは、省電力に対応しています。

Fan Always On

本パソコンがスタンバイに移行したときの、CPUファンの回転の状態を設定します。Power ManagementとHard DriveがEnabledに設定されているときのみ、設定を変更できます。

- No (初期値)
CPUファンの回転を停止させます。
- Yes
CPUファンの回転を停止させません。

Power Button Behavior

電源スイッチを押した場合に、スタンバイに移行するか、電源が切れるようにするかを設定します。Power ManagementがEnabledに設定されているときのみ、設定を変更できます。

- Sleep/Wake (初期値)
通常状態のとき電源スイッチを押すと、スタンバイになります。スタンバイのとき、電源スイッチを押すと通常状態になります。4秒以上電源スイッチを押し続けると電源が切れます。
- On/Off
電源スイッチを押すと電源が切れます。

アドバイス

他のOSではスタンバイに移行しません

Sleep/Wakeに設定した場合、スタンバイに移行するのは、Windows98などのAPMドライバが有効なOSのみです。それ以外のOS (WindowsNT4.0など)では、スタンバイに移行しません。他のOSをお使いの場合、電源スイッチを押したときの時間が4秒以下のときは、何の動作もしません。4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れます。

Boot

Bootメニューは、本パソコンの起動に関する設定を行ないます。

Bootメニューの表示方法については、「設定を変更する」(**▶P.110)をご覧ください。

BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Diagnostic Screen: [Disabled]					
QuickBoot Mode: [Enabled]					
After Power Failure: [Stay Off]					
On Modem Ring: [Stay Off]					
On LAN & PME: [Stay Off]					
First Boot Device [Removable Devices]					
Second Boot Device [Hard Drive]					
Third Boot Device [ATAPI CD-ROM Drive]					
Fourth Boot Device [Network Boot]					
▶ Hard Drive					
▶ Removable Devices					
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit		

設定項目の詳細

Diagnostic Screen

本パソコンの起動時および再起動時の、「FUJITSU」ロゴの表示について設定します。

- Disabled (初期値)
本パソコンの起動時および再起動時に、「FUJITSU」のロゴを表示します。
- Enabled
本パソコンの起動時および再起動時に、「FUJITSU」のロゴを表示しません。

QuickBoot Mode

電源を入れてから、または再起動してからOSを読み込むまでの時間を設定します。

- Disabled
OSを読み込むまでの時間を短くしません。
- Enabled (初期値)
OSを読み込むまでの時間を短くします。

After Power Failure

停電などから復旧したときの、パソコン本体の電源について設定します。

- Stay Off (初期値)
電源を入れません。
- Last State
停電などが起こる前の状態にします。
- Power On
電源を入れます。

On Modem Ring

本パソコンにあらかじめ取り付けられているFAX / ボイスモデムカードから着信があったときの本パソコンの電源について設定します。

- Stay Off (初期値)
電源を入れません。
- Power On
電源を入れます。

On LAN & PME

PCIスロットのPCI Power Management Enabled信号により、本パソコンの電源を入れるかを設定します。

- Stay Off (初期値)
電源を入れません。
- Power On
電源を入れます。

First/Second/Third/Fourth Boot Device

OSをどのドライブからどのような順番で読み込むか設定します。カーソルを合わせ $\boxed{+}$ を押すと1つ上へ、 $\boxed{-}$ を押すと1つ下へ移動します。

(初期値 : First Boot Device: Removable Devices, Second Boot Device: Hard Drive, Third Boot Device: ATAPI CD-ROM Drive, Fourth Boot Device: Network Boot)

Hard Drive

サブメニューを使って、OSをどのハードディスクからどのような順番で読み込むか設定します。カーソルを合わせて \boxed{Enter} を押すと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility	
Boot	
Hard Drive	
1. [WDC AC28400R-(PM)]	
2. [Bootable Cards]	
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults	
ESC Exit <> Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit	

カーソルを合わせ $\boxed{+}$ を押すと1つ上へ、 $\boxed{-}$ を押すと1つ下へ移動します。

Removable Devices

OSはここに表示されているデバイス順にドライブ名を割り当てます。
カーソルを合わせて **[Enter]** を押しと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility			
		Boot	
Removable Devices			
1. [Legacy Floppy Drives]			
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

Removable Format

MO(光磁気ディスク)ドライブなどのATAPI規格のリムーバブルデバイスを接続したときに表示されます。サブメニューを使って、リムーバブルメディアのフォーマット設定を行います。
カーソルを合わせて **[Enter]** を押しと、次のような画面が表示されます。

BIOS Setup Utility			
		Boot	
Removable Format			
FUJITSU MCB3064AP-(SM) [Removable]			
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

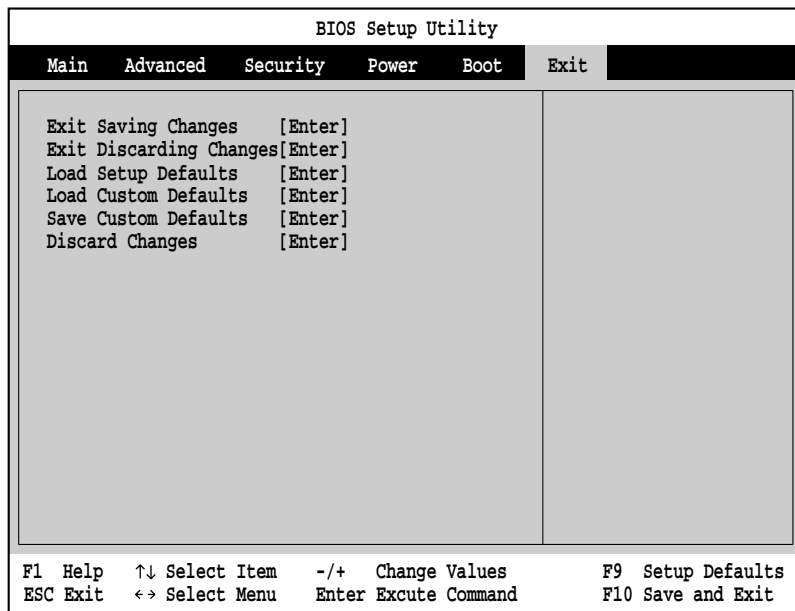
(画面はFMV-PD341をセカンダリーマスターに接続した場合)

- Hard drive
ハードドライブに設定します。
- Removable (初期値)
リムーバブルドライブに設定します。

Exit

Exitメニューは、BIOSセットアップを終了するとき 사용합니다。また、設定をご購入時の状態（初期値）に戻すこともできます。

BIOSセットアップの終了のしかたや、設定をご購入時の状態に戻す方法について詳しくは、「BIOSセットアップの操作のしかた」（**▶P.109）をご覧ください。



Exit Saving Changes

変更した設定を保存して、BIOSセットアップを終了します。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、メッセージが表示されます。 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

Exit Discarding Changes

変更した設定を保存しないで、BIOSセットアップを終了します。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、メッセージが表示されます。 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

設定を変更した項目があった場合は、さらにメッセージが表示されます。「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押してください。

Load Setup Defaults

設定を本パソコンのご購入時の状態（初期値）に戻します。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、メッセージが表示されます。 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

Load Custom Defaults

設定を「Save Custom Defaults」で設定した値に戻します。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、メッセージが表示されます。 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

Save Custom Defaults

現状の設定を保存します。

カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、メッセージが表示されます。 を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

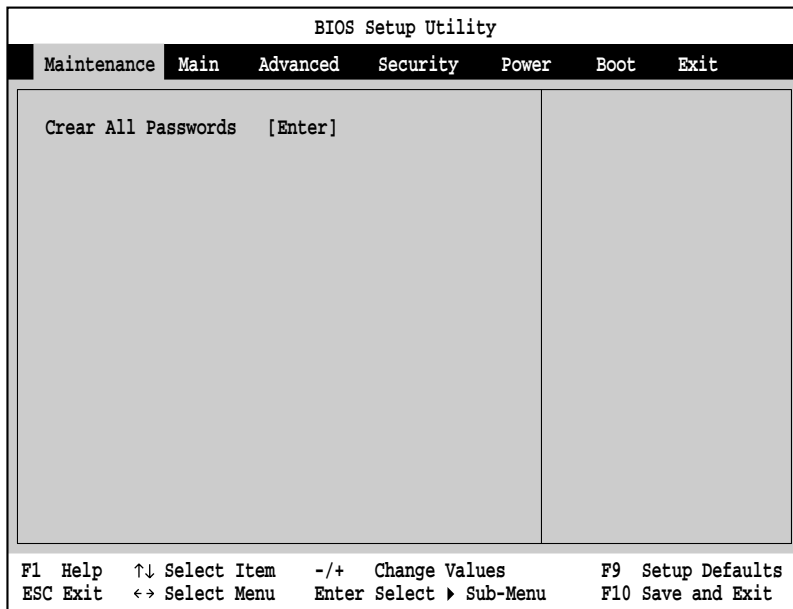
Discard Changes

行っていた設定を取り消し、BIOS セットアップ起動時の設定に戻します。
カーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、メッセージが表示されます。**[Y]** **[N]** を押して「Yes」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

どの項目も「No」を選ぶか、または **[Esc]** を押すと、Exit メニューに戻ります。

Maintenance

ご購入時の設定では、Maintenance メニューは表示されません。
パソコン本体内部の J7B1 ジャンプスイッチ (●▶P.140) の設定を、1-2 から 2-3 に変更すると表示されるようになります。
Maintenance メニューは設定したパスワードを忘れてしまったときなど、パスワードを消去したい場合に使います。
Maintenance メニューの表示方法と終了方法およびパスワードの消去方法については、「パスワードを忘れてしまったら」(●▶P.140) をご覧ください。



アドバイス

CMOS の内容が消去されます

Maintenance メニューを表示すると、CMOS の内容が消去されます。
必要に応じて BIOS セットアップの値を設定し直してください。

5

パスワードを使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

User Password

一般利用者用のパスワードです。

設定したパスワードを入力しないと、本パソコンを起動したり BIOS セットアップを始めたりできないようになります。

Administrator Password

システム管理者用のパスワードです。

設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップを始められないようになります。User Password が設定されている場合、本パソコンを起動するときと BIOS セットアップを始めるときにパスワードの入力が必要になります。

パスワードを設定する

User Password、Administrator Password を設定する方法を説明します。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(●▶ P.109) をご覧ください。
- 2 を押して Security メニューを選びます。
Security メニューが表示されます。
- 3 を押して、Set User Password、または Set Administrator Password にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

Set User Password	
Enter New Password[]
Confirm New Password[]

- 4 パスワードを入力します。
入力できる文字はアルファベットと数字です。最大7文字までなら何文字でもかまいません。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
- 5 パスワードを入力したら、**[Enter]** を押します。
「Confirm New Password」にカーソルが移り、パスワードの再入力が必要です。

- 6 手順4で入力したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]**を押します。
 「Changes have been saved.」というメッセージが表示されます。
 再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Passwords do not match. Re-enter password.」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して「Enter New Password」の項目に戻り、もう一度手順4からやり直してください。
- 7 **[Enter]**を押します。
 User Password is、または Administrator Password isのうち、設定したほうの項目が「Clear」から「Set」に変わります。
 パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。
- 8 BIOS セットアップを終了します。
 設定内容を保存して終了してください。終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(●▶P.112)をご覧ください。

重要

パスワードは忘れないでください

入力したパスワードは忘れないようにしてください。

もしパスワードを忘れてしまい、セットアップや起動ができなくなった場合は、次ページの「パスワードを忘れてしまったら」をご覧ください。

また、テンキーで入力した数字と、英数字キーで入力した数字は別の文字として区別されます。どちらのキーでパスワードを設定したかも忘れないようにしてください。

アドバイス

テンキーで数字を入力するには

テンキーで数字を入力するには、**[NumLock]**を押して、数字を入力できる(NumLockインジケータが点灯している)状態にしてください。

パスワード設定後のパソコンの起動

User Passwordを設定すると、OSが起動するとき、またはBIOSセットアップを起動するときに、パスワードの入力を要求されます。パスワードを入力し、**[Enter]**を押してください。

Enter Password []

Administrator Passwordを設定した場合、BIOSセットアップを起動するときにパスワードを要求されます。パスワードを入力し、**[Enter]**を押してください。

Enter Password []

重要

違うパスワードを入力すると

設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「Invalid Password」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、正しいパスワードを入力し直してください。

違うパスワードを3回入力すると本パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切り、少し待ってからもう一度電源を入れます。そのあと正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなったときは、次の手順に従って、パソコン本体内部の J7B1 ジャンプスイッチを変更してください。

警告

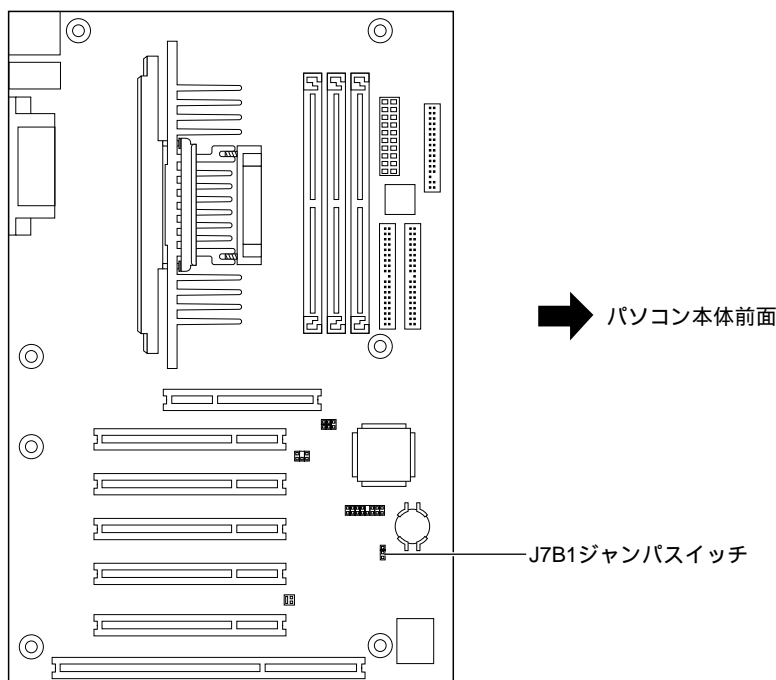
感電



ジャンプスイッチの変更を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

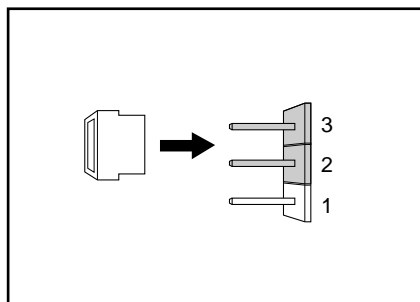
ジャンプスイッチの位置

ジャンプスイッチの番号と位置は、次のとおりです。



ジャンプスイッチを変更する

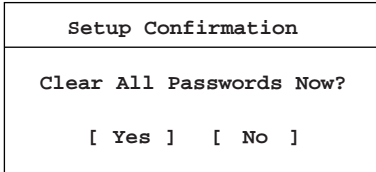
- 1 電源スイッチを 4 秒以上押して、パソコン本体の電源を切ります。
- 2 本パソコンに接続されている機器の電源を切り、パソコン本体および接続されている機器の電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40) をご覧になり、サイドカバーを取り外します。
- 4 マザーボード上の J7B1 ジャンプスイッチを、「1-2 番」から「2-3 番」に変更します。
本パソコンのご購入時には「1-2 番」に設定されています。



5 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44) をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

6 パソコン本体の電源を入れます。
しばらくすると、自動的に BIOS セットアップの Maintenance メニューが表示されます。

7 **[Enter]** を押します。
次の画面が表示されます。



8 を押して「Yes」にカーソルを合わせて **[Enter]** を押します。

9 を押して Exit メニューを表示します。

10 「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせて **[Enter]** を押します。
「Save Configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

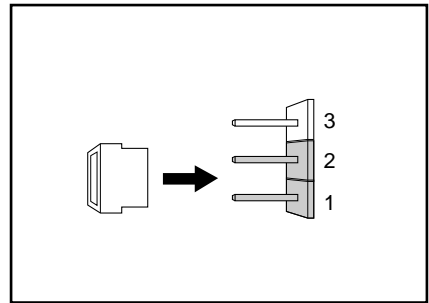
11 を押して「Yes」にカーソルを合わせて **[Enter]** を押します。
BIOS セットアップが終了し、「Jumper must be returned to normal position for settings to take effect. It is safe to turn the system off now.」と表示されます。

12 電源スイッチを 4 秒以上押して、パソコン本体の電源を切ります。

13 本パソコンに接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

14 「サイドカバーを取り外す」(●▶P.40) をご覧になり、サイドカバーを取り外します。

15 J7B1 ジャンプスイッチを「2-3 番」から「1-2 番」に変更します。



16 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44) をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。

17 本パソコンと、接続されている機器の電源プラグをコンセントに差し込みます。

18 本パソコンの電源を入れ、画面左下に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されている間に、**[F2]** を押します。
BIOS セットアップが起動します。

19 パスワードを設定し直します。
設定のしかたについては、「パスワードを設定する」(●▶P.138) をご覧ください。
パスワードを設定しないときは、電源を入れたあと、そのまま Windows98 を起動させてください。

アドバイス

BIOS セットアップを設定し直してください

J7B1 ジャンプスイッチを「2-3 番」に変更して電源を入れると、BIOS セットアップで設定した内容も消去されます。

BIOS セットアップの設定を変更していた場合は、もう一度、BIOS セットアップを行ってください。

パスワードを変更する

- 1 Securityメニューを表示し、パスワードを設定してある項目にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

次の画面が表示されます。

Set User Password	
Enter Current Password[]
Enter New Password[]
Confirm New Password[]

- 2 「Enter Current Password」に現在のパスワードを入力して、**[Enter]**を押します。
- 3 「Enter New Password」「Confirm New Password」に新しいパスワードを入力して、**[Enter]**を押します。
「Changes have been saved.」というメッセージが表示されます。
- 4 **[Enter]**を押します。
- 5 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。

パスワードを削除する

- 1 Securityメニューを表示し、パスワードを設定してある項目にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

次の画面が表示されます。

Set User Password	
Enter Current Password[]
Enter New Password[]
Confirm New Password[]

- 2 「Enter Current Password」に現在のパスワードを入力して、**[Enter]**を押します。
- 3 「Enter New Password」「Confirm New Password」に何も入力しないで**[Enter]**を押します。
「Changes have been saved.」というメッセージが表示されます。
- 4 **[Enter]**を押します。
User Password を削除した場合は、User Password is が「Clear」に変わります。
Administrator Password を削除した場合は、Administrator Password is が「Clear」に変わります。
- 5 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。

6

CMOS RAM の内容を消去する

BIOS セットアップの設定を変更して、本パソコンが起動しなくなった場合は、次の手順に従って CMOS RAM の内容を消去してください。

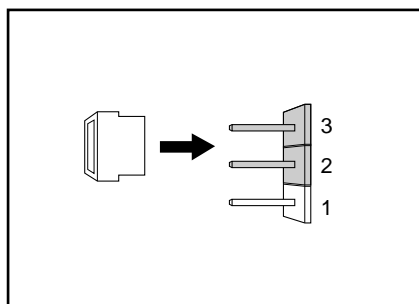
BIOS の設定がご購入時の状態（初期値）に戻ります。

警告



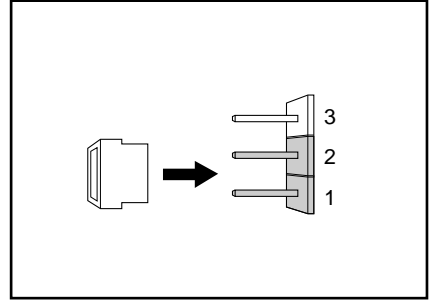
ジャンプスイッチの変更を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

- 1 「サイドカバーを取り外す」(●▶ P.40) をご覧になり、サイドカバーを取り外します。
- 2 マザーボード上の J7B1 ジャンプスイッチを、「1-2 番」から「2-3 番」に変更します。
本パソコンのご購入時は「1-2 番」に設定されています。



- 3 「サイドカバーを取り付ける」(●▶ P.44) をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。
- 4 パソコン本体と、接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。
- 5 パソコン本体の電源を入れます。
BIOS セットアップのメニューが表示されます。
- 6 を押して Exit メニューを表示します。
- 7 を押して「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせて **[Enter]** を押します。
BIOS セットアップが終了し、「Jumper must be returned to normal position for settings to take effect. It is safe to turn the system off now.」と表示されます。
- 8 パソコン本体の電源を切ります。
- 9 接続されている機器の電源を切り、パソコン本体および接続されている機器の電源プラグをコンセントから抜きます。
- 10 「サイドカバーを取り外す」(●▶ P.40) をご覧になり、サイドカバーを取り外します。

- 11** J7B1ジャンプスイッチを「2-3番」から「1-2番」に設定し直します。



- 12** 「サイドカバーを取り付ける」(●▶P.44) をご覧になり、サイドカバーを取り付けます。
- 13** パソコン本体と、接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージの対処法について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

次の「メッセージ一覧」をご覧ください。次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

● BIOS セットアップの設定を変更する

BIOS セットアップに関するメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して、エラー項目の設定が正しいかを確認してください。

また、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.113)をご覧ください。BIOS セットアップの設定を初期値に戻してください。

● オプション機器の取り付けを確認する

オプション機器の拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、IRQ (割り込み要求) などの設定が正しくされているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

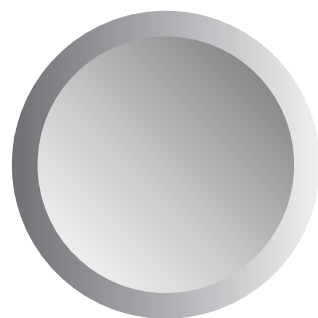
上記の方法で対処しても、まだメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

1. Diskette drive A error or Diskette drive B error
フロッピーディスクドライブのチェック時にエラーが発生しました。
BIOS セットアップを起動し、Floppy Options (●▶P.124) でフロッピーディスクドライブが正しく設定されているか、またはフロッピーディスクドライブが正しく接続されているかを確認してください。
正しく設定または接続されていても同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
2. ECC DIMM is replaced with a non-ECC DIMM
BIOS セットアップの ECC Configuration (●▶P.116) の設定が「ECC」に設定されています。
BIOS セットアップを実行して、ECC Configuration の値を「Non-ECC」に設定してください。
3. Extended RAM-Failed at offset: nnnn
拡張メモリが動作していません。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
4. Failing Bits: nnnn
メモリテストでエラーが発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

5. Fixed Disk 0 Failure or Fixed Disk 1 Failure or Fixed Disk Controller Failure
ハードディスクが、正しく動作していません。BIOS セットアップを起動し、IDE Configuration (●▶P.121) でハードディスクが正しく設定されているか、またはハードディスクが正しく接続されているかを確認してください。確認しても同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
6. Incorrect Drive A type-run SETUP
フロッピーディスクドライブ A が正しく設定されていません。BIOS セットアップを起動し、Floppy Options の Diskette A (●▶P.125) の設定を正しく設定し直してください。
7. Incorrect Drive B type-run SETUP
フロッピーディスクドライブ B が正しく設定されていません。BIOS セットアップを起動し、Floppy Options の Diskette B (●▶P.125) の設定を正しく設定し直してください。
8. Invalid NVRAM media type
NVRAM (CMOS) アクセスで問題が発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
9. Keyboard controller error
キーボードコントローラのテストでエラーが発生しました。キーボードが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されていても同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
10. Keyboard error
キーボードが動作していません。キーボードが正しく接続されているかを確認してください。確認しても同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
11. Keyboard error nn
キーボードのキーが押されたままの状態になっています。キーボードを確認してください。キーボードが押されていないのに、同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
12. Monitor type does not match CMOS-Run SETUP
モニタタイプの設定が正しくありません。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
13. Operating system not found
ドライブ A またはドライブ C から OS を読み込むことができません。起動が可能なフロッピーディスクが正しくセットされているか、または BIOS セットアップを起動して正しく設定されているか確認してください。確認しても同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
14. Press <F1> to resume,<F2> to Setup
修復可能なエラーの場合に表示されます。
[F2] を押して BIOS セットアップを起動して設定を変更してください。[F1] を押したときはそのまま起動します。
15. Real time clock error
BIOS テストの RTC でエラーが発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
16. Shadow RAM Failed at offset: nnnn
シャドウ RAM でエラーが発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

17. System battery is dead-Replace and run SETUP
CMOS用バッテリーの電圧が低下しています。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
18. System cache error-Cache disabled
システムキャッシュメモリでエラーが発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
19. System CMOS checksum bad-run SETUP
システムCMOS RAMのチェックサムエラーが発生しました。BIOSセットアップを起動してください。
20. System RAM Failed at offset: nnnn
システムRAMで、エラーが発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
21. System timer error
タイマーテストで、エラーが発生しました。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。



仕様一覧

本パソコンの仕様や、リソースについて説明しています。

1. 仕様一覧	150
2. 本パソコンのリソースについて	156
3. コネクタのピン配列と信号名	161

1

仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER T ^{IX} 507	
CPU	Pentium [®] processor 500MHz	
キャッシュメモリ	1次: 32KB、2次: 512KB	
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)	
システムメモリ	標準: 64MB (SDRAM-DIMM) 最大: 384MB	
フロッピーディスク	3.5インチ x 1 (3モード対応)	
ハードディスク	8.4GB (Cドライブ2.5GB、Dドライブ5.9GB)	
CD-R/RW	リード24倍速、ライト4倍速 (CD-RWディスクはリード8倍速、ライト2倍速)	
グラフィック	Diamond Viper V550 (Riva TNTコントローラ搭載) SDRAM 16MB	
オーディオ機能	Sound Blaster AWE64D	
モデム機能	DATA: 56Kbps/FAX: 14.4Kbps (DSVD/IVP, Phone)	
ディスプレイ	17インチ (USB HUB付き) FMVDP97X8	
I/F	ディスプレイ	アナログRGB D-SUB 15pin
	キーボード	USB
	マウス	PS/2タイプ Mini-DIN 6pin (USBキーボードに接続)
	シリアルポート	非同期RS-232C x 2 (うちCOM2はFAX/ボイスモデムカードが使用) D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin
	USBポート	USBコネクタ 4pin x 2 (前面 x 1、背面 x 1)
	サウンド	LINE入力 x 1, LINE出力 x 1, マイク入力 x 2, スピーカー出力 x 1, MIDI/JOYSTICK端子 x 1, ヘッドホン出力 x 1
	モデム	モジュージャック x 2 (LINE x 1, PHONE x 1)
拡張スロット数	6 AGP x 1 (ビデオカード搭載) PCI x 4 (うち1スロットにサウンドカード搭載、もう1スロットにFAX/ボイス モデムカード搭載) PCIまたはISA x 1	
ストレージベイ数	6 前面 ファイルスロット x 3 (うち1つにCD-R/RWドライブ搭載済 3.5インチフロッピーディスクドライブ搭載済 内部 3.5インチハードディスク装着エリア x 2 (うち1つに搭載済)	
電源/周波数	AC100V/50-60Hz	
消費電力	約44W (最大185W)	
重量	約13.5kg	
外形寸法	210mm x 440mm x 420mm (W x D x H)	
使用環境	温度 10-35 湿度 20-80% (RH)	
対応OS	Windows98, WindowsNT4.0 SP4	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

表示できる解像度と発色数

本パソコンと添付のディスプレイの組み合わせで設定できる解像度と発色数は、次のとおりです。添付品以外のディスプレイをお使いのときは、解像度や発色数に制限のある場合があります。詳しくは、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度	最大発色数	設定可能な発色数
640 × 480 ドット	TrueColor (32 ビット)	16 色
		256 色
		HighColor (16 ビット)
		TrueColor (32 ビット)
800 × 600 ドット	TrueColor (32 ビット)	256 色
		HighColor (16 ビット)
		TrueColor (32 ビット)
1024 × 768 ドット	TrueColor (32 ビット)	256 色
		HighColor (16 ビット)
		TrueColor (32 ビット)
1280 × 1024 ドット	TrueColor (32 ビット)	256 色
		HighColor (16 ビット)
		TrueColor (32 ビット)

- HighColor (16 ビット) は 6 万 5 千色、TrueColor (32 ビット) は 1677 万色です。
- 本パソコンのご購入時は、解像度 1024 × 768 ドット、発色数 TrueColor (32 ビット) に設定されています。
- 16 色は、VGA モード時のみお使いになれます。




上の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。

アドバイス

画面表示に異常がある場合

ディスプレイドライバを再インストールした場合などに、表示がかたよっていたり、はみ出し、ちらつきなどの異常がある場合は、画面の周波数を「最適」に設定してください。

画面の周波数の変更のしかたは次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
「Diamond Viper V550 for Windows98 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「アダプタ」タブをクリックします。
- 5 「リフレッシュレート」の  をクリックし、一覧から「最適」をクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。
いろいろなエラーメッセージが表示されますが、「はい」または「OK」をクリックしてください。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある  (閉じるボタン) をクリックします。

1152 x 864 ドットは設定しないでください

1152 x 864 ドットの解像度は、本体添付のディスプレイがサポートしていませんので、設定しないでください。

画面が中央に表示されないときは

画面が中央に表示されないときは、ディスプレイ側で調整してください。

マルチモニタ機能を使うには

Windows98 のマルチモニタ機能を使うには、「マルチモニタ機能を使う」(**▶ P.104) をご覧ください。

ディスプレイのマニュアルをご覧ください

ディスプレイの取扱方法について詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

FAX / ボイスモデムカード

品名	FAX / ボイスモデムカード -56000 (全二重)
型名	FMV-FX53Z5
通信方式	2線式 全二重 (FAX モードでは2線式 半二重)
通信規格	データモード : 全二重調歩同期通信方式 K56flex™ ITU-T V.90,V.34,V.32bis,V.32,V.22bis,V.22,V.21, BELL 212A,103 FAX モード : 半二重調歩同期通信方式 ITU-T V.17,V.29,V.27ter,V.21ch2
通信速度	データモード : 56000,54667,54000,53333,52000,50667,50000, (受信時) 49333,48000,46667,46000,45333,44000,42667, 42000,41333,40000,38667,38000,37333,36000, 34667,34000,33333,32000,30667,29333, 28000bps データモード : 33600,31200,28800,26400,24000,21600,19200, (送受信) 16800,14400,12000,9600,7200,4800,2400,1200, 300bps FAX モード : 14400,12000,9600,7200,4800,2400,300bps
同期方式	調歩同期
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
バスインターフェース	PCI
FAX インターフェース	TIA/EIA578 (class1)
音声蓄積機能	AD PCM
DSVD 機能	有
寸法	長さ 165 mm × 幅 120 mm × 高さ 21 mm
直流抵抗値	254
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 ・ 記憶した電話番号による自動ダイヤルおよび再ダイヤル ・ トーン式 / パルス式ダイヤルの選択

サウンドカード

品名	Sound Blaster AWE64D	
バス	PCI	
サウンド部分	I/Oポートアドレス	0000-001Fh、0020-003Fh、... < 4000-401Fh > ...FFE0-FFFFh < 220-22Fh >、240-24Fh、260-26Fh、280-28Fh
	MPU-401 アドレス	300-301h、310-311h、320-321h、< 330-331h >
	JOYSTICK アドレス	< 200-207h >、201h、202h...20Fh
	MUSIC SYNTHESIS	< 388-38Bh >、38C-38Fh、390-393h、394-397h
	IRQ	< 5 >、7、< 10 >、11
	8ビットDMA	Channel 0、< 1 >、3
	16ビットDMA	Channel < 5 >、6、7
	サンプリングレート	5kHz ~ 48.0kHz
	音源	GM 対応
	Wave Table RAM	512KB 搭載
MIDI仕様	チャンネル数	16チャンネル
	同時発音	32 (Emu-8008)
	楽器音	プリセットサウンド 128音 (GM)
	ドラム音	10音 (GM)
	効果音	46音
外部 I/F	ライン入力、マイク入力、ライン出力、スピーカー出力、JOYSTICK/MIDI PORT	

本パソコンのご購入時のIRQ、I/Oポートアドレスの設定は、上表の < > で囲まれた値になっています。

スピーカー

方式	アンプ内蔵バスレフ型ボックススピーカー
機能	VOLUME (音量調整) BASS (低音域調整) TREBLE (高音域調整)
スピーカーユニット	口径：3インチ・1インチ
アンプ回路	7.5W/ch インピーダンス：5k
再生周波数	100Hz ~ 18kHz
外形寸法	100 × 221 × 145 (mm)
重量	約 2.8kg (ACアダプタを含む)

CD-R/RW ドライブ

Read 機能

対応するディスクタイプ	CD-Digital Audio	
	CD Extra	
	CD-ROM (Mode1)	
	CD-ROM XA (Mode 2,Form 1 and Form 2)	
	CD-I (Mode 2,Form 1 and Form 2)	
	Video CD	
	Photo CD	
対応する Block length	CD-DA	2352 and 2368 Bytes
	CD-ROM Mode 1	2048 and 2352 Bytes
	CD-XA and CD-I	Form 1 :2048,2328,2336,2340 and 2352 Bytes Form 2 :2328,2336,2340 and 2352 Bytes

Write 機能

対応するディスクタイプ	CD-Digital Audio	
	CD Extra	
	CD-ROM (Mode1)	
	CD-ROM XA (Mode 2,Form 1 and Form 2)	
	CD-I (Mode 2,Form 1 and Form 2)	
	Video CD	
対応する Block length	CD-DA	2352 Bytes
	CD-ROM Mode 1	2048 Bytes
	CD-XA and CD-I	Form 1 :2048 and 2332 Bytes Form 2 :2332 Bytes

2

本パソコンのリソースについて

本パソコンのIRQ（割り込み要求）、DRQ（DMA要求）、I/Oポートアドレスを、どのハードウェアが使っているかの一覧と、拡張カードを取り付けるときに必要なリソース（IRQ、DRQ）の解放のしかたを説明しています。

リソース一覧

プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを取り付けるときには、IRQ（割り込み要求）とDRQ（DMA要求）、I/Oポートアドレスを設定する必要があります。

次の表を参考にして、設定を行ってください。

本パソコンのご購入時のIRQ、DRQ、I/Oポートアドレスは、次のように設定されています。

プラグアンドプレイに対応していない拡張カードを取り付けるときは、本パソコンの装置が使っている値と重複しないように、空いている値を拡張カードに割り当ててください。

IRQ（割り込み要求）

IRQ（割り込み要求）	使っているハードウェア
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	空き
4	通信ポート（COM1）
5	サウンドカード
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート（LPT1）
8	リアルタイムクロック
9	USB
10	サウンドカード
11	FAX / ボイスモデムカード（COM2） ビデオカード
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ（プライマリ）
15	IDEコントローラ（セカンダリ）

DRQ (DMA 要求)

DRQ (DMA 要求)	使っているハードウェア
0	空き
1	サウンドカード
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMA コントローラ
5	サウンドカード
6	空き
7	空き

I/O ポートアドレス

I/O ポートアドレス	使っているハードウェア
0000h ~ 00FFh	システム
0170h ~ 0177h	IDE コントローラ (セカンダリ)
01F0h ~ 01F7h	IDE コントローラ (プライマリ)
0200h ~ 0207h	サウンドカード
0220h ~ 022Fh	サウンドカード
02F8h ~ 02FFh	FAX / ボイスモデムカード
0330h ~ 0331h	サウンドカード
0376h	IDE コントローラ (セカンダリ)
0378h ~ 037Fh	プリンタポート (LPT1)
0388h ~ 038Bh	サウンドカード
03B0h ~ 03BBh	ビデオカード
03C0h ~ 03DFh	ビデオカード
03F0h ~ 03F5h	フロッピーディスクコントローラ
03F6h	IDE コントローラ (プライマリ)
03F7h	フロッピーディスクコントローラ
03F8h ~ 03FFh	通信ポート (COM1)
1000h ~ 1007h	IDE コントローラ (プライマリ)
1008h ~ 100Fh	IDE コントローラ (セカンダリ)
1020h ~ 103Fh	USB
4000h ~ 401Fh	サウンドカード


アドバイス

リソースの値は変更されることがあります

本書に記載しているリソースの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のリソースを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。
リソースの値の一覧が表示されます。

リソースを解放する

取り付ける拡張カードが必要とするリソースが本パソコンですでに使われているときは、そのままではその拡張カードを使えません。拡張カードを取り付ける前に、拡張カードが必要とするリソースを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「リソースの解放」といいます。

以下のいずれかの拡張カードを増設するときは、拡張カードが使うリソースで、本パソコンでお客様がお使いになっていないハードウェアのリソース (IRQ4 が IRQ7) を解放して、その番号を増設する拡張カードに割り当てます。

- IRQ3 に設定できない拡張カード
- IRQ を 2 つ以上使う拡張カード

DRQ (DMA 要求) を 0、3、6、7 に設定できない拡張カードを増設するときは、拡張カードが使う DRQ が割り当てられているハードウェアのリソースを解放して、その番号を拡張カードに割り当てます。

本パソコンのリソースの使用状況について詳しくは、「リソース一覧」 (**▶P.156) をご覧ください。ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートの IRQ を解放する手順を例に、リソースを解放する方法を説明します。

重要

リソースを解放したデバイスは使えません

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、リソースを再設定してください。

リソースは不用意に解放しないでください

リソースを不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「リソース一覧」 (**▶P.156) でよくご確認のうえ、リソースを解放してください。

なお、以下の IRQ (割り込み要求) を解放すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。これら以外の IRQ を解放してください。


- IRQ0、1、2、6、8、12、13、14、15

アドバイス**IRQ4 または IRQ7 を解放すると**

IRQ4 を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ（COM1）（●▶P.4）が使えなくなります。
IRQ7 を解放すると、パラレルコネクタ（●▶P.5）が使えなくなります。

PCI 拡張カードのリソースを解放するには

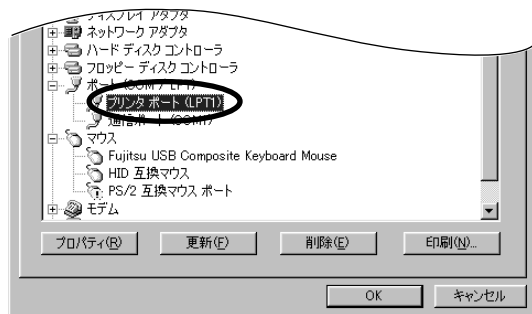
お客様が取り付けしたPCI拡張カードが使っているリソースを解放したいときは、PCI拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、自動的にリソースが解放されます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （システム）をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。



本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。

- 4 解放したいリソースを使っているデバイスをクリックして選びます。
IRQ4 を解放するにはポート（COM/LPT）内の「通信ポート（COM1）」を選びます。
IRQ7 を解放するにはポート（COM/LPT）内の「プリンタポート（LPT1）」を選びます。

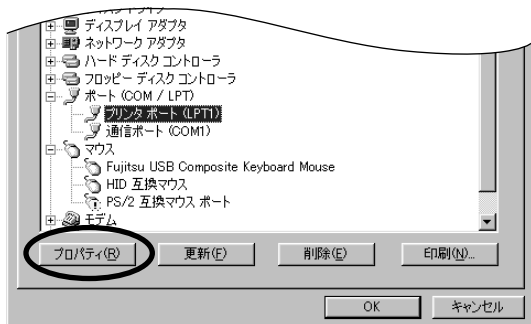
**アドバイス****解放したいリソースを使っているデバイスについて**

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。
IRQ4 を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ（COM1）（●▶P.4）が使えなくなります。
IRQ7 を解放すると、パラレルコネクタ（●▶P.5）が使えなくなります。
これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器は使えなくなります。

用語 デバイス

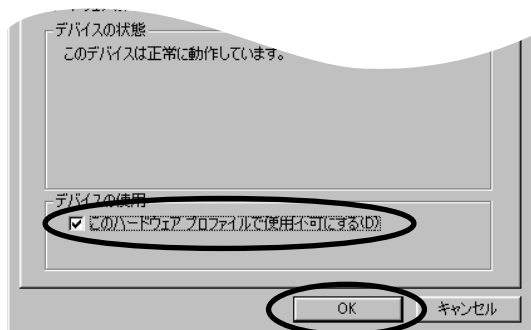
パソコン本体内部の装置(メモリ、拡張カードなど)や、パソコンに接続する機器(マウス、キーボードなど)のことをデバイスと呼びます。

- 5 「プロパティ」をクリックします。



デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。

- 6 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。



「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
リソースを解放したデバイスに×印が付きます。

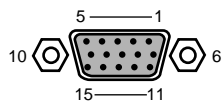
- 7 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

3

コネクタのピン配列と信号名

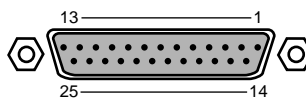
本体のコネクタ仕様

ディスプレイコネクタ



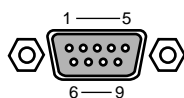
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5~8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

パラレルコネクタ



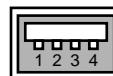
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

シリアルコネクタ



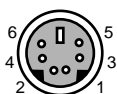
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

USB コネクタ



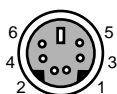
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

マウスコネクタ



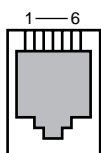
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

キーボードコネクタ



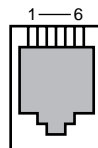
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

LINE 端子 (モデム)



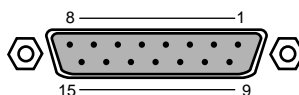
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

PHONE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

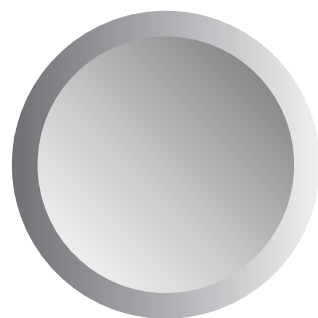
MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティック A ボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティック A X 座標
4	GND	-	グラウンド
5	GND	-	グラウンド
6	JRC1	入力	ジョイスティック A Y 座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティック A ボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティック B ボタン 1
11	JRC2	入力	ジョイスティック B X 座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティック B Y 座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティック B ボタン 2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

本体のコネクタ / 端子で使用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB コネクタ	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
SPK OUT/LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ (モノラル) ケーブル
ヘッドホン端子 (音楽CD用 : CD-R/RWドライブ)	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル



付録

その他の注意事項などについて説明しています。

- 1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール... 166
- 2. コアの取り付け 178
- 3. 内蔵ドライブのジャンパ設定 179
- 4. その他の注意事項 180

1

ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。

音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

インストールのときに気を付けること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがいくつかあります。

■ アクティブデスクトップの解除 ■

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98の標準画面に切り替わります。

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

■ アプリケーションやウィンドウの終了 ■

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「VirusScan」や「AUV」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

■ 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合 ■

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。

手順内で指示のない場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず $\text{Alt}+\text{C}$ 「アプリケーションCD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。



ディスプレイドライバをインストールする場合

次の「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。



サウンドドライバをインストールする場合

「サウンドドライバをインストールする」(●▶P.171)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず前ページの「インストールのときに気を付けること」をご覧ください。
ディスプレイドライバのインストールは⑧「アプリケーション CD」から行います。

Safe モードで Windows 98 を起動する

ディスプレイドライバのインストールは、Safe モードで Windows 98 を起動してから行います。本パソコンの電源が切れている状態で始めてください。

アドバイス

Safe モードとは

Windows 98 を必要最低限の状態での起動する方法です。ディスプレイなどの機器の設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。

Safe モードでマウスが使えない場合

Windows 98 でマウスの設定を変更すると、Safe モードでマウスが使えなくなる場合があります。この場合は、BIOS セットアップの Advanced メニューの Peripheral Configuration のサブメニューにある、PS/2 Mouse (**▶ P.120) を「Enabled」に変更してください。

- 1 キーボードの **[Ctrl]** の位置を確認します。
- 2 パソコン本体の電源を入れます。
- 3 画面左下に「Press < F2 > to enter SETUP」の文字が表示されたら、**[Ctrl]** を押し続けます。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで **[Ctrl]** を押し続けてください。

アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないときは

正しく **[Ctrl]** が押されていないことが考えられます。

Windows 98 が起動してしまった場合は、本パソコンを再起動し、手順 3 から操作し直してください。
画面に何も表示されていない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、手順 2 から操作し直してください。それでも「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないときは、Safe モードで本パソコンを起動できません。弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

- 4 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、 を押し、「3. Safe mode」を反転表示させ、**[Enter]** を押します。

アドバイス

通常の Windows 98 が起動してしまったときは

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたあと、手順 4 の操作を行わずに 30 秒経過すると、自動的に通常の Windows 98 が起動してしまうことがあります。




Windows 98 が起動してしまったときは、本パソコンを再起動し、手順 3 から操作し直してください。

- 5 キーボードタイプを質問するメッセージが表示されたら、**[F6]** を押します。

アドバイス

エラーメッセージについて

Windows 98 が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。

- 6 「デスクトップ」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 7 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 8  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9 「設定」タブをクリックします。
- 10 「詳細」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 11 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 12 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 13 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。
- 14 「次へ」をクリックします。
- 15 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。
- 16 「製造元」に「(標準ディスプレイ)」を、「モデル」に「標準ディスプレイアダプタ(VGA)」を選び、「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。
- 17 「はい」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します：標準ディスプレイアダプタ(VGA)」というメッセージが表示されます。
- 18 「次へ」をクリックします。
「標準ディスプレイアダプタ(VGA) ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 19 「完了」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 20 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 21 「閉じる」をクリックします。
「続行しますか？」というメッセージが表示されます。
- 22 「はい」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 23 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

重要

メッセージが表示された場合

再起動後に、ディスプレイ設定に問題があるというメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウで「画面の領域」を「640 × 480」に、「色」を「16色」に設定します。「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

ハードウェアの追加をたずねるメッセージが表示された場合

ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、新しいハードウェアを追加するかどうかをたずねるメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

アドバイス

「AUV」のメッセージが表示されたら

再起動したあとに「AUV」のメッセージが表示されたら、「終了する」をクリックしてください。

「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには

再起動後に、「コントロールパネル」ウィンドウを表示させると左端に説明が表示されません。「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューの「Web ページ」をクリックしチェックマークを付けると、説明が表示されるようになります。





続いて、ディスプレイドライバをインストールします。

ディスプレイドライバのインストール

アドバイス

「既存のファイルをそのまま使いますか?」と表示された場合



インストール中、「既存のファイルをそのまま使いますか?」というメッセージが表示される場合があります。その場合は、「いいえ」をクリックしてください。

- 24  「アプリケーション CD」を CD-R/RW ドライブにセットします。
- 25 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 26  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 27 「設定」タブをクリックします。
- 28 「詳細」をクリックします。
- 29 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 30 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 31 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。
- 32 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。

- 33 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 34 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥viper
- eには、お客様がお使いのCD-R/RWドライブ名を入力してください。
「デバイスの選択」ウィンドウの一覧が表示されます。
- 35 「モデル」一覧の中の「Diamond Viper V550 for Windows98 [9-23-1998]」が選ばれていることを確認します。
「Diamond Viper V550 for Windows98 [9-23-1998]」が2つ表示されている場合は、どちらが選ばれていてもかまいません。
- 36 「OK」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 37 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。

アドバイス

「Disk # X が必要です。」というメッセージが表示されたら
「OK」をクリックし、「ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥viper
- eには、お客様がお使いのCD-R/RWドライブ名を入力してください。

- 38 「Diamond Viper V550 for Windows98 ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。
「Diamond Viper V550 for Windows98のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 39  「アプリケーション CD」をCD-R/RWドライブから取り出します。
- 40 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 41 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 42 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 43 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 44  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 45 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 46 「ディスプレイアダプタ」内の「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」をクリックします。
「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」が表示されていない場合は、「OK」をクリックし、手順 50へ進んでください。
- 47 「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

- 48 「OK」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 49 「閉じる」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。
- 50 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数など、画面の設定を変更するには、**4**『困ったときのQ & A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。本パソコンのご購入時には、解像度は「1024 × 768 ドット」に、発色数は「TrueColor (32 ビット)」に設定されています。

「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックします。モニターの設定について詳しくは、**4**『困ったときのQ & A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

画面の周波数を確認してください


ディスプレイドライバをインストールしたあと、画面表示がかたよっていたり、はみ出し、ちらつき、その他異常がある場合は、「画面表示に異常がある場合」(**▶ P.152) をご覧になり、画面の周波数を変更してください。

サウンドドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気を付けること」(**▶ P.166) をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは **CD** 「アプリケーション CD」から行います。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 **CD** 「アプリケーション CD」を CD-R/RW ドライブにセットします。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4 **PC** (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

- 6 「Creative MISC デバイス」と、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の  をクリックして、表示された項目を確認します。



この項目内に「！」または「×」があるか確認します。

(お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります。)



「！」または「×」が付いた項目がある場合
手順 7 へ進みます。



「！」または「×」が付いた項目が無い場合
「OK」をクリックし、手順 12 へ進みます。

- 7 「！」または「×」が付いた項目をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 8 「OK」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 9 「閉じる」をクリックします。
「再起動しますか？」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックし、手順 12 へ進んでください。
- 10 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 11 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

アドバイス

「Creative CD-ROM」ラベルの付いたディスクを要求されたときは

「ディスクの挿入」ウィンドウが表示され、「Creative CD-ROM」ラベルの付いたディスクを要求された場合は、次の操作を行ってください。

- 1 「OK」をクリックします。
「新しいハードウェア」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。
`e:\aw64d¥audio¥japanese¥win95drv`
- e には、お客様がお使いの CD-R/RW ドライブ名を入力してください。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示されます。
- 3 「はい」をクリックします。
再び「バージョンの競合」ウィンドウが表示されます。
- 4 「はい」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたときは

次の操作を行ってください。

- 1 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 2 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」が になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 3 「検索場所の指定」が になっていることを確認し、次のフォルダ名を入力します。
`e:\¥awe64d¥audio¥japanese¥win95drv`
- e には、お客様がお使いの CD-R/RW ドライブ名を入力してください。
- 4 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 5 「次へ」をクリックします。
「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 6 「完了」をクリックします。
「再起動しますか？」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

12 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されているときは、右上の (閉じるボタン) をクリックします。

13 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

14 「名前」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。

`e:\¥awe64d¥audio¥japanese¥setup¥setup.exe`

- e には、お客様がお使いの CD-R/RW ドライブ名を入力してください。

アドバイス

「Sound Blaster AWE64D ソフトウェアを直ちにアンインストールしますか？」

というメッセージが表示されたときは

次の操作を行ってください。

- 1 「はい」をクリックします。
「ファイル削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。
「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示されます。
- 3 「すべていいえ」をクリックします。
「アンインストールが完了しました。」というメッセージが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。

15 「ソフトウェア使用許諾契約書」の内容をよくお読みになり、「はい」をクリックします。

「Readme ファイルの参照」ウィンドウが表示されます。

16 「次へ」をクリックします。

「インストールフォルダ」ウィンドウが表示されます。

17 「次へ」をクリックします。

「セットアップオプション」ウィンドウが表示されます。

- 18 「インストールするプログラムを選択」のボタンをクリックします。



「インストールするプログラムを選択」ウィンドウが表示されます。

- 19 「コンポーネント」欄の「Creative WaveSynth-WG」が になっていることを確認します。



アドバイス

上の画面が表示されないときは

「戻る」をクリックし、ひとつ前の画面に戻って手順 18 の操作からやり直してください。

- 20 「次へ」をクリックします。
「プログラムフォルダの選択」ウィンドウが表示されます。





- 21 「プログラムフォルダ」に「Sound Blaster AWE64D」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
ドライバがインストールされます。

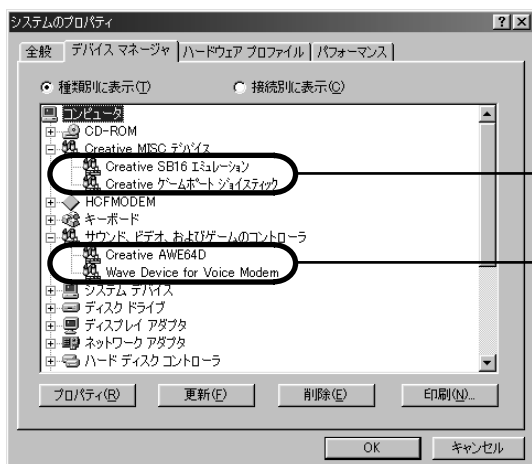
アドバイス

「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示されたときは

「いいえ」をクリックしてください。

ファイルがコピーされ、「システムの再起動」ウィンドウが表示されます。

- 22 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」がになっていることを確認し、「終了」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 23 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 24 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 25 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 26 「Creative MISC デバイス」のをクリックし、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」のをクリックします。
一覧が表示されます。




このように表示されることを確認します。

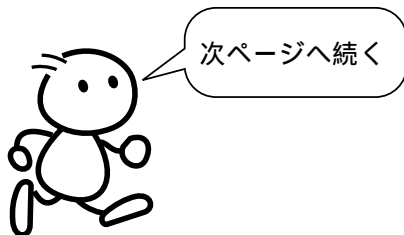
(お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります。)

アドバイス

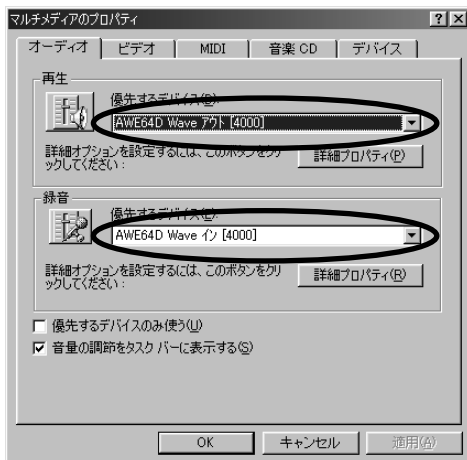
「!」や「X」が表示されている場合

上の画面に「!」や「X」が表示されている場合は、手順7(●▶P.172)から操作し直してください。
それでも、「!」や「X」が表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

- 27 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。
- 28 「コントロールパネル」ウィンドウの (マルチメディア) をクリックします。
「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。



- 29 「再生」の「優先するデバイス」が「AWE64D Wave アウト [4000]」に、「録音」の「優先するデバイス」が「AWE64D Wave イン [4000]」になっていることを確認します。「AWE64D Wave」になっていない場合は、右側の▼をクリックし、「AWE64D Wave アウト [4000]」、「AWE64D Wave イン [4000]」をそれぞれクリックして、「適用」をクリックします。



アドバイス


[4000] の値は異なることがあります

オプション機器を増設している場合、「AWE64D Wave アウト [4000]」と「AWE64D Wave イン [4000]」の [4000] の部分の値が変更されることがあります。

- 30 「MIDI」タブをクリックします。
- 31 「単一の機器」に「AWE64D MIDI シンセ [4000]」が表示されていることを確認し、「OK」をクリックします。



「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

- 32 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。
- 33  「アプリケーション CD」を CD-R/RW ドライブから取り出します。

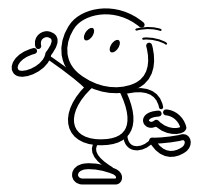
- 34 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 35 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。



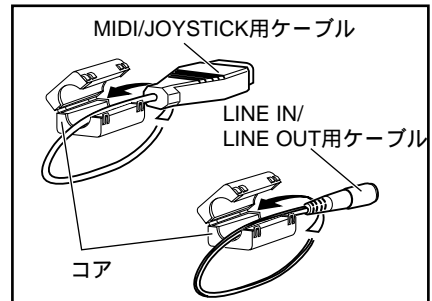
2

コアの取り付け

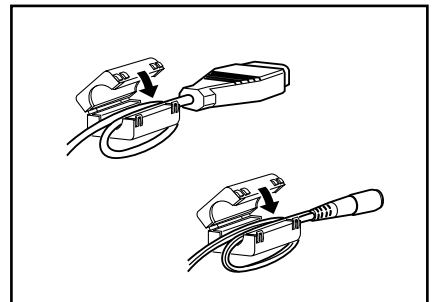
本パソコンに取り付けられているサウンドカードは、マイク端子、SPK OUT 端子、LINE IN/OUT 端子、MIDI/JOYSTICK 端子を備えています。これらの端子に市販のオーディオ用ケーブルやジョイスティックなどを接続するときは、不要電波の放射を軽減するために、添付のコアをケーブルに取り付けてください（SPK OUT 端子、マイク端子に接続する本体添付のケーブルには、あらかじめコアが取り付けられています）。

コアの取り付けかたは、次のとおりです。本パソコンの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた状態で作業してください。

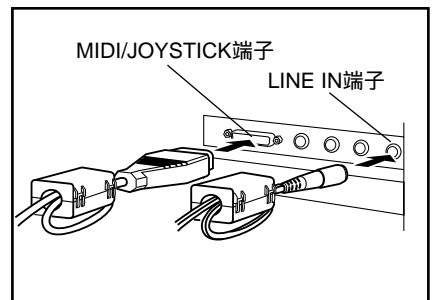
- 1 ケーブルのコネクタのすぐうしろで、コアにケーブルを1回巻き付けます。



- 2 コアを閉じます。



- 3 ケーブルを端子に接続します。



重要

コアでケーブルをはさまないようにしてください

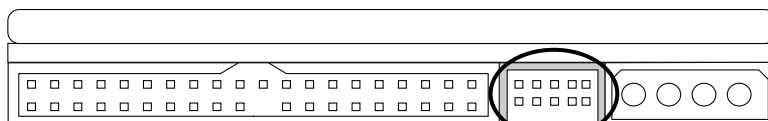
コアを閉じるときに、コアでケーブルをはさまないように、注意してください。

3

内蔵ドライブのジャンパ設定

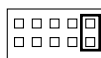
本パソコンのご購入時には、内蔵ドライブのジャンパ設定は次のようになっています。

- 内蔵ハードディスク

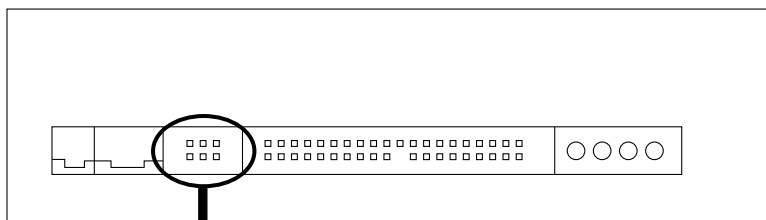


(内蔵ハードディスク背面)

ケーブルセレクト
(ご購入時の設定)

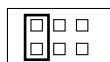


- CD-R/RW ドライブ



(CD-R/RWドライブ背面)

ケーブルセレクト
(ご購入時の設定)



4



その他の注意事項

IDE デバイスを増設するときの注意

IDEセカンダリのマスタに初めから接続されていたCD-R/RWドライブを、セカンダリのスレーブに接続し直すと、次のようなことが起こる場合があります。

- 接続したデバイスが認識されない。
- デバイスマネージャで、接続したデバイスのDMAの設定変更を行い再起動すると、DMAの設定が取り消される。

取り付ける前に、必ず以下の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「CD-ROM」の  をクリックし、「SONY CD-RW CRX100E」をクリックします。
- 4 「削除」をクリックします。
- 5 「警告: このデバイスをシステムから削除しようとしています。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 7 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンの電源が切れます。
- 8 増設するデバイスを本パソコンに取り付けます。

復電機能をお使いになるうえでの注意

BIOS セットアップの Boot (●▶P.133) メニューで、After Power Failure を「Last State」に設定すると、停電などからの復旧時に自動的にパソコンの電源を入れることができます(復電機能)。本機能をお使いになる場合は、次のことにご注意ください。

- 本パソコンを ACPI 機能 (●▶P.182) でお使いの場合、正常に電源を切ったあとでも停電から復旧したとき、または電源プラグを差し込んだり抜いたりしたときに、自動的にパソコンの電源が入ることがあります。

復電機能をお使いになる場合は、本パソコンを APM モードに設定したままお使いください。

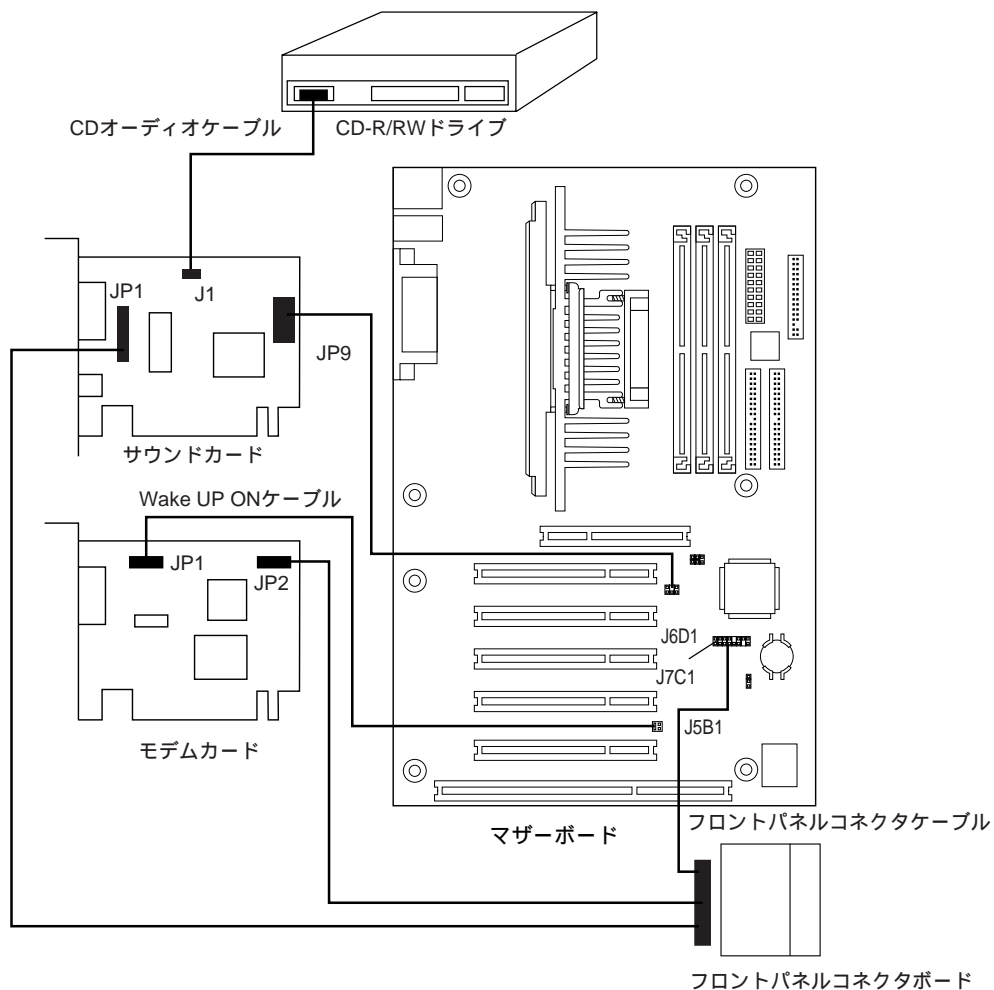
- 本パソコンの電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ったあとは、停電から復旧したとき、または電源プラグを差し込んだり抜いたりしたときに、自動的にパソコンの電源が入ることがあります。

復電機能をお使いになっているときは、電源スイッチで強制的に電源を切らないようにしてください。

BIOS セットアップについて詳しくは、「第 3 章 BIOS セットアップ」(●▶P.107) をご覧ください。

ケーブルを接続し直すときの注意

本パソコンに標準搭載されているFAX/ボイスモデムカード、サウンドカード、フロントパネルコネクタボードに接続されているケーブルを取り外した場合は、次の図をご覧になり、正しく接続し直してください。正しく接続しないと、本パソコンが故障する原因となることがあります。



フロントパネルコネクタケーブルが外れていると、Windows98で不明なデバイスが認識される場合があります。また、サウンド機能が使えなくなる場合があります。

市販の MIDI 機器を接続するには

本パソコンには、背面に MIDI 機器を接続するための端子 (MIDI/JOYSTICK 端子 ●▶P.4) があります。この端子と MIDI 機器とをケーブルで接続します。

接続には MIDI/JOYSTICK 変換ケーブルが必要です。別途ご購入ください。

MIDI 機器との接続について詳しくは、MIDI 機器のマニュアルをご覧ください。

ACPIについて

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ただし、ACPI 機能に設定した場合には、下記のような注意事項があります。ご購入時の設定は APM 機能となっており、そのままお使いいただくことを強くお勧めします。

ACPI 機能をお使いになる場合は、下記の注意事項を十分ご確認ください。ACPI 機能へ設定を変更する場合は、設定を正しく行わないと Windows98 が起動しなくなる場合があります。十分ご注意ください。

重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows98 の ACPI 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

拡張カード、オプション機器は ACPI に対応している必要があります

ACPI 機能は Windows98 がパソコン全体の電力を管理する機能であるため、パソコンに接続されているすべての拡張カードおよびオプション機器は、ACPI 機能に対応している必要があります。ACPI 機能に対応していない拡張カード、またはオプション機器を接続して使用する場合には、APM 機能のままお使いください。ACPI 機能に設定して、ACPI 機能に対応していない拡張カードまたはオプション機器を接続すると、拡張カードまたはオプション機器が使用できない、省電力モードから復帰しない、などの不具合が発生する場合があります。

なお、お使いになる拡張カードまたはオプション機器によっては、デバイスドライバで ACPI 機能に対応できるものもあります。


詳しくは、拡張カードやオプション機器のマニュアルをご覧ください。

APM 機能に戻すためには、再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります

ハードディスク内の Windows98 を残したまま、APM 機能へ設定を戻すことはできません。APM 機能へ設定を戻すには、**⑥**『パソコンをふりだしにもどす本』をご覧ください。ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

ACPI に切り替えた直後は電源スイッチを押すと、電源が切れます

電源スイッチでスタンバイへの切り替えを行う場合は、以下の手順で設定を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (電源の管理) をクリックし「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にします。

IRQ9 は ACPI 機能で使われます

システムリソースの「IRQ9」を「ACPI バスで使用されている SCI IRQ」が使用しますので、拡張カードなどをお使いの場合は、リソースの重複にご注意ください。

デバイスマネージャから拡張カードの情報を削除すると、再起動することがあります

拡張カードを使わない場合は、デバイスマネージャから削除せず、本パソコンの電源を切った後に、拡張カードを取り外してください。

最新情報を入手するには

ACPI 機能に関する最新の注意事項については、富士通インターネット情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>) に掲載していますので、あわせてご確認ください。

Windows 98 の ACPI 機能を設定する

■ 必要なものを用意する ■

ACPI の設定には、本書のほかに以下のものがが必要です。

- ⑥『パソコンをふりだしにもどす本』
- ①『取扱説明書』
- ④「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」
- ⑨「アプリケーション CD」
- ⑨「リカバリ CD-ROM」

■ ACPI 切り替えプログラムを使う ■

いったん ACPI 機能に切り替えると、APM 機能に戻すには、増設したオプション機器（拡張カードやプリンタ、スキャナなど）を取り外し、作成したデータを保存して、再びハードディスク（C ドライブ）をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項を再度確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、次の操作を行ってください。

- 1 ⑥『パソコンをふりだしにもどす本』、①『取扱説明書』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。
ご購入後に増設されたオプション機器（拡張カード類やプリンタ、スキャナなど）は全て取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。
また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。
- 2 本パソコンの電源を入れます。
- 3 ⑨「アプリケーション CD」を CD-R/RW ドライブにセットします。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥chgacpi¥chgacpi.exe`
- e には、お使いの CD-R/RW ドライブ名を入力してください。
「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「ACPI モードに設定する」の をクリックし、 にします。
- 8 「次へ」をクリックします。
- 9 「完了」をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 10 「次へ」をクリックします。
- 11 「次へ」をクリックします。
- 12 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 13 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 14 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。
- 15 「完了」をクリックします。

- 16 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
Windows98が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。


アドバイス

メッセージが表示されたら

- 「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- 「Windows98のCD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、c:\windows\options\cabsと入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

すべての検出が終了すると、「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されます。

- 17 「はい」をクリックします。

- 18 本パソコンが再起動したら、CD-R/RWドライブから「アプリケーションCD」を取り出します。

- 19 ACPI機能に設定されたことを確認するため、電源スイッチを押します。
自動的に電源切断処理が行われ、Windows98が終了すれば、ACPI機能が正常に働いています。



- 20 電源が切れたら、10秒ほど待って、もう一度本パソコンの電源を入れます。

アドバイス








「AUV」のメッセージが表示されたら

「AUV」ウィンドウが表示された場合は、「終了」をクリックしてください。



■ 画面の設定をする ■


- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color(16ビット)」に設定します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの (画面) をクリックします。
- 7 「設定」タブの「画面の領域」と「色」を設定します。
ご購入時の設定値は、「画面の領域」が「1024 × 768ピクセル」、「色」が「True Color(32ビット)」です。
- 8 「OK」をクリックします。
- 9 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
- 10 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

■ 3 モードフロッピードライブを再インストールする ■

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム) をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の をクリックします。
- 3 「Fujitsu 3-mode Floppy(FMVSeries)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 10 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 11 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 12 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 13  「アプリケーション CD」を CD-R/RW ドライブにセットします。
- 14 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥3mode
- e には、お使いの CD-R/RW ドライブ名を入力してください。
- 15 「次へ」をクリックします。
- 16 「完了」をクリックします。
ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 17 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 18 本パソコンが再起動したら、CD-R/RW ドライブから 「アプリケーション CD」を取り出します。

■ 通信ポート (COM2) を設定する ■

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム) をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし「ポート (COM/LPT)」の をクリックします。
- 3 「通信ポート (COM2)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「通信ポート (COM2) のプロパティ」ウィンドウが開きます。

- 4 「全般」タブをクリックします。
- 5 「デバイスの使用」の「このハードウェア プロファイルで使用不可にする」の をクリックし、 にします。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 「閉じる」をクリックします。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
- 10 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 11 「デバイスマネージャ」タブをクリックして、「モデム」の をクリックします。
- 12 「FMV-FX53Z5」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 13 「OK」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 14 「閉じる」をクリックします。
「再起動しますか?」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックします。
- 15 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 16 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

これで ACPI 機能の設定は終了です。

このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

索引

記号

109 キーボード	8
2DD フロッピーディスク	22
2HD フロッピーディスク	22
3 モードドライブ	22

A

ACPI	182
Administrator Password	138
Advanced	117
AGP	56
AGP スロット	7
Alt キー	8
Application キー	8
ATAPI	6

B

Back space キー	8
BIOS セットアップ	108
- の設定時に使う各キーの役割	111
- の設定を変更する	110
- の操作のしかた	109
- の変更内容を取り消す	111
- メニューの詳細	115
- を起動する	109
- をご購入時の設定に戻す	113
- を終了する	112
BIOS メッセージ	145
Boot	133
BUSY ランプ	2

C

Caps Lock 英数キー	8
CD-R/RW ドライブ	3, 6
- 仕様	155
CD-ROM	25
- が取り出せないとき	27
- をセットする	26
- を取り出す	27

CMOS RAM	108
- の内容を消去する	143
CPU	7
Ctrl キー	8

D

Delete キー	9
DIMM	47
DRQ (DMA 要求)	59, 157

E

ECC	47
EJECT ボタン	3
End キー	9
Enter キー	9
ESCD	118
Esc キー	8
Exit	136

F

FAX / ボイスモデムカード	55, 181
- 仕様	153
F キー	8

H

Home キー	9
---------------	---

I

I/O ポートアドレス	59, 157
IDE	6, 67
Insert キー	8
IRQ (割り込み要求)	59, 156
ISA	56
ISA 拡張カード	56, 58
ISA スロット	7

J

J7B1 ジャンプスイッチ	7, 140
---------------------	--------

L

LAN カード	55
LINE IN 端子	5
LINE OUT 端子	5
LINE 端子	5, 162

M

Main	115
Maintenance	137
MB	22

MIDI/JOYSTICK 端子	4, 162
MIDI 機器	181
MO	101
MO ドライブ	101
MPEG 再生カード	56
MPEG チューナーカード	56

N

Num Lock キー	9
-------------------	---

O

On Modem Ring コネクタ	7
--------------------------	---

P

Page Down キー	9
Page Up キー	9
Pause キー	9
PC/AT 互換機	33
PCI	56
PCI 拡張カード	56, 58
PCI スロット	7
PHONE 端子	5, 162
Plug&Play	57
PnP	57
Power	130
Print Screen キー	8

S

Safe モード	167
- で Windows98 を起動する	167
Scroll Lock キー	8
SCSI	67, 101
SCSI カード	55, 69
SCSI ケーブル	69
SDRAM	47
Security	129
Shift キー	8
SPD	47
SPK OUT 端子	4

T

TA	103
TWAIN	102

U

Ultra DMA/33	78
USB	3
USB 機器	104
USB コネクタ	2, 4, 161
User Password	138

W

Windows キー	8
------------------	---

ア

アウトレット	4
アッパーカバー	
- を取り付ける	43
- を取り外す	42

イ

インジケータ	9
インストール	33
インレット	4

オ

お手入れ	28
オプション機器	32, 101
音量つまみ	18
音量ボリューム	3, 17
音量を調節する	17

カ

カーソルキー	9
解像度	151
書き込み禁止タブ	24
拡張カード	54
- のドライバをインストールする	63
- を増設する	54
- を取り付ける	60
拡張スロット	6, 56, 60
各部の名称と働き	2

キ

キーボード	8
- のお手入れ	28
キーボードコネクタ	4, 162
強制終了できないとき	14

ク

空白キー	8
------------	---

ケ

ケーブル	33, 163, 181
ケーブルセレクト	78

コ

コア	178
工具	34
コネクタのピン配列と信号名	161

サ

サイドカバー	
- を取り付ける	44
- を取り外す	40
サウンドカード	181
- 仕様	154
サウンドドライバをインストールする	171

シ

システムバスクロック	47
ジャンプスイッチ	140
ジャンプ設定	179
終端抵抗	69
終了	12
仕様一覧	150
シリアルコネクタ	4, 161

ス

スキャナ	102
スタンバイ	14
スピーカー	16
- から音が聞こえないとき	19
- 仕様	154
- の音量を調節する	17
スペースキー	8
スレーブ	78
スロットカバー	61

セ

セカンダリ IDE コネクタ	7
セットする	
- CD-ROM	26
- フロッピーディスク	24
接続する	
- プリンタ	37

ソ

増設する	
- 拡張カード	54
- ハードディスク	65
- メモリ	46
増設内蔵ハードディスクスロット	6
外付けハードディスク	69
- を取り付ける	80

タ

ターミナルアダプタ	103
ターミネータ	69

チ

チルトフット	9
--------	---

ツ

通風孔	3, 5
-----	------

テ

ディスプレイコネクタ	4, 161
ディスプレイドライバをインストールする	167
ディスプレイのお手入れ	28
デバイス	160
テンキー	9
電源	10
- を入れる	10
- を切る	12
電源スイッチ	3, 14
電源ユニット	6
電源ランプ	3

ト

ドライバ	33
取り出す	
- CD-ROM	27
- フロッピーディスク	24
取り付ける	
- アッパーカバー	43
- 拡張カード	60
- サイドカバー	44
- 外付けハードディスク	80
- 内蔵 SCSI オプション	98
- 内蔵ハードディスク	71
- ファイルスロットオプション	94
- フロッピーディスクドライブ	95
- フロントパネル	43
- 本体カバー	40
- メモリ	49
取り外す	
- アッパーカバー	42
- サイドカバー	40
- フロントパネル	42
- 本体カバー	40
トレブル	16

ナ

内蔵 SCSI オプション	98
- を取り付ける	98
内蔵ドライブのジャンプ設定	179

内蔵ハードディスク	6, 69
- を取り付ける	71

ハ

ハードディスク	65
- 増設時のドライブ名の割り当て	89
- の領域を削除する	88
- の領域を設定する	83
- を増設する	65
- をフォーマットする	90
ハードディスクアクセス表示ランプ	3
ハーフサイズ	56
バス	16
パスワード	138
- 設定後のパソコンの起動	139
- の種類	138
- を削除する	142
- を設定する	138
- を使う	138
- を変更する	142
- を忘れてしまったら	140
パソコン本体	2
- 仕様	150
- のお手入れ	28
発色数	151
バッテリー	7
パラレルコネクタ	5, 161

ヒ

光磁気ディスク	101
ビデオキャプチャカード	55

フ

ファイルスロット	3
- にオプション機器を取り付ける	94
ファイルスロットパネル	98
フィーチャーコネクタ	56
フォトタッチソフト	102
プライマリ IDE コネクタ	7
プラグアンドプレイ	57
プラスのドライバー	34
プリンタ	35
- を接続する	37
プリンタケーブル	36
フルサイズ	56
フロッピーコネクタ	7
フロッピーディスク	22
- のデータを守る	24
- をセットする	24
- を取り出す	24

フロッピーディスクアクセス表示ランプ	2
フロッピーディスクドライブ	2, 6
- のお手入れ	30
- を取り付ける	95
フロッピーディスク取り出しボタン	3
フロント USB コネクタ	7
フロントパネル	
- を取り付ける	43
- を取り外す	42
フロントパネルコネクタボード	6, 181

ヘ

ヘッドホン	19
- から音が聞こえないとき	20
ヘッドホン端子	2
ヘッドホンボリューム	2

ホ

本体カバー	40
-------------	----

マ

マイク	21
マイク端子	2, 5
マウスコネクタ	4, 9, 162
マウスのお手入れ	28
マザーボード	7
マスター	78
マルチモニタ機能	104

ミ

ミュート	18
------------	----

メ

メモリ	46
- の組み合わせ	48
- の取り付け場所	47
- の持ちかた	50
- 容量の数値が増えていないとき	51
- 容量を確認する	51
- を交換する	52
- を取り付ける	49
- を増やす	46
メモリスロット	6, 7, 47
メモリスロット電源供給ランプ	7

モ

モデムカード	55
--------------	----

リ

リセットスイッチ	3
リソース	59, 156
- 一覧	156
- を解放する	158
領域	
- を削除する	88
- を設定する	83

Microsoft、Windows、WindowsNT、MS、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMXは、米国インテル社の登録商標です。

K56flexはLucent Technologies社、Rockwell International社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Diamond Multimedia Systems, Inc Copyright© 1996

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

FMV 本体 & オプションガイド

B3FH-4951-01-00

発行日 1999年3月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9902-1

ここでは、マニュアルの主な内容を紹介しています。

初めての方は...

『かるがるパソコン入門』

- ・基本の操作を覚える
- ・文字を打つ



CD-ROMが
付いています



『お役立ちシート』

- ・お手元に置いてお使いください。



FMVを使いこなそう!

『まるごとEnjoy FMV』

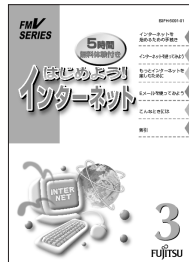
- ・FMVでできること
- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る



『はじめよう! インターネット』

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す

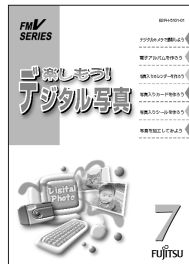
5時間
無料体験付き



『楽しもう! デジタル写真』

- ・デジタルカメラで写真を撮る
- ・写真でカレンダーを作る
- ・電子アルバムを作る

次の機種には添付されません。
FMV-DESKPOWER MIX36L / MIX367 / MIX365 / TIX507
FMV-BIBLO NEIX26 / NSIX26X / MFX26



パソコンの取り扱い

『FMV 本体&オプションガイド』

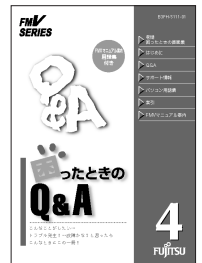
- ・各部の名前を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす
- ・ハードディスクを増やす



トラブル解決!

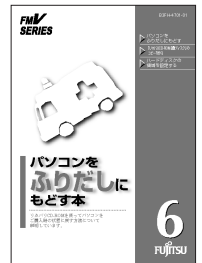
『困ったときのQ&A』

- ・困ったときの画面集
- ・画面の設定を変える
- ・サポート情報
- ・パソコン用語集



『パソコンをふりだしにもどす本』

- ・買ってきた状態にもどす



パソコンのしくみを知る

『パソコンがおもしろくなる本』

- ・パソコンのしくみを知る
- ・使いかたのコツをつかむ



T4988618872324

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。